

過去コク 死去キョ 逝去キョ 薨去キョ

【台】 一八四頁の台を見よ。

【弁】 三五八頁の弁を見よ。

【弘】 三六一頁の弘を見よ。

【矣】 七二七頁の矣を見よ。

【怠】 三三三頁の怠を見よ。

【畚】 六九〇頁の畚を見よ。

【能】 八四六頁の能を見よ。

【影】 一一六七頁の影を見よ。

【鬼】 一一七〇頁の鬼を見よ。

【參】 九畫

【參】 九畫

【參】 九畫

冬

漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【冬】 漢吳 三に通ず。みつ

【參事會】 サシキカイ 自治體の諸員より或り府・縣・市内の事件に付協議する機關、府縣參事會、市參事會。

【參政權】 サシキケン 立法部の議員となりて國政に參與する國民の權利。

【參觀交代】 サシキカウダイ 徳川時代諸侯が隔年交替にて江戸に上り勤めし制度。

【參謀總長】 サシキボウウチヤウ 軍事上の大權に基く國防用兵のことを參畫掌理し之を實施する爲に陸軍大臣に移轉する機關にして天皇に直屬する。

【推參】 サシキ 降參 サシキ 持參 サシキ 代參 サシキ

【復】 は重なる意にて下地あることを

【還】 は廻つてきてまたの義。

【又小作】 マタコサク 小作人の借りたる土地を更らに借りて小作すること。

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

【又】 漢サ 吳セ 一、こまぬく

又部

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

【又】 漢イウ 一、また

又部 又 (一一二畫)

又・及・友

一七七

友

漢イウ 一、とも、と

【友人】 イウジン ともだち、朋友。

【友弟】 イウテイ 兄弟の睦じきをいふ。

【友邦】 イウハウ 我邦と親交ある國。

【友悌】 イウテイ 兄弟の仲よきこと。

【友朋】 イウペウ とも、ともさなる人。

【友情】 イウジヤウ 友だちに對する情誼。

【友愛】 イウアイ 兄弟友人間の愛情。

【友誼】 イウギ 友誼のよしみ

【友移】 イウボク 友情厚く且兄弟仲がよいと

【友禪】 イウゼン 染模樣

【友禪】 イウゼン 染模樣

【友引】 トモビキ 陰陽師

【友達】 トモダチ とも、朋友、友人。

【益友】 イキユウ 好友

【師友】 シユウ 親友

【朋友】 トモトモ 親友

【畏友】 イウユウ 善友

【畏友】 イウユウ 善友

【畏友】 イウユウ 善友

【畏友】 イウユウ 善友



(禪友)

【受戒】ジユカイ 佛教の戒を受けて佛門に入ること。②人の訓戒をうける。
 【受取】ジユレユ 受取る、受領、落手。
 【受命】ジユノイ ①申しつけを受く。②天命を受けて國の統治者となす。③受命の君の他の首に服する敬稱。

【受信】ジユシ 手紙・電信などを受ける。
 【受胎】ジユタイ みもち、妊娠。
 【受納】ジユナフ 物を受けをさむ、領收。
 【受託】ジユタク 依頼を受くること。
 【受電】ジユデン 電信・電話等を受くること。
 【受授】ジユジュ うけわたしすること。
 【受理】ジユリ 官廳が申請・訴願などを受けけること、とりあげる。

【受領】ジユリヤウ うけとる。「ること。
 【受精】ジユセイ 卵子が精蟲と相合して生ずること。
 【受賞】ジユシヤウ 賞を受くること。
 【受寫】ジユシヤウ 電送寫眞を受くること。
 【受諾】ジユダク 引受ける、承諾すること。
 【受禪】ジユゼン 帝位をうけつぐこと。
 【受驗】ジユケン 試験を受くること。
 【受難】ジユナン 困難なる機會に遭遇すること。
 【受入】ジユイレ 金銭又は物品を收入支出する計算上收入又は貸方をいふ。
 【受付】ウケツク ①會社・官署などの玄関番。②承認してものをうける。③願・届・申請

訴等を受け付けること。「て引きとる。
 【受出】ウケダシ ①出し入れ。②價をつぐのひ。③受持。④ウケモチ。うけもつ、擔當すること。
 【受話機】ジユワキ 電話・ラヂオを聴く機械。レシーヴァー。
 【受信機】ジユシキ 電信をうける機械。
 授受ジュジュ 拜受ハイ 報受ハウ 心受シン
 容受ヨウ 感受カン 接受ケツ 傳受デン

七畫

【叙・敘・叙字】【叙】

漢シヨ 吳ツ はしがき(序)②ついで、順序をつける。③いとぐち(端緒)④ついで(次第)⑤のぶ(述)⑥位を授ける。
 【叙任】ジヨニン 位を叙し官に任すること。
 【叙次】ジヨジ ついで、次第。
 【叙位】ジヨキ 位に叙すること。「す。
 【叙事】ジヨジ 事實をありのまゝにのべ記。
 【叙述】ジヨジユツ 次第を追ひて述ぶこと。
 【叙説】ジヨセツ 述べて説きあかす。
 【叙景】ジヨケイ 見たまゝの景色を文に書きしるすこと。①叙景詩。
 【叙勳】ジヨクン 勳等に叙し勳章を下賜す。
 【叙爵】ジヨクワク 爵位に叙せらるゝこと。

【叢】

漢ソウ ①あつむらがる。②くさむら。③わづらはし。
 【叢生】ソウセイ むらがり生えるさま。
 【叢林】ソウリン 僧徒の群居してゐるところ。
 【叢書】ソウショ 同一種類のものを集めて編纂したる書。①漢文叢書。
 【叢雲】ソウウン ①むらくも。②音楽の名。
 【叢談】ソウタン 多くの物語を集めたる物。
 【叢積】ソウセキ あつまりつむ。
 【叢莽】ソウマウ しげつたくさむら。
 【叢衆】ソウシュウ むらがりあつまること。
 【叢雲劍】ムラクモノツルギ 三種の神器の一、草薙の劍の舊稱、熱田神宮に奉祀さる。幽薙ユウテイ 芳薙ホウテイ 蘭薙ランテイ 草薙ソウテイ



口部

漢コウ ①くち(五) 吳ク 官の一(一)あな(孔穴)ではいりぐち、こぐち。②ひとかず(人口)③くちにす、いふ。④くちづ

【叙事文】ジヨジブン 見聞せしことをそのまゝ、順序次第を追ひて書く文章のこと。
 【叙事詩】ジヨジシ 事實をありのまゝに評論を加へずして記したる詩。
 【叙情詩】ジヨジヤウシ 感情を主としたる詩。
 【叛】ハン 漢ハン ①そむく(反、畔) 吳ホン 通ず。②はむかふ、てむかふ。③むほん。
 【同訓異義】ドウクンイギ そむく。
 【乖】ガイ はさからひひそむく義。
 【倍】バイ はうらはらの義。
 【反】ハン はひつくり返つてそむく、謀叛。
 【叛】ハン は離叛の意。
 【背】ハイ は倍に同じ。
 【負】フ は恩にそむき徳を忘るゝの義。
 【叛逆】ハンギャク 主にそむくこと。
 【叛徒】ハンテ むほんを起したる人々。
 【叛亂】ハンラン むほんの騒動。
 【段】ダン 四九頁の段を見よ。
 【叟】ソウ 漢ソウ シウ

【桑】ソウ としより、おきな(老人の尊稱) 五二八頁の桑を見よ。
 【隻】シク 一一一二頁の隻を見よ。

十四畫

【叡】

漢エイ 天子の事に言ふ。①かしこし、さとし。②天子の事に言ふ。③かしこし、さとし。
 【叡才】エイサイ 勝れたる性質。
 【叡旨】エイシ 天子のおほせ。
 【叡明】エイメイ 事理に勝れて明らかかなり。
 【叡哲】エイテツ さかしく賢い。
 【叡感】エイカン 天子の感じ給ふをいふ。
 【叡聖】エイセイ すぐれてかしこし。①天子の賢明にわたらせらるゝをいふ。
 【叡算】エイサン 天皇の御年を敬稱す。
 【叡聞】エイブン 天子の御耳に入ること。
 【叡慮】エイリョ 天子の思召、宸慮。
 【叡覽】エイラン 天子が御覽になること。

十五畫

【變】ヘン 六四八頁の變を見よ。

十六畫

又部 (十三一十六畫)

桑・隻・叡・變

口部

俸祿 口前のみで實なきこと。
 【口語】コウゴ 日常のことば、文語に對して口語體の文章などをいふ。
 【口調】コウテウ ことばの調子。ものゝいひやう。
 【口論】コウロン ①首を以て人と言ひあらしむ。②議論をたふかはず。
 【口數】コウスウ ①物の數。②人の數、人口。
 【口錢】コウスヅ ①人頭税。②賣買の仲立をなせし手数料。「言葉のみにて實なし」。
 【口頭】コウトウ 言語にて述べ、くちさき。
 【口辯】コウベン くちまへの達者なこと。
 【口入】コウイレ ①當方の主張を先方に傳ふ。②奉公人などの周旋、世話。
 【口火】コウカ ①銃の火蓋に用ゐる火。②物事の誘導となるべきものをいふ。
 【口達】コウダツ 口頭で言ひ渡す。
 【口説】コウゼツ ①いさかひ、いひあひ。②痴話喧嘩。③こうせつと讀むは誤り。
 【口授】コウジュ ①くちづから授く。②直接に教ふること。③こうじゆと讀むは誤り。
 【口火鯛】コウカダイ 硬鱗類の魚で體形はまだひに類し黄綠色で脊鰭の刺部と臀部は赤く口中は紅色である。



(鯛火口)

【口耳之學】コウジノガク みみがくもん、ききかじりの學問。「で述べ答へる試験」。
 【口頭試験】コウトウシケン 試験を筆答せず口にて答へる試験。
 【口頭辯論】コウトウベンロン 訴訟當時者が法廷に於て口頭を以て申立・申請・陳述・其の他攻撃・防禦・抗辯等を爲すこと。
 【口頭審問】コウトウシンモン 審判官が訴訟當事者に面接し口頭にて推問審理を爲すこと、口頭審理。
 逸口コウ 開口コウ 讒口コウ 虎口コウ
 缺口コウ 黙口コウ 絶口コウ 雞口コウ
 朱口コウ 辯口コウ 戸口コウ 糊口コウ
 絨口コウ 襟口コウ 閉口コウ 港口コウ
 坑口コウ 河口コウ 火口コウ 人口コウ

【中】二七頁の中を見よ。

【古】コ 漢 ①いにしへ。②むかし(昔)。③はじめ(始)。④もと(元)。⑤ひさし(久)。
 【古】コ 漢 ①いにしへ。②むかし(昔)。③はじめ(始)。④もと(元)。⑤ひさし(久)。
 【同訓異義】ふるし 古・舊・陳等の用法は一〇五頁の陳を見よ。

【古人】コジン ①昔の人。②死せし人、故人。
 【古刀】コタウ むかしの刀。
 【古今】コキン ①昔と今。②過去と現在。
 【古文】コブン ①昔風の文章のかきぶり。②古き時代に行はれし漢字。
 【古木】コボク 年數をへたる木。
 【古本】コポン ふるほん、ふるい書物。
 【古代】コダイ 遠き昔の時代。「人の尊稱」。
 【古老】コラウ ①昔の事を知れる老人。②老。③古びた有様。④年をへた趣。
 【古式】コシキ 昔風の法式。「れた言語」。
 【古言】コゴン ①古人の言。②古代使用せらるる言。
 【古里】コリ 故郷のこと、生地。
 【古典】コテン ①古式。②古き時代の文書。
 【古來】コライ ①むかしよりの意。②する傳説。
 【古事】コジ ①古代にありし事。②物事に關する事。
 【古物】コブツ 昔作りし物、ふるもの。
 【古法】コハフ 昔のかた。①昔の法律。
 【古風】コフウ ①昔のおもむき。②古體の詩。
 【古城】コジヤウ ①古き時代の城。②昔の城。
 【古往】コウワ ①むかしといふに同じ。
 【古昔】コセキ 前に同じ。
 【古金】コキン 昔の貨幣、小判・大判の類。
 【古參】コサン 前より居る者、先輩。
 【古稀】コキ ①年輪七十歳をいふ、人生七十は古來稀なりの語より起る。



(僕倫古)

【古墳】コフン 古い墓、古い墓所。
 【古倫僕】コロンボク 阿弗利加の産、印度地方にて栽培せられ莖は蔓性にして葉は掌狀に分裂し花は蝶形の單性花を開き雌雄異株で根を古倫僕根と稱する。
 【古戰場】コセンヂヤウ 昔戦争のありし土地。
 【古典主義】コランシユギ 形式を重んずる古代の典型を模倣せんとする主義。
 千古コキ 稽古コキ 先古コキ 太古コキ
 懷古コキ 往古コキ 近古コキ 曠古コキ

【句】ク 漢 コウ
 【句】ク 漢 コウ
 句と句の用法は一五五頁の句を見よ。
 文章又は言語のいくぎり。①とどまる(止)。②まがる(曲)。③かまざる(屈)。④短に同じ(方形)。⑤あたる(當)。⑥かまはる(拘)。⑦弓をひきしぼる、やごろ。⑧國訓(發句又俳句の略)。
 【句法】クハフ 句の組立法。
 【句格】クカク ①句の作り方。②語句の體格。
 【句集】クシツ 俳諧を集め載せた書物。
 【句碑】クヒ 俳句をほりつけた石碑。

【句點】クテン 句の終りにつける句讀點。
 【句題】クタイ 和歌又は俳句の題目。
 【句讀】クツウ 文章の意味の切れる所を句といひ、一句の中で一寸言葉の切れる所を讀といふ、普通に漢文では「。」又は「、」符を用ゐて之を示し、邦文では句に「。」讀に「、」符を用ゐて讀みきる。①くどくと讀むは誤り。
 【句配】コウバイ ①かたむきの度合ひ、傾斜。
 【句欄】コウラン ①欄干、折れ曲つた造りかたのてすり。②新聞雜誌などの俳句の欄。

【叩】コウ 漢 コウ
 【叩】コウ 漢 コウ
 つ。①額く。②ひかふ(控)。③とふ(諮)。④ひらく(發)。
 【叩頭】コウトウ ①頭を地につく。②深く謝す。
 【美句】コウキ 難句コウ
 【連句】コウレン 轉句コウ
 【好句】コウカウ 佳句コウ 死句コウ 章句コウ

【只】シ 漢 シ
 【只】シ 漢 シ
 ①のみ。②の意を表す語。③語の終りたる時用ゐる助辭。
 【同訓異義】ただ 只・音・唯其他の用法は一〇三頁の唯を見よ。

【召】セウ 漢 セウ
 【召】セウ 漢 セウ
 ①めす。②よぶ(呼)。③まねく(招)。④姓。
 【召見】セウケン よびよせて逢ふ、引見。
 【召致】セウチ ①めし寄す、呼び出す。「しむ」。②召しあつむ、招致し集合せしむ。
 【召喚】セウケン よびだす、人を一定の日時・場所に出現せしむる官公署の命令。
 【召募】セウボク ①めしあつむ。「る、召集」。
 【召發】セウハツ 兵士又は人夫をよびあつめしむる命令。
 【召還】セウエン よびかへす。
 【召集令】セウシツレイ 歸休してゐる陸海軍の將士を召出す爲に發する命令狀。
 【召喚狀】セウケンジュウ 刑事事件に付き被告人を一定の日時及び場所に出頭せしむる爲め裁判所より發する書面、差紙。
 徵召セウ 採召セウ 聘召セウ 應召セウ

【叮】テイ 漢 テイ
 【叮】テイ 漢 テイ
 (懇) ①つぐ(告)。②ゆるす(許)。
 【叮嚀】テイネイ 丁寧の俗字。
 【可】カ 漢 カ
 【可】カ 漢 カ
 ①よし。②べし。③一通りよろしきこと。④かしづき、もり。⑤ばかり(許)ほど(程)。

【同訓異義】べし
【可】は肯ずる又許可するの意。
【合】は當に同じ。
【宜】はそうせよと判断する意。
【容】は可に稍や同じ。
【應】はなるべし、であらうの意。
【當】はさうなる筈の意、まさに何々すべしと反りよむ。
【須】はかくせよと求むるの意。
【可否】よしあし許すべきか許すべからざるか。「て原案を是認する。」
【可決】カケツ 同意して定める、會議に於
【可愛】カワイ めづべし、かはゆらし。
【可能】カノウ 我慢する意如何ぞよくせんやの意未だ必ずしも能くせずの意なし得る、よくする、力にかなふ。
【可憐】カレン かはゆらしあはれ。
【不可】カフコ よしあし、可否。
【可能性】カノウセイ 成し遂げ得る性質、又は其の傾向可能性がある。
【可燃性】カネンセイ もえる性質。
【可分債務】カブンサイム 法律上幾團にも分ちて辨済し得 債務。
【許可】カコ 裁可カコ 肯可カコ 不可カフ 適可カフ 認可カコ 允可カコ 許可カフ

【台】【臺】【台】漢吳
臺の略字として用ふるは誤りわれ、わが(予)よるこぶ(怡)やしなふ(養)三台は星の名始に通ず、ふく、さめはだ、轉じて老人の意つぐ(嗣)【台位】タイキ 三公の位、轉じて宰相。【台命】タイメイ 皇族方の命令三公の命令、轉じて目上の人の申渡を尊稱していふ。臺命と書くは誤り。
【台閣】タイカク 花のうてなど高樓天下の政治を行ふ所、内閣。「していふ。」
【台聞】タイブン 他人に聞かせることを尊稱
【台覽】タイラン 貴人が物を見る尊稱
【台嶺】タイレイ 支那の天台山の別名、我國

【史】【史】【史】漢吳
ふびと書記の官(ふみ(歴史、記録)したやく(屬官)飾ありて美し【史上】シヨウ 歴史のうへ。【史生】シセイ 我國の平安朝時代役所の文書を寫したる者の役名。【史官】シカン 歴史を編修する官吏。【史記】シキ 漢の司馬遷の作にして太古より漢の武帝までの歴史(百三十卷、本紀・表書・世家・列傳等に分かれてる)。【史略】シロク 歴史上のことばらを詠んだ詩
【史書】シショ 歴史の書物、史籍(書體)【史乘】シジョウ 歴史の書物。「の一、大家。【史料】シロウ 歴史編纂の参考材料。【史家】シカ 歴史を書く人。歴史上の事を評論する人。「のこれる物事。【史蹟】シセキ 歴史上の事蹟(歴史上に歴史上に記されたる事實。【史論】シロン 歴史に付ての評論又は論說
【史蹟】シゲク 歴史上の物語。【史學】シガク 歴史に關する學問の總稱。【史劇】シゲキ 歴史上の事柄を仕組んだ劇
家史シ 野史シ 神史シ 正史シ

侍史シ 詠史シ 外史シ 國史シ 女史シ 歴史シ 秘史シ 哀史シ
【右】【右】漢イウ ①みぎ ②たすく(助)みちびく(導)③すすむ(勸)④つよし(強)⑤たつとぶ(尙)
【同訓異義】たふとぶ 右・尊・尙其他の用法は三一二頁の尊を見よ。
【右方】ウハウ みぎの方。「方に渡すもの。」
【右契】ウケイ 手形・割符等の類にて相手
【右筆】ウヒツ 昔貴人に侍じて書き物をした役人。「時代の大學校。
【右學】ウガク 大夫の老人を養ふ處
【右弱】ウジュツ たく、輔佐す、又その者。
【右文】ウブン 文學を尙ぶ意、尙武の對。
【右券】ウケン 次に同じ。
【右府】ウフ 右大臣の唐名。
【右側】ウケガハ みぎのかは、右傍。
【右傾】ウケイ 左傾の對(議席の順序に右は政府黨、左は反對黨なるより政府黨に組すること)保守の傾向。
【右翼】ウヨク 横隊に並んだ時の右側。
【右黨】ウタク 議長席の右方に位置を占むる黨派、多く政府黨のことを云ふ。
【右大臣】ウダイシ 左大臣をたすけて政治

【叶】【協】【叶】漢吳 國訓か 願ひがとどく、一六六頁の協を見よ。
【号】【号】漢吳 九一四頁の號を見よ。
【司】【司】漢吳 つかさどる(掌)つかさ(職務)まもる(守)うかど(司令)シレイ 大元帥陛下直接の命令を傳ふる意、軍隊又は軍艦の指揮統率。【司法】シホフ 行政の對、既定の法律を事實上に適用する裁判所の所爲。
【司直】シチヨク 公直を司る裁判官のこと。
【司馬】シマ 土地軍事を掌つた周代の官名
【司令官】シレイカン 軍をさしづする人。
【司令部】シレイブ 旅團長・師團長・司令官の事務をとりあつかふ所。
【司令塔】シレイタ 軍艦の甲板にありて司

令官又は艦長などの號令を下す所。
【司法省】シホフシヨウ 内閣十一省の一、司法行政の事務を取扱ふ最高機關、司法大臣はその長官。
【司法權】シホフケン 司法の形式に依る統治權力の作用、法律を適用する權力。
【司令長官】シレイカン 鎮守府又は艦隊の最上の役、司令官の其上の長官。
【司法警察】シホフケイサツ 罪證を蒐集し犯人を捜索逮捕することを目的とする刑事裁判準備の行爲。「務を執る官吏。【司法警察官】シホフケイサツカン 司法警察事務を司る 諸司シヨ 大司シイ 宰司シイ

【台】【臺】【台】漢吳
臺の略字として用ふるは誤りわれ、わが(予)よるこぶ(怡)やしなふ(養)三台は星の名始に通ず、ふく、さめはだ、轉じて老人の意つぐ(嗣)【台位】タイキ 三公の位、轉じて宰相。【台命】タイメイ 皇族方の命令三公の命令、轉じて目上の人の申渡を尊稱していふ。臺命と書くは誤り。
【台閣】タイカク 花のうてなど高樓天下の政治を行ふ所、内閣。「していふ。」
【台聞】タイブン 他人に聞かせることを尊稱
【台覽】タイラン 貴人が物を見る尊稱
【台嶺】タイレイ 支那の天台山の別名、我國

【叱】【叱】漢シツ ①しかる(詞)せめる(い)か(怒)の(罵)どなる(い)さむ(諷)の(叱正)シツセイ 詩文などの添削をたのむ時に用ふる語。「氣を起する形容。【叱咤】シツカ ①怒氣を含みてしかる(勇)【叱呵】シツカ ①しかりとがむ。【叱責】シツセキ 過失を責めしかる。

【叫】【叫】漢吳 ①かます、むしるなどを編みて作りし袋、多く穀類を入れるに用ふ
【另】レイ ①わかる(分)②呉リヤウらく(割き開く)漢タウ ①みだりに(濫)②吳トウ ①むさぼる(貪)②かたぢけなし(辱)
【叫】【叫】漢吳 ①と讀むは誤り又俗に叫に作は誤り②さけぶ③な(泣號)④よぶ(呼)⑤大聲を發する貌

【叫喚】ケウケン ①わめきどなる ②罪業深き者の陥る八熱地獄の中の第四。
 【叫號】ケウガウ 大聲にさけぶこと。
 【叭】漢 ハツ ①こゑ(聲) ②口をらつば(喇叭)

【叱】漢 タツ 口をひら
 【叱字】吳 ケ くさま

【兄】一〇四頁の兄を見よ、

【加】一四六頁の加を見よ。

【占】一六八頁の占を見よ。

三畫

【各】漢 吳 ①おの／＼、カク それ／＼、なんぢら(汝等) ②いち／＼、めい／＼ ③思ひ／＼
 【各人】カクジン おの／＼の人、すべての人。
 【各地】カクチ それ／＼の地方。
 【各自】カクジ めい／＼、おの／＼。
 【各位】カクキ みな／＼さま、諸君、諸彦。
 【各室】カクシツ おの／＼の室、まごこと。

【各部】カクブ おの／＼の部分。
 【各員】カクイン めい／＼、各自。
 【各般】カクパン いろ／＼、萬般に同じ。
 【各個】カクコ 各自に同じ。
 【各項】カクカウ おの／＼の項目。
 【各國】カクコク くに／＼、世界各國。
 【各様】カクヤウ いろ／＼のありさま。
 【各種】カクシュ いろ／＼、種々様々。
 【各論】カクロン 別々に分ちてなす説明。

【合】漢 カフ ①あふ、はこ(盒) ②まじはる(交) ③やはらぐ(和) ④かさなる(重) ⑤とづ(閉) ⑥あつまる(集) ⑦ますめの名(一升の十分一) ⑧土地の面積の單位(一坪の十分一) ⑨當に同じ(まさに)
 【同訓異義】あう 合・遇・逢其他の用法は一〇四二頁の遇を見よ。
 【合一】ガフイツ ひとつになる。
 【合力】ガフリキョク ①力を合す ②援助すると
 【合切】ガフサイ 全部、のこらず、みんな。
 【合名】ガフメイ 名をつらね力を合す。
 【合同】ガフドウ 一つになる。一種。
 【合百】ガフヒヤク 米相場で行はれる賭博の【合羽】カフバ 外套の一種 圓雨合羽。

【合本】ガフベン 二冊以上の書物を綴り合せて一冊となすこと。
 【合判】ガフパン 數人相連りて判を合すこと 連判、連署。 「作りたる金。
 【合金】ガフキン 二種以上の金屬を合はせて【合作】ガフサツ 二人以上にて一つのものを作る、主として著作物などにいふ。
 【合祀】ガフシ 數個の神靈を同一の場所に合せまつる。 「法規に叶ふ。
 【合法】ガフハフ ①作法にかなふ ②道理又は【合併】ガフヘイ 二つ以上の物を合せて一つとなす、合同すること。
 【合奏】ガフソウ 種々の樂器を共にかなづる【合計】ガフケイ かぞへ合す、又その數。
 【合登】ガフケン 瓢を兩分したる杯、婚禮の杯を取かはす、結婚式を擧ぐる意。
 【合格】ガフカク 定められたる一定の資格にあてはまること、及第。
 【合唱】ガフシャウ 多人數が聲を合せて歌ふ【合理】ガフリ 道理にかなふ 圓合理的。
 【合掌】ガフシャウ 手を合す、手を合せ拜む。
 【合葬】ガフサウ あはせはうむる、同一の穴に二つ以上の尸を葬むること。
 【合算】ガフサン 合せて計算す、合計、しめ。
 【合資】ガフシ 資本を出し合ふ。
 【合意】ガフイ ①氣に入る ②心をあはす、

相談づく 圓合意心中。

【合著】ガフチヨ 合作に同じ。 「す。
 【合辦】ガフベン 資本を出し合ひて事業を起
 【合壁】ガフベキ きんじよとなり、近隣。
 【合戦】カウセン たまかひ、いくさ。
 【合點】ガフテン のみ込む、承知する。
 【合議】ガフギ ①相會して議す ②意見を述べ合ひて相談する ③二人以上の協議に依つて生じたるもの。
 【合歡】ガフクワン ①植物の名、ねむの木 ②相集りてよろこび合ふ。
 【合體】ガフタイ ①心の一致すること ②二個以上の物の合して一となること。
 【合口】アヒクチ ①物と物とのあはせめのこと ②鑄のない短刀、七首。
 【合性】アヒセイヤ ①男女の縁を干支又は五行に配して吉凶を定むる方法 ②互ひに意氣の投合する意。
 【合圖】アヒツ 暗號又は信號にて此方の意を他方に知らす方法。
 【合天井】ガフテンジャウ 寺院などに用ゐてゐる井桁の天井。 「決行する制度。
 【合議制】ガフギセイ 多數決を以て事を定め【合成物】ガフセイブツ 各別の所有者に屬する數個の動産が附著して一體となり毀損しなければ分離することが出来ない狀

態になつたこと。

【合歡木】ネムノキ 山野に自生する落葉喬木で葉は夕にしほみ朝にのび葉果を結ぶ。
 【合名會社】ガフメイカイシャ 相互に信用ある數人が資本を出し連帶無限の責任を負ひ商行為をする目的で設立する法人。
 【合資會社】ガフシカイシャ 無限責任を負ふ者と有限責任の社員が資本を出し商行為をする目的を以て設立する法人。
 【合瓣花冠】ガフベンカカン 花瓣の一部及は全部が互に合著して居る花冠。
 【合圍地境】ガフキチキヤウ 戒嚴の場合臨戰地境よりも嚴重に警戒する區域。
 【合從連衡】ガフシキウレンカウ 同盟の意。
 【合理的社會主義】ガフリテキシャクイシユギ 此の主義はマルクス・エングルス以前の社會主義である、科學的社會主義に對して此主義を理想的社會主義といふ。
 勸合ガフ 烏合ガフ 暗合ガフ 六合ガフ 化合ガフ 野合ガフ 鳩合ガフ 符合ガフ



(木歡合)



(冠花瓣合)

【吉】漢 キツ 俗字 吳 キチ ①よし、よろし ②さいはいはひ(幸) ③よろこばし(慶) ④ついたち(朔)
 【吉日】キツニチ よき日がら、めでたき日。
 【吉凶】キツキヨウ よろこびとわざはひ。
 【吉兆】キツテウ 慶ばしきしるし。
 【吉辰】キツシン 吉日に同じ。
 【吉例】キツレイ めでたきためし。
 【吉事】キツジ よき事、めでたきこと。
 【吉祥】キツシヤウ ①善きこと ②衛士の長。
 【吉報】キツバウ よきしらせ、めでたき便り。
 【吉相】キツサウ 目出度きしるし。
 【吉夢】キツム よい夢、めでたき夢。
 【吉瑞】キツズキ めでたきしるし、吉兆。
 【吉左右】キツサウ 吉報に同じ。
 【吉祥天女】キツシヤウテンニョウ 美女の佛、毘沙門天の妹のことをいふ。

【吊】三六〇頁の吊を見よ

【同。全。同】漢 トウ 吳 ドウ ①おなじ、ひとし(齊) ②ともにす(共) ③

【同輩】(ドウハイ) あつまる(聚)ともがら(輩)やはらぐ(和)通に同じ、とほる(周時代に諸侯が天子に會見せしむる)【同輩】同じもの、同等。「一の人。【同人】(ドウジン) ①一同の者、同志の人。【同工】(ドウコウ) 同じ樂工、同じ作者の意。【同上】(ドウジョウ) うへにおなじ、同前。【同土】(ドウツ) 他人の(に)同じ。【同文】(ドウブン) おなじ文字、おなじ文章。【同心】(ドウシン) ①江戸時代の與力の下の捕吏(心)一つにす(同心)【同穴】(ドウケツ) 死後同じ穴に葬られること【同化】(ドウカ) ①他を感化して我と同じからしむ(植物が空氣中の炭素を吸収して自體内の組織と同一なる澱粉をつくるはたらし、同化作用)【同母】(ドウボ) 母を一つにす、同腹。【同仁】(ドウジン) 彼我の差別をせず我が身の如く他人をも愛する意。「有せる人々。【同行】(ドウコウ) ①道づれ(同行)の信仰を【同好】(ドウコウ) 嗜好・趣味を同じうす。【同伴】(ドウバン) ①道づれ(同伴)につれだつ。【同志】(ドウシ) 同志に同じ。【同宗】(ドウシュウ) 宗教を同じうする。【同名】(ドウメイ) おなじなまへ、同姓。【同車】(ドウシャ) 同じ車に乗る、同車する。

【同役】(ドウヤク) おなじ役の人。【同姓】(ドウセイ) 同じめうじ、同苗。【同型】(ドウケイ) ①同じかた(同様の仕方)【同居】(ドウキョウ) 二人以上が同一場所に住ぶ【同朋】(ドウポン) ①ともだち(昔武家の殿中にかゝへられた雑役人)【同苗】(ドウメウ) 同姓に同じ。【同門】(ドウモン) 同じ師の門人をいふ、學友。【同性】(ドウセイ) ①同性質(男と男、女と女)【同胞】(ドウポウ) ①はらから、兄弟(同胞人)【同時】(ドウジ) 時を同じうする、一しよ。【同風】(ドウフウ) 風俗の同じきこと、同俗。【同音】(ドウオン) 同じこゑ、おなじ音色。【同衾】(ドウキン) 同じ寢床に一しよに寝る。【同窓】(ドウソウ) 同じ學校の卒業者、同門下の學友、同窓生のこと。【同異】(ドウイ) 同じことと異なること、異同。【同氣】(ドウキ) 同じこゝろ、おなじ氣質。【同格】(ドウカク) 同じふりあひ、同じ格式。【同級】(ドウキウ) 同じ學年(同級生)【同乘】(ドウジョウ) 一しよにのる。【同班】(ドウバン) 同じ位次、又同じなま。【同席】(ドウセキ) 同じ席にゐる、一所に座る【同船】(ドウセン) おなじ船にのりあはす。【同情】(ドウジョウ) ①思ひやり(同様の心)【同族】(ドウゾク) ①おなじやから、同一のな

【同類】(ドウルイ) 同じ品がら(同階級)【同棲】(ドウセイ) ①一つの家に共にすむ(夫婦となりて同居する意)【同筆】(ドウヒツ) 同じ人のかきたる手跡。【同業】(ドウゴウ) 同職業、同商賣。【同腹】(ドウフク) ①母を同じうす、兄弟姉妹(志)を同じうする意。「て行く人数。【同勢】(ドウセイ) おほぜいのつれ、つれだち【同義】(ドウギ) 同じわけ、おなじ意味。【同意】(ドウイ) ①同じき心(賛成すること)【同郷】(ドウキョウ) 同じ土地、同一の出生地。【同僚】(ドウリョウ) 同一役所に勤める者、同役。【同盟】(ドウメイ) 共に誓ひを約すること。【同感】(ドウカン) 同じかんじ、又賛成の意味【同輩】(ドウハイ) 同じ身分の人、同儕、等輩。【同種】(ドウシュ) おなじたぐひ、同一種類。【同慶】(ドウケイ) ①共に喜ぶ(お互ひに目出たしの意)。「に育ちし者、兄弟姉妹。【同懐】(ドウクワイ) ①同じ志(同じぶところ)【同趣】(ドウシュ) おなじおもむき。【同學】(ドウガク) ①同窓の友(同じ學問)【同質】(ドウシツ) 性質の同じきこと。【同様】(ドウヤウ) 同じ有様、同じこと。「の者【同藩】(ドウハン) 同じ大名の家來、同じ家中【同類】(ドウルイ) 同じたぐひ、なま。

【同權】(ドウケン) 權利に差別なき意。【同一】(ドウイチ) 同じやりかた、同じ形式【同土討】(ドウツウチ) 味方同志の喧嘩。【同性愛】(ドウセイアイ) 男にして男を思慕し、女にして女を愛著する變態性戀愛。【同盟國】(ドウメイコク) 國際條約に依り互に防守若くは攻撃を共にすることを約した國【同情罷工】(ドウジョウハコウ) 一團體が同盟罷工をなした時に他の同業の團體が之に同情して罷業すること。【同業組合】(ドウゴウクミアヒ) 同一職業者が其利益増進の爲に團結せる團體にて一町村又は一市郡を基礎として組織するもの【同病相憐】(ドウビョウアハレム) 苦痛を同じくする者が互ひに同情し合ふ意。【同盟罷工】(ドウメイハコウ) 從業者が誓約し其業をやめて資本主側に對抗すること。【合同】(ドウゴウ) 會同(合同) 雷同(合同) 和同(合同) 混同(合同) 贊同(合同) 唱同(合同) 共同(合同)

【名刀】(メイタウ) すぐれたる刀、名高き刀。【名士】(メイシ) 世間に名を知られたる人。【名工】(メイコウ) 腕前のすぐれたる職人。【名什】(メイジツ) 名だかき器物。【名木】(メイボク) 名だかき木、類なき木。【名主】(メイヌシ) 徳川時代に江戸又は各町村に置きし役人(すぐれたる君主名君)【名分】(メイブン) 身分、ぶんざい、人倫の分限、本分(名分を明かにす)【名手】(メイテウ) 名人、藝道の達人。【名字】(メイジ) 家の名、うぢ、苗字。「僧侶。【名匠】(メイシヤウ) 藝能優れし人(優れし)【名目】(メイモク) 物のなまへ、となへ方。【名作】(メイサク) 詩・歌・文章・美術品等のすぐれたる作物。「べきよき言。【名言】(メイゲン) ①名高き言葉(教訓となる)【名利】(メイリ) 名譽と利益。【名吟】(メイイン) 優れたる詩や歌。【名所】(メイショ) 景色又は史蹟等にて世間に知れわたたりたる所。【名門】(メイモン) 國家に對する功勞又は血統其他の理由で世に知られた家柄、名族。【名妓】(メイキ) 名高き藝妓又は娼妓。【名案】(メイアン) 名高き案又は考へ。【名物】(メイブツ) 名のあるはれし産物(廣く名を知られしもの(名物男)

【名狀】(メイジヤウ) 物の有様を現はして言ふ【名刺】(メイシ) 名札(名刺)と書くは誤り【名流】(メイリウ) ①名士の系統(名譽の地位)【名望】(メイバウ) 世間より尊敬せらるる意。【名詞】(メイジ) 物の名を現はすことば。【名教】(メイケウ) 聖人の教、人倫五常の教。【名筆】(メイヒツ) 能筆と同意、文字又は文章を書くに達者なること。「名目。【名義】(メイギ) 外形に現はれたる表面上の【名歌】(メイカ) 名高き歌、よく出来た歌。【名勝】(メイショウ) 景色のよい所、又よい景色【名著】(メイショク) 名だかき著書。【名僧】(メイショウ) 名高き出家、名僧智識。【名稱】(メイショク) 名目に同じ、名譽。【名說】(メイセツ) すぐれたる意見。【名實】(メイジツ) 評判と實際、名譽と實功、花と實、みかけと實際。【名儒】(メイジュ) 世に名高き學者。【名號】(メイガウ) 名譽、ほまれ、名稱。【名聞】(メイブン) 世間のきこえ、ほまれ。【名節】(メイセツ) 名譽と節義。【名數】(メイスウ) ①一人・二枚・三冊等の如く數字をいたぐ(名詞)【名醫】(メイイ) 手腕のすぐれたる醫者。【名聲】(メイセイ) 評判、うはさき。【名籍】(メイセキ) 戸籍に同じ。

【君臨】クニシ 君として國家にのぞむこと
 即ち天子の位に登る意。「めぐみ」
 【君龍】クニリョウ 君王のいつくしみ、上の
 【君子人】クニシジン 德行ある人の稱。
 【君主制】クニシユセイ 君主が國家を治める制
 【君子國】クニシコク 風俗がよくて禮義正し
 く道徳の進める國。「權を有する國體」
 【君主國體】クニシユコクタイ 帝王が國家の統治
 【君子豹變】クニシハウヘン 豹皮の斑文が明か
 に人目にうつるが如く舊惡を改めて善
 にうつる意。節を變ずるに用ふるは非
 【君主專制】クニシユセンセイ 君主が己れひと
 りの考へ通りに政治を行ふ制度。
 【君主獨裁】クニシユドクタイ 君主の獨斷を以て
 統治権を行ふこと。
 聖君セイクン 小君コクン 細君サイクン 妻君サイクン
 亡君ウツクン 夫君フクン 嚴君エンクン 郎君ラウクン

つてをしむ義。
 【愛】アイ は心にかけて惜む義。
 【慳】ケン は吝に同じ。
 【吝】リン けち、しわし、やぶさか。
 儉吝ケンリン 儉吝ケンリン 前吝ゼンリン 悔吝クワイリン
 【吝】リン 吝を丸のみにする意。
 【咽】エン はつばをのむ、一口づゝ咽喉へ
 【嚥】エン は前に同じ。「のみこむ義」
 【飲】イン は湯水などをのむ義。
 【呑天】トンテン 大氣の天空を呑むが如き意
 【呑吐】トント 呑み且つ吐く、だしいれ。
 【呑海】トンカイ 大氣の大海を呑むが如き意
 【呑噬】トンシ 我慾を逞うしてかみあふ
 ①他國を攻め取つて我が有となす。
 【吞氣】トンキ 氣がかりがない①氣が長
 い、無頓着②氣暢氣と書くが正しい。
 【吞牛之氣】トンニウノキ 幼少にて大いなる
 元氣あるをいふ、牛を丸のみにする程

の勢ひより轉じたる語。
 【吞舟之魚】トンシュウノウヲ 船をのむ程の大魚
 轉じて非常の人物。
 【吟】イン 漢ギン
 【吟】イン 漢ギン
 ①うめく②なげく③嘆④うたふ⑤歌⑥
 なく⑦鳴⑧うそぶく⑨嘯
 【吟杖】インシヤク 詩人の携ふる杖。
 【吟社】インシャ 詩人・歌人等の團體をい
 ふ。詩歌を作る集會。
 【吟味】インミ 詩や歌などをうたふ。
 【吟味】インミ 能く物事に精通する②深
 く考へる③罪を問ひたす。
 【吟客】インカク 詩歌を吟ずる人。
 【吟誦】インジュ 詩や歌を聲高くうたふ。
 【吟童】インドウ 虫の名、
 こぼろぎ。
 【吟魂】インコン 詩歌をつ
 くる心。
 【吟語】インゴ うたふ、
 くちずさむ。
 【吟懷】インクワイ ①詩人の心②吟情、詩趣
 【吟聲】インセイ 詩歌をうたふこゑ。
 醉吟サイイン 旅吟リョウイン 朗吟ラウイン 苦吟クイン
 低吟テイイン 高吟カウイン 哀吟アイイン 沈吟シンイン



(吟)

【吝】リン 漢ヒ
 【吝】リン 漢ヒ
 ①いな(可の反對)②いなむ、然らず、
 あらず③いなか④易の卦の名⑤國訓い
 なや(言下に)あし(惡)

【含味】カンミ 十分に味はふこと②物事
 をよくしらべること。
 【含羞】カンシウ はにかむ、はづかしがる。
 【含嗽】カンソウ くちすゝぐ、うがひ。
 【含著】カンチャク ①ふくみたはへる②意義
 又は學問修養等の奥深きこと。
 【含珠】カンシュ 珠をふ
 くむ、よく書かれ
 た繪の龍が珠を口
 にくみ居るが如
 く見ゆる形容。
 【含徳】カンタク 内心に
 徳をそなへ表面にあらはさぬ意。
 箱含サウカン 包含ホウカン 容含ヨウカン 内含ネイカン



(珠吟)

【含】カン 漢カン
 【含】カン 漢カン
 衛に作る①ふくむ、いだく(懷)つむむ
 (包)②しげる③國訓ふくむ(諦めさせ
 る、花が開かぬ、帯びる、其様子があ
 る)④同訓異義⑤ふくむ

【呈】テイ 漢テイ
 【呈】テイ 漢テイ
 漢テイ 吳チャウ ①しめす(示)
 あらはず(現)②すむ、献上する③と
 く(解)④ほど(程)⑤てらふ(銜)⑥たく
 まし(逞)⑦こゝろよし
 【呈上】テイジョウ 長上に物を進める、進呈。
 【呈出】テイシュツ ①あらはし示すこと②提
 出に作る、さし示す意。
 【呈露】テイロ むき出しにあらはす。
 進呈テイジョウ 奉呈ホウジョウ 拜呈ハイジョウ 敬呈ケイジョウ



(竹 吳)

【吳】ウ 漢ウ
 【吳】ウ 漢ウ
 ①國名②くれほこる(誇)③かまびす
 し(嘖)④おほいなり(大)⑤たのしむ
 (娛)⑥國訓くれる(與、遺、賜)
 【吳服】ウフク 織物の總稱、反物のこと。
 【吳音】ウオン 漢字音の一種にして支那の
 南方より傳はりしもの。
 【吳紹】ウショウ 舶來の毛織物、吳服製造の略、
 ごろふく、吳羅。「藍色染の原料」
 【吳須】ウシュ 青黒色のコバルト、陶器に畫
 【吳竹】ウシク 竹の
 一種、竹竹と書
 く細くして節繁
 く葉は細長し杖
 又は籠細工若し
 くは格子などを
 造るに用ひられ用途ひろし。
 【吳下阿蒙】ウゲアモウ 呂蒙の故事に因み以
 前に變らぬ馬鹿ものとの意。
 【吳越同舟】ウゲトウシュウ 支那の吳と越とは
 常に相攻め合ふ仇敵の間なりし故轉じ
 て仇同士が一所に集る場合にいふ。

【含】カン 漢カン
 【含】カン 漢カン
 ①いな(可の反對)②いなむ、然らず、
 あらず③いなか④易の卦の名⑤國訓い
 なや(言下に)あし(惡)

【含味】カンミ 十分に味はふこと②物事
 をよくしらべること。
 【含羞】カンシウ はにかむ、はづかしがる。
 【含嗽】カンソウ くちすゝぐ、うがひ。
 【含著】カンチャク ①ふくみたはへる②意義
 又は學問修養等の奥深きこと。
 【含珠】カンシュ 珠をふ
 くむ、よく書かれ
 た繪の龍が珠を口
 にくみ居るが如
 く見ゆる形容。
 【含徳】カンタク 内心に
 徳をそなへ表面にあらはさぬ意。
 箱含サウカン 包含ホウカン 容含ヨウカン 内含ネイカン

【吸】キツ 漢キツ
 【吸】キツ 漢キツ
 漢キツ 吳ギフ ①すふ、
 息を引き

【治】はうるほひの普くしみわたる義
 【遍】は偏に同じ。
 【周布】シウフ あまねく敷きほどす。
 【周年】シウネン ①満一年 ②一周忌。
 【周行】シウカウ まはり行く。「そとまはり」
 【周回】シウクワイ まはり、ぐるり、かこむ。
 【周忌】シウキ 死後一年目の忌日。
 【周易】シウエキ 周代に伏羲の創めし占の名
 【周知】シウチ あまねく知る、廣く知れ渡る
 【周到】シウタウ ぬけ目なくゆきわたる。
 【周密】シウミフ ぬけめなし、極めてこまか、
 周到、周緻。「下を周遊す」
 【周流】シウリウ ①あまねく行きわたる ②天
 【周旋】シウセン 奔走、盡力、きもいり、又
 まはりめぐる。「恐れあはてる」
 【周章】シウシヤウ ①周游の意 ②決せざる貌
 【周圍】シウイ ①まはり、めぐる。
 【周縁】シウエン まはりのふち、周邊。
 【周章狼狽】シウシヤウラウバイ 驚きてあはてる
 一周シウイ 成周シウイ 回周シウイ 圓周シウ
 環周シウイ 外周シウイ 宗周シウイ 邊周シウイ

【味方】ミカタ 我を助くる者、同志。
 【味官】ミクワン 五官の一、舌。
 【味到】ミタウ ①ふかく味ふ、心髓まで味ふ。
 【味醋】ミシツ 焼酎・もちごめ・かうぢをか
 きませて粕をとった甘き酒。
 【味噌】ミソ 大豆を煮てつき砕き麴と鹽と
 をまぜ醗酵させた調味料。
 【味感】ミカン 物の味を知りわける感じ。
 【味神經】ミシケンイ 舌の粘膜に密布せる味
 覺を司る神經のこと。
 賞味シヤウ 吟味シヤウ 厚味シヤウ 妙味シヤウ
 至味シヤウ 風味シヤウ 無味シヤウ 佳味シヤウ
 美味シヤウ 滋味シヤウ 正味シヤウ 珍味シヤウ

【呼應】コウオウ ①よびこたふ ②主動者に附
 和して共に行動すること。
 【呼出】コウシュツ ①よび出すこと ②呼出奴
 呼出藝子。「るもの」
 【呼物】コウモノ 評判せらるゝもの、人氣あ
 【呼捨】コウシツテ 敬語を省いて人の名をよぶ
 【呼吸器】コウキキ すべて呼吸を司る器官、
 人間の肺・鼻・口・喉頭・氣管の如し。
 嗚呼ア 傳呼シヤウ 疾呼シヤウ 叫呼シヤウ
 招呼セウ 歌呼コカ 歡呼コワン 大呼コイ

【命】メイ 漢メイ
 ①いのち ②みこと ③のり、いひつけ ④政
 令其他の官文書 ⑤うん(運) ⑥名づく
 ⑦のる、示す ⑧はかる ⑨ままと(的) ⑩め
 す(召) ⑪國訓みこと(尊)
 【命日】メイニチ 或る人の死したる日、忌日。
 【命中】メイチュウ ①的のまん中にあたる ②ね
 らひたる所にあたる。
 【命令】メイレイ ①帝國議會の協賛を経ざる
 國家の意思にして法規と同様の効力あ
 るもの、又行政機關が下級官廳或は國
 民の意思を強制するため發するもの ②
 上よりのいひつけ。
 【命世】メイセイ ①名世に作る、世に名高い

①天の命により此世に生まるゝの意。
 【命法】メイハフ 單名數を複名數に直すこと
 【命名】メイメイ 名をつけること。
 【命脈】メイミヤク いのちのつな、いのち。
 【命婦】メイフ 大夫の妃 我が國にて下
 級の女官 狐の異名にもいふ。
 【命數】メイスウ 壽命 ①自然のなりゆき。
 【命題】メイタイ 論理學上の語、主たるべき
 題目を言辭を以て表示するもの。
 休命シヤウ 申命シヤウ 內命シヤウ 生命シヤウ
 待命シヤウ 佑命シヤウ 策命シヤウ 運命シヤウ
 誓命シヤウ 年命シヤウ 司命シヤウ 恩命シヤウ
 吉命シヤウ 國命シヤウ 一命シヤウ 使命シヤウ

漢クラ 呉ワ ①やはらぐ、かな
 ふ(適)順ふ ②こたへる、調子を合す
 たひらぐ(平)むつぶ(陸) ③仲なほりす
 る、わばくする ④のぞか、なごやか、う
 らゝか(麗) ⑤見ならふ、まじりする ⑥ま
 ぜ合せる、調合する ⑦寄せ合せた數、合
 せたもの ⑧と(與) ⑨國訓やまと(倭)
 【和文】ワブン ①日本文、國文、日本の古文。
 【和名】ワメイ ①日本固有の名稱。
 【和字】ワジ ①日本にて作りし文字、國字。
 【和合】ワガフ ①仲よくしたしむ。
 【和布】ワカメ ①海藻の一種、若布。
 【和本】ワホン ①和紙で日本風に仕立てし本
 【和尙】ワシヤウ ①僧位 ②教師、又僧の敬稱、
 日本と西洋。「おしやう」
 【和君】ワキミ わがきみの義、貴君、あなた
 仲よくすること。
 【和衷】ワチュウ 強姦の對、合意の姦通。
 【和姦】ワカン 強姦の對、合意の姦通。
 【和訓】ワクン 日本風のよみかた。
 【和氣】ワキ やはらぎて樂しき氣色。
 【和寇】ワコウ 我が南北朝時代に西國の人
 民等が黨を結びて屢々支那・朝鮮の沿
 海を掠めたものである、之れを彼の國
 人が卑しめて和寇と稱した。
 【和琴】ワキン 樂器の名、六絃の大和琴。
 【和服】ワフク 日本風のきもの(洋服の對)

【和風】ワフウ ①おだやかなかぜ、はるか
 ぜ ②日本風、みくにぶり。
 【和船】ワセン 日本形のふね(洋船の對)。
 【和順】ワジュン ①むつまじき貌。
 【和陸】ワリク 敵味方共睦じく和らぐこと
 【和解】ワカイ 争ひし者の仲直りすると、
 互に譲歩して争ひを止める。「産の意」
 【和製】ワセイ 日本製、舶來品に對して國
 【和歌】ワカ 日本特有の三十一文字の歌。
 【和算】ワサン 算盤にてする計算。
 【和樂】ワラク やはらぎたのしむ。
 【和漢】ワカン 日本と支那。
 【和譯】ワヤク 外國文を日本文に譯すると
 【和蕪】ワロウ ①よく心が會つて仲よきこ
 と ②作物がよくみのること。
 【和戰】ワセン 平和と戦争。
 【和議】ワギ ①和陸の相議 ②破産を防ぐ爲
 め裁判所にて強制的に和解せしめると
 【和讚】ワサン 支那の尙頌を日本語に譯し
 【和蘭】ワラン 歐羅巴洲の「た歌」
 一共和國。
 【和光同塵】ワクワウドウジン 自己の才徳を包
 み凡俗に交はる喻
 【和歌三神】ワカサンシン
 ①表筒男命・中筒



(神三歌和)

喜

漢吳 ①よろこぶ、よろこび(好)②よみす(嘉)このむ(好)③さいはひ(福)④

同訓異義

喜 ①は楽しみである、悦びである、うれしい、轉じてこのむともよむ。悦 ①はうれしく思つて、衷心から樂み服する意。

怡 ①は顔色をにこ／＼して悦ぶ。懌 ①は心にしみこむやうに悦ぶ意。

愉 ①はよろこびが顔にあらはるゝ義はめでたき事の意。

慶 ①は歡に同じ。

欣 ①はよろこびで氣のうきたつさまは喜び樂みていさむ意。

豫 ①は安んじて樂みよろこぶの意。賀 ①は禮物を贈りて相奉慶するの意は歡に同じ。

喜色 ①喜ぶある顔色 ②喜色満面。喜怒 ①よろこびといかり。

喜悅 ①よろこび ②喜悅満面。喜捨 ①佛語にて慈善、ほどこし

喜愛 ①よろこびとられへ。喜樂 ①よろこびとられへ。

喜樂 ①よろこびとられへ。

喜樂 ①よろこびとられへ。

喜樂 ①よろこびとられへ。

喜樂 ①よろこびとられへ。

喜樂 ①よろこびとられへ。

【單衣】 タンイ ひとへの着物、ひとへもの。【單行】 タンカウ ①一人にて行く ②一回の行為 ③單にその物のみの出版 ④單一のことについて行ふ意。

【單利】 タンリ 元金のみに對する利子。

【單位】 タンイ 計數の基本となる名數。

【單身】 タンシン 一人といふに同じ。

【單味】 タンミ 一種の味、まじりけな味。

【單記】 タンキ 選舉人を唯一人記すこと。

【單軍】 タングン 友軍なく孤立せる軍勢。

【單音】 タンオン 單純なる字音、五十音の一行の五音即ち母音。

【單純】 タンジン ①まじりけなし ②一本調子にて變化なし、單調。

【單語】 タンゴ 單一なる言語。

【單調】 タンテウ 一本調子にて變化なき貌。

【單稱】 タンシヤウ 文法上にて一人稱のこと。

【單數】 タンスウ 複數の對、物のたゞ一つに

【單獨】 タンドク 只一人、只一個。

【單線】 タンセン ①一本の線 ②往復共に同じ軌道によつて通ずる鐵道線路。

【單簡】 タンカン ①短かき手紙 ②手みじか。

【單瓣】 タンペン ひとへの花瓣。

【單騎】 タンキ ①一人の騎馬武者、一人の騎士 ②一人馬にのりて行く。

【喜壽】 キジュ ①七十七歳の意 ②七十七歳に達したる年のいはひ。

【喜劇】 キゲキ 滑稽なる演劇。

【喜見天】 キケンテン 佛教の三十三天の一なる地居天の頂上中央の帝釋天の居る天宮、喜見城ともいふ。

【喜喜】 キキ 悦喜 欣喜 吉喜 賀喜 樂喜 嘉喜 福喜

【喜喜】 キキ ①かまびすし、さ

【喜喜】 キキ 吳クワン わがし(驢) ②盛大なるさま

【喧争】 ケンサウ やかましくいひあらそふ。

【喧然】 ケンゼン さわぎのゝしるさま。

【喧喧】 ケンケン さわがしく言ひ罵る貌。

【喧嘩】 ケンカ ①さわぎつたふ。②争ふこと。

【喧嘩】 ケンカ ③かまびすしさま ④俗に

【喧嘩】 ケンカ 喧嘩に作る、のゝしり騒ぐ

【喧嘩】 ケンカ ⑤喧嘩と書くは誤り。

【喧嘩】 ケンカ さわがしきさま、亂れ騒ぐ。

【喧嘩】 ケンカ さわがしく混雜するさま。

【喧嘩】 ケンカ 評判の高きこと。

【喫】 キツ 漢カイ ケキ 吳ケイ キヤク 慣用音 キツ ①くらふ(食) ②のむ(飲) ③あらそふ(争) ④いさむ(諫)

【喫】 キツ ①くらふ(食) ②のむ(飲)

【喫】 キツ ③あらそふ(争) ④いさむ(諫)

【喫】 キツ ⑤あらそふ(争) ⑥いさむ(諫)

【單子】 センシ ①匈奴の酋長の稱 ②天の廣大なる義に取る ③單獨たんと讀むは誤り

【單行本】 タンカウボン 單獨に刊行せられた書物(雜誌類は單獨の刊行物でない)

【單本位】 タンホンイ 一種の貨幣を本位貨幣とし他を悉く補助貨幣とする制度。

【單名數】 タンメイスイウ 一つの單位の名によりてあらはされたる數。

【單縱陣】 タンジュウジン 一列にならぶ陣立。

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【單獨制】 タンドクセイ 行政機關の組織に於て一人一官府を爲す行政組織の一方

【同訓異義】 くらふ 喫・食・餐其他の用法は一四七頁の食を見よ。

喫水 キツスイ 吃水に同じ。

喫烟 キツエン たばこをすふこと、喫煙。

喫茶 キツサ 茶をのむ 喫茶店。

喫飯 キツパン 飯をくふこと ①食事をすること ②口をすぐすこと、生活、糊口。

喫緊 キツケン 肝要又は肝腎なること。

喫驚 キツキヤウ おどろくさま、びつくり。

喫茶店 キツサテン 茶葉を賣り休憩せしむる現代式の茶店。

【單】 [單] [單] [單] 漢セン 吳セン ダン 漢吳タン

①ひとつ、ひとり(隻、獨) ②ひとつ、ひとり(複せぬ) ③めぐり(周) ④ことごとく(悉) ⑤あつし(厚) ⑥おほいなり(廣) ⑦ゆたか、多し(輕裝の貌) ⑧まこと(誠、信) ⑨國訓ひとへ、裏をつけぬ衣服

【單】 タンイツ ①たゞひとつ ②ひとつ、ひとつ ③複雑ならぬさま。

【單子】 タンシ 切手・手形の類。

【單刀】 タンタウ 一口のかたな。

【單文】 タンブン 手みじかき文章。「せる句。

【單句】 タンク 短かくして一つの意義をな

人の被選舉人の氏名以外には選舉人の氏名を記載せざる投票。

【喪】 [喪] [喪] [喪] 吳サウ

①うしなふ(失) ②ほろぶ(亡) ③人の死にこもる(忌服) ④ひつき(柩) ⑤死法は二六〇頁の失を見よ。

【喪心】 サウシン 正氣を失ふ、きぬけ。

【喪主】 サウシュ 主となりて葬儀を營む人。

【喪失】 サウシツ 失ひなくす、身分、資格、權利

【喪具】 サウキ 葬禮用の道具。「等を失ふ。

【喪服】 サウフク 喪に居る間着る服。

【喪神】 サウシン 喪心に同じ。

【喪章】 サウシヤウ 服喪のしるし、もしやう。

【喪祭】 サウサイ 死者をとむらうふ祭。

【喪家】 サウカ 不幸のありし家。

【喪禮】 サウレイ とむらひ、葬式。

【喪家之狗】 サウカノイヌ ①やせやつれて衰へたる人に喩へいふ ②宿なし犬。

達喪 サウタク 除喪 サウヂョ 彫喪 サウテウ 淪喪 サウリン

得喪 サウタク 敗喪 サウバイ 虧喪 サウクウ 剝喪 サウハク

【喰・殮】 [食] [喰] 國字くらふ、くふ

【喰・殮】 [食] [喰] 國字くらふ、くふ

【嗜書】シヨ 書物をこのんでよむこと。
【嗜慾】シヨク たしなみ好む心、嗜好の情慾。
【嗟】漢サ シヤ ①歎きて發する聲、あゝ。②

【同訓異義】あゝ 嗟・嗚呼・噫其他の用法は二一頁の嗚を見よ。

【嗟呼】アア 歎きの聲、これ／＼はの意。
【嗟歎】サタシ なげきいたむ。

【噉】漢吳 ①わらふ、あざわらふ。②シ 所しる(誹) ③さげすむ。

【僉】九七頁の僉を見よ。

【聖】八三六頁の聖を見よ。

【啗】二〇六頁の啗を見よ。

十一畫

【嘆・歎】漢吳 ①なげき。②ためいきをする、ためいきをつく。

【嘆息】タシキ 感心してほめたまへる。
【嘆息】タシク なげきて溜息をつく貌。
【嘆訴】タシク なげきうつたふ。
【嘆賞】タシク 嘆美に同じ。

【嗽】漢 ①口すゝぐ(漱) ②すふ(吸)。
【嗽】ソウガイ せきをする、しはぶき。
【嗽藥】ソウヤク うがひ藥。

【嗾】漢 ソウ ソク ①けしかく。②犬を使つて敵に向はせる。

【嘈】漢吳 ①さわがしきこゑ。②サウ まびすし(喧)。

【噤】漢 コ よぶ(呼)叫ぶ。
【噤附】コシ 舌うちする、見下げて叱る貌。

【嘔】漢 オウ ①吐く。②讀むは誤。③はく(吐)もどす。④よるこぶ(喜)。

【嘔吐】オウト 食したる物を吐き返す、もどす、あげる。

【嘔氣】オウキ はきけ。①嘔氣を催ふす。
【嘔嘔】オウオウ ①やさしく親切に物をいふさま。②よるこぶさま。

【嘔瀉】オウシャ 吐きくだし、吐瀉。

【嘔】漢 サク ①さげすむ、あらそふ。②吳 セキ ③かまびすし(喧) ④言多き貌。⑤いたる(至) ⑥はじめ(初)。

【嘆願】タシクラン なげきて願ふ。
【嘉】漢 カ よし、よしとする。①うつくし(美) ②よるこぶ(喜)たのしむ(樂) ③このむ(好) ④うまきもの(さいはひ(幸))

【同訓異義】よし 嘉・吉・好其他の用法は二〇六頁の善を見よ。

【嘉月】カゲツ 陰曆三月の異名。
【嘉平】カヘイ 陰曆十二月の異名。「き言」

【嘉言】カゲン 教訓となるべき言、至言、よき年、豊年、嘉歳。
【嘉辰】カシチン めでたき日。
【嘉例】カレイ めでたきためし、吉例。

【嘉肴】カカウ 心づくしの肴、よきさかな。
【嘉味】カミ よきあぢ、うまき物。
【嘉羞】カシウ うまき食物、善い供膳。

【嘉納】カナフ 満足してをさめる。
【嘉祥】カシヤウ ①陰曆六月十六日に疫を被ふといひて餅十六箇を神に供へて食ふこと。②目出たきこと。

【嘉會】カクワイ めでたきよりあひ。「敬稱」
【嘉節】カセツ 目出たき日。
【嘉筵】カエン ①盛んなる宴會。②人の宴會の(嘉賓)カヒン ③まるうど、貴賓。

【嘉儀】カギ ①いはひ。②めでたき儀式。

【嘖嘖】サツサツ ①言ひ争ふ貌。②口々にいふ貌。③かしましきさま。④大いにさげすむ。⑤讀むは誤り。

【嘘】漢 キヨ ①ふく、うそぶく。②吳 コ 吐き出す。③嘆息の聲。④あゝ物の吹き出づる貌。⑤國訓(誼) ⑥嘘言(キヨゲン)そらこと、うそ。

【嘛】漢 マ 喇嘛教は佛教の一派。
【臺】漢 マ 八六一頁の臺を見よ。

【鳴】漢 マ 一一七九頁の鳴を見よ。

十二畫

【無】漢 ア ①明かなら。②吳 ム ざる貌、口。③國訓さぞ、さだめし、けだし。④氣が進まずぐ／＼として居るさま、返答のあいまいなるさま。

【噲】漢 ①うはさ。②ソク ③かたる。

【噲・譁】漢 ①かまびすし(喧) ②漢 サイ ③一口に食ひ盡す。④吳 セ ⑤かむ。

【噉】漢 サイ ①一口に食ひ盡す。②吳 セ ③かむ。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

【嘗】漢 シヤウ ①なむ、味ふ。②こゝろむ(試) ③かつて、まへかた。④新穀を薦めて神を祭る。

種類多く一に碎鐵機ともいふ。
【嚙】漢 テイ ①くさめ、くしや
吳 ダイ み、くさめする(古
語)ふさがる口はなひる(さ)はる

十六畫

【嚙】漢 キヤウ
吳 カウ

①むかふ(向)口さきに、嘗て(響)響に同
じ、ひびく(響)響に同じ、うく

【同訓異義】さきに

【向】はさきほどの意である。

【響】は前に同じ。

【往】は往日の義である。

【嚙日】キヤウジツ いつか、せんだつて。

【嚙導】キヤウダウ 案内す、手引。ひ立つさま

【嚙應】キヤウオウ 響の聲に應ずる如くふる

【嚙背】カウハイ 味方するとそむく。

【嚙】漢 吳 ①のむ、の
【咽】字 エン み下す口の
ど、のんど(咽)

【嚙下】エシカ 物をひと息に呑み下す貌。

【嚙】漢 ゲン ①おご
吳 ゴン そか、

十七畫

【嚴】漢 ゲン ①おご
吳 ゴン そか、

【嚴】漢 ゲン ①おご
吳 ゴン そか、

いかめし口つゝしむ(敬)きびし(酷)
寛やかでない(尊)尊く犯しがたい、たつ
とぶ(尊)尊いましむ(戒)おごそかにす
る(は)はかる(憚)

【嚴正】ゲンセイ 正しくしてきびし。

【嚴父】ゲンフ 父をうやまひていふ。

【嚴冬】ゲントウ 冬の最も寒き頃。

【嚴守】ゲンシュ かく守る(固)固令嚴守。

【嚴乎】ゲンコ 正しく威あるさま。

【嚴令】ゲンレイ きびしき布達。

【嚴刑】ゲンケイ きびしき刑罰(固)嚴刑に處す

【嚴君】ゲンケン 父を尊びていふ。

【嚴格】ゲンカク 嚴重に謹慎すること(固)嚴
格とはその意異なる。

【嚴命】ゲンメイ きびしき命令。

【嚴重】ゲンジュウ 非常にきびしいこと。

【嚴科】ゲンカ ①いかめしき法律(固)きびし
き刑罰のこと、嚴罰に同じ。

【嚴訓】ゲンクン 厳しきいましめ。

【嚴格】ゲンカク 嚴重におなじ、おごそかに
して正し(固)嚴格とは其の意異なる。

【嚴密】ゲンミツ きびしくしてこまかなり。

【嚴責】ゲンセキ きびしくせむ、せめつける。

【嚴勅】ゲンチヨク 天子の厳しき仰せ。

【嚴飭】ゲンシヨク きびしくいましむること

【嚴然】ゲンゼン きびしく犯す可らざる貌。

【嚙】漢 アウ なく(鳴)鳥が互ひ
吳 ヤウ になき合ふ

【嚙】漢 アウ なく(鳴)鳥が互ひ
吳 ヤウ になき合ふ

十八畫

【囉】漢 サフ ①はや
吳 ソフ し、舞

を助ける聲(固)國訓はやす、歌に合せ調
子をとる鳴り物、評判する

【嚙】漢 シヤク ①かむ(口)くらふ
吳 ザク (食)あぢはふ

【嚙味】シヤク 物のあぢをかみわけける。

【嚙】漢 吳 ①さへづる(口)なく(口)し
テン ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

【嚙】漢 セフ ①さへづる(口)なく(口)し
吳 ソフ ②さへづる(口)なく(口)し

十九畫

【囊】漢 ナウ ①ふく
吳 ダウ ②ふく

のあるもの(口)つゝむ(口)ものを容る(口)も
の(口)に(口)いれ(口)財布)

【囊中】ナウチュウ ふくろの中。

【囊括】ナウクワツ ①つゝむ(口)すべく(口)る。

【囊中之錐】ナウチュウノキウ 賢才のこと。

【囊中無一物】ナウチュウムイチブツ 財布に一錢
もなきことを形容す。

衣囊 ナウ 詩囊 ナウ 奚囊 ナウ 括囊 ナウ
米囊 ナウ 錦囊 ナウ 枕囊 ナウ 水囊 ナウ

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

【嚙】漢 ゲイ ねごと、たはご
吳 ガイ と、うはごと

二十畫

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。

【囑】漢 ショク ①たのみまかせる(口)官吏
が職務の執行を他の官吏に信頼すると
囑託と書くは誤り。



(社神島嚴)

萬國、四海のあたり、周圍。
 【四民】^{シミン} 士・農・工・商、又あらゆる民。
 【四足】^{シツク} 獸類のこと。
 【四角】^{シカク} 方形、正方形、又正しきと。
 【四夷】^{シイ} ①四つのえびす、東夷・南蠻・西戎・北狄。②まはりの未開の國々。
 【四更】^{シカウ} 丑の刻、午前二時頃。
 【四姓】^{シセイ} ①源氏・平氏・藤原氏・橘氏。②印度の婆羅門・刹帝利・毗舍・首陀。
 【四表】^{シヘウ} 四方に同じ。「右兵衛府。
 【四府】^{シフ} 左近衛府・右近衛府・左兵衛府。
 【四阿】^{シア} あづまや、ちん。
 【四近】^{シケン} 四隣、附近、となり近所。
 【四季】^{シキ} 年中の四時即ち春・夏・秋・冬。
 【四肢】^{シシ} 兩手と兩足のこと。
 【四苦】^{シク} 佛教にて生・老・病・死。
 【四面】^{シメン} 四方に同じ。
 【四則】^{シツク} 加・減・乗・除の四法。
 【四庫】^{シク} 唐代の官書を甲・乙・丙・丁の四部に分ちて藏せしよりその庫をいふ。
 【四恩】^{シオン} 四つの恵み、天地の恩・國王の恩・父母の恩・衆生の恩。
 【四氣】^{シキ} 四季の氣、即ち春は溫・夏は熱・秋は冷・冬は寒等の四氣。
 【四書】^{シシヨ} 大學・中庸・論語・孟子。
 【四海】^{シカイ} ①四方のすみ。②天下、世界。

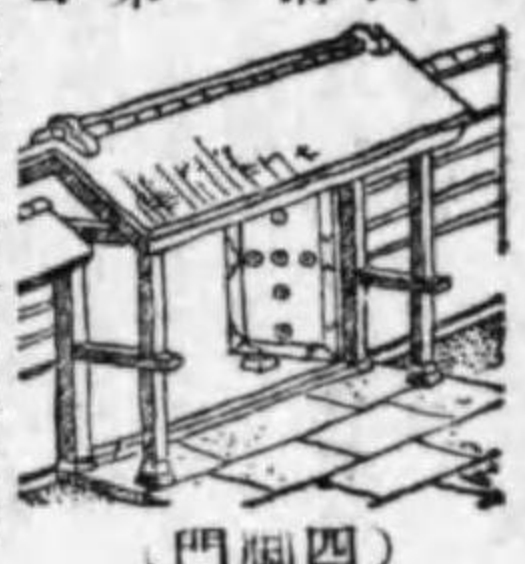
【四絃】^{シゲン} 四すぢの糸、特に琵琶。
 【四教】^{シケウ} ①文・行・忠・信(論語)。②詩・書・禮・樂(王制)。③藏經・通教・圓教・別教(天台四教)。④勤・儉・恭・(治家四教)。
 【四象】^{シシヤウ} ①日月星辰。②易の老陽、少陰。③の大綱、禮・義・廉・恥(乾(西北)・坤(西南)・艮(東北)・巽(東南)の四隅)。
 【四散】^{シサン} ちらばる、別れ別れとなる。
 【四隅】^{シゴウ} 四方のすみ。
 【四衆】^{シシユウ} 比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷。
 【四隣】^{シリン} 四方のとなり、四方の國々。
 【四壁】^{シヘキ} 四隣に同じ。
 【四聲】^{シセイ} 平聲・上聲・去聲・入聲。
 【四邊】^{シヘン} 四方のさかひ、外まわり。
 【四職】^{シシヨク} ①左京職・右京職・大膳職・修理職の稱。②室町時代の四人の所司、即ち山名・一色・細川・畠山。
 【四禮】^{シレイ} 冠・婚・喪・祭の四大事。
 【四藝】^{シゲイ} 琴・碁・書・畫。
 【四顧】^{シゴ} 四方を見まはすこと。
 【四方拜】^{シハウバイ} 四大節の一、元日寅の刻に天皇御親ら清涼殿の東階の庭前に出御ありて天地四方及び山陵を拜して年災をはらひ寶祚を祈り給ふ儀式。
 【四分一】^{シフイチ} ①四分分。②銀にその四分

一の銅を和したる灰色の合金。
 【四六判】^{シロクパン} ①縦三尺六寸横二尺四寸の西洋紙。②縦六寸横四寸の書籍。
 【四六文】^{シロクブン} 四字六字づつを一句として綴りたる文章、駢儷文。
 【四十雀】^{シジユウカク} 燕雀類の小鳥で頭と喉は黒く頬は白色肩は黄緑色背部を下るに従つて若灰色を呈し腹は白くて中央に黒い筋のある保護鳥、白頬鳥。
 【四不像】^{シフブゾウ} 鹿の族で滿洲の深山などに棲み頭は駱駝又は鹿の如く脚は牡牛の如く尾は驢馬の如くにして牡は角を有してゐる。
 【四本柱】^{シホンジュウ} 角力の土俵の四方に立てた柱、又角力の勝負をけんきする人。
 【四天王】^{シテウワウ} ①帝釋の外臣にて東西南北の四天を守る神。②才藝の勝れし四人。③一將の部下の四人の勇士の併稱。
 【四君子】^{シシクニ} 蘭・菊・梅・竹。
 【四言詩】^{シゲンシ} 一句四字よりなる古詩。



(像不四) (雀十四)

【四絃琴】^{シゲンシン} 形は三味線の如く三尺二寸程の棹に絃の四筋かゝれる樂器。
 【四威儀】^{シキイ} 行・住・坐・臥の四つのたちみふるまひ。
 【四脚門】^{シキヤクモン} 四本の柱を四方に構へた門。
 【四等親】^{シトウシン} ①第 四等に當る親族即ち高祖父母・從祖父姑・從祖伯叔姑姑夫の兄弟姉妹・兄弟の妻妾・再從兄弟姉妹・外祖父母・舅・姨・兄弟姉妹の孫・從父兄弟の子・外甥・外姪・曾孫・孫の妻。
 【四條流】^{シテウリウ} ①後嵯峨天皇より始まる築山の法の一派。②圓山應舉の門人吳春より始まる畫法の一派。
 【四十九日】^{シジュウクニチ} 死後七七日の忌。
 【四大奇書】^{シダイキショ} 水滸傳・三國演義・西遊記・金瓶梅の四書。
 【四方之志】^{シハウノシ} ①諸國を攻め取る志望。②諸國の記録。
 【四分五裂】^{シフブンゴリツ} 物事に統一なき貌。
 【四百四病】^{シヨクシヨクシヤウ} 人體に病氣の甚だ多きをたとへて言ふ。
 【四百餘州】^{シヨクヨクシヨウ} 支那全土。「皆敵。
 【四面楚歌】^{シメンチカ} 一人の味方もなく四方



(門脚四)

【四月馬鹿】^{シグワバカ} 歐米諸國で行ふ奇習の一、毎年四月一日午前中互ひに奇抜などをして人を騙し合ふ惡戯が行はれ平素は謹嚴そのものゝ様な紳士も女中のやうに取りすました貴婦人も小兒のやうになつて騙し合ひ若し騙されて怒るやうな者は野暮な人として笑はれる。
 【四苦八苦】^{シクハツク} 生・老・病・死の四苦と愛別離苦・怨憎會苦・求不得苦・五陰盛苦を合せたる八苦、人生の苦痛をいふ。
 【四海兄弟】^{シカイケイテイ} 「四海の内皆兄弟なり、君子何ぞ兄弟無きを患へんや」の論語の句に因み國民皆同胞なる意。
 【四捨五入】^{シシヤゴニフ} 四以下の數を切り捨て五以上の數を上上の單位に繰上げる法。
 【四通八達】^{シツウハツツウ} 道路が四方八方に通じ交通の甚だ便利なるさま。
 【四道將軍】^{シダウシヤウジン} 崇神天皇の十年に四道に派遣したる鎮撫使、即ち大彥命(北陸道)武渟河別(東海道)吉備津彥(西海道)丹波道主命(丹波)。
 【四疊半趣味】^{シヨウハハンシユキ} 小じんまりした座敷で女を相手に灘の生一本でもちびりちびり飲みながらしんみりとした氣分を味ふと、轉じて藝者遊びのこと。朝三暮四(シヤウサンモクジ) 張三李四(シヤウサンリシ)。

【囚】^{シウ} 漢シウ ①とらふ、とらはる。吳ジユ ②めしとる、めしうど(罪人) ③獄につなぐ、拘禁する。④リコ ⑤裁判のことば。
 【同訓異義】^{ドウクニイギ} とりにす。
 【俘】^{シウ} は軍にて捕虜にせし人。
 【囚】^{シウ} はとらへて牢に入れ置くの意。
 【囚】^{シウ} は敵をとらへ手ごめにする義。
 【虜】^{シウ} はいけどりにせし人の義。
 【囚人】^{シウジン} めしうど、罪人。
 【囚徒】^{シウト} 前に同じ。
 【囚役】^{シウエキ} 囚人の作業、苦役。
 【囚俘】^{シウフ} とりこのこと、とらはれ人。
 【囚桎】^{シウシツ} 牢獄におしこめる。
 【囚絆】^{シウハン} 捕へてつなぐこと。
 【囚獄】^{シウコク} 牢屋、ひとや、牢獄。
 【囚虜】^{シウロ} とりこ、捕虜、囚俘。
 【囚縛】^{シウバク} 捕へてしばること。
 【囚繫】^{シウケイ} 捕へて獄舎につなぐこと。
 【幽囚】^{シウイウ} 宿囚(シヨクイウ) 禁囚(シキンイウ) 憂囚(シウイウ) 拘囚(シウコウ) 禽囚(シウイン) 楚囚(シウシウ) 繫囚(シウケイ) 孤囚(シウコ) 俘囚(シウフ) 章句囚(シヤウコウイウ)。
 【田】^{テン} 六八六頁の田を見よ。
 三畫

に基き制定せられた法規。
【固定資本】コテイシホシ 生産又は營業のもと
でとなつたまゝ流通せぬ資本。

【固有名詞】コイワノシ 文法用語、人名物名
の如くその物に限り用ゐられる名詞。

【固】漢 キン ①まるき米倉
くら) ②まがりくねつてゐるさま

【固倉】コシヤウ コメぐら。

【固】漢 レイ ①ひとりや(獄)を
り(檻)牢獄 獄屋、
ひとや。

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

【固】漢 イウ ①禽獸を放ちがひに
呉ウ するためその(苑)の
外圍に土堤のあるもの(限)られたる場
所(かき)垣)はたけ(圍園)

は二二五頁の園を見よ。

【園苑】イウエン 場所を限りて禽獸を養ふ所

【園】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所
【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【圃】漢 キン ①はたけ
は(庭)②その(苑)③限られたる場所

【國手】コクシュ ①名醫の稱②名人。

【國文】コクブン その國固有の文字・文章。

【國母】コクボ ①皇太后の稱②皇后の稱。

【國史】コクシ ①一國の歴史。

【國司】コクシ 昔の地方官にして守・介・椽
目・の四階級があつた、又單に守のみを
國司と稱せし時代もあつた。

【國王】コクワ 國のをさ、國主。

【國本】コクホン 國家の根本、國のもと。

【國交】コクカウ 國と國との交際、國際。

【國色】コクシキ ①國中第一の容色、絶美
なる者の形容②牡丹の花をいふ。

【國光】コクカウ 國家の威徳、國のさかえ。

【國字】コクジ 其國にて日常通用の文字。

【國守】コクシュ 國司に同じ、くにのかみ。

【國老】コクラウ ①國家の元老②諸侯の家老

【國有】コクイウ 國家の所有。

【國志】コクシ ①その國の歴史、國史、國記。
②先帝の崩御を祭る日。

【國防】コクバウ 國土の防禦設備。「の府中。

【國府】コクフ 國司の役所ありし地、後

【國典】コクテン ①國家の儀式②國のおきて

【國事】コクジ ①國家の政治②國の治亂興
亡に關する事。「土地の神社。

【國社】コクシャ 諸侯が領民の爲めに建てし

【國境】コクキヤウ 國家と國家との版圖を區
劃する境界線。「いふが如し。

【國號】コクガウ 國の名稱、日本・支那等と

【國旗】コクキ 外國に
對して一國のめじ
るしとなる旗章。

【國詩】コクシ 日本
和歌の如く其國固
有の歌。

【國學】コクガク ①其國特有の學問②本邦固
有の文藝學術を研究する學問、和學③
國々にたてられし學校。

【國勢】コクセイ 國のありさま、一國の大勢。

【國道】コクダウ 國家が經營せる道路。

【國運】コクウン 國家を表證する印、御璽。

【國際】コクアイ 國と國との交友的關係。

【國論】コクロン 國民一般の意嚮、輿論。

【國實】コクジツ 國家又は其國の主權者を代
【國憲】コクケン 國家の法律。「表せる客人。

【國寶】コクハウ 國のたから、社寺の寶物中
歴史の證徴又は美術の模範となるべき
ものに付き内務大臣が古社寺保存會に
諮問し國寶と爲すべきものであると認
定した物件。「出來事、戰爭。

【國難】コクナン 國家の安危に關する重大な

【國籍】コクセキ 人民の國家に屬する戶籍。

【國籍】コクセキ 人民の國家に屬する戶籍。

【國籍】コクセキ 人民の國家に屬する戶籍。



(旗國)

【國權】コクケン 國家の權力、狀態及び組織。
 【國體】コクタイ 國家の面目、くにがら、國の
 【國拂】クニハラヒ 罪人を國外に追拂ふこと
 【國民軍】コクミンケン 正規の軍人以外に一般
 國民を以て組織する軍隊。
 【國分寺】コクブンジ 聖武帝の朝國家鎮護の
 爲め一國に一字づゝ建立せし寺院。
 【國事犯】コクジハン 政治上の犯罪。
 【國家學】コクカガク 國家の組織成立及び目
 的等を比較研究する學問。
 【國幣社】コクヘイシャ 官幣社の次に列せる神
 社、大中小の階級あり。「の有する特性。
 【國民性】コクミンセイ 一國を通じて國民全體
 の死に對し國民全體の葬儀として誓む
 葬式で國葬と異なる所は單に國費を以て
 するのと國民全體のものとして行ふと
 の點である。「ついで規定した法規。
 【國際法】コクサイハフ 國家と國家との關係に
 【國粹會】コクスイカイ 社會運動に對する反
 動的傳統主義の一派。
 【國民外交】コクミングワイカウ 彼我の間に觀光
 團・實業家・教員等の交換を行ひ國民と
 國民との親善をはかること。
 【國民主義】コクミンシユイ 同一民族を合同し
 て自國の権力下に置かんとする主義。

【國民道德】コクミンダクトク 各國それ／＼に
 昔から傳つてゐる特殊な道德。
 【國民動員】コクミンドウイン 國家有事のとき
 完全に目的を貫かんため國民全體をそ
 の業務に隨つて之に参加せしめると。
 【國民警察】コクミンケイサツ 國民各自が警察
 官の態度になつて自己の安全を保ち一
 善官の保護を受けないやうにするこ
 【國家主義】コクカシユイ 人生の目的は國家の
 安寧富強を圖るに在りとする主義。
 【國庫債券】コクコサイケン 政府が臨時の經費
 に充てんが爲め發行する短期の公債。
 【國務大臣】コクムダイジン 施政の最高官府に
 して大權輔弼の機關、内閣各省の長官。
 【國粹保存】コクスイホゾン その國固有の長所
 美點を保存する意。「支拂ふこと。
 【國庫支辨】コクコサイベン 或る入費を國庫から
 【國勢調査】コクセイチサツ 國內の人口・財産
 其他の狀態を調べること。
 【國際版權】コクサイハンケン 一八一六年世界
 各國委員によりて設けられたる規約に
 して萬國共通の出版保護權。
 【國際裁判】コクサイサイバン 國際間の争闘に
 當り戰爭をさけるために特定の法律を
 以て審判すること。
 【國際聯盟】コクサイレンメイ 國際間の紛擾を平

和の方法にて解決することを目的とし
 て世界大戰後に成立したるもの。
 【國定教科書】コクテイコクワクショ 國家にて選定
 したる教科用圖書。「統べ治むる權力。
 【國家統治權】コクカトウチケン 主權者が國家を
 【國家社會主義】コクカシヤクワイシユイ 社會の平
 衡を保たんが爲め強者を壓し弱者を保
 護して最大多數をして最大幸福を得し
 めんとする主義。
 大國コクイ 小國コクウ 強國コクヤク
 建國コクケン 山國コクサン 蠻國コクマン
 敵國コクコク 富國コクフ 上國コクジョウ
 他國コクタ 通國コクツウ 異國コクイ
 外國コクガイ 戰國コクセン 倭國コクワ
 列國コクレツ

【圈】コク 漢 ギョ ①うまかひ(馬をか
 ぶむ)ふせぐ(捍)困みて伸びざる貌
 【圈】コク 漢 ケン ①さかづき
 まげもの(を)をり(檻)ひとや(獄)めぐ
 る、まるぶ(丸)いもの、わ、まる、圓形
 【圈内】ケンナイ 限られた區域内、範圍内。
 【圈外】ケングワイ ぐぎりのそと、範圍外。
 【圈點】ケンテン 文の要所・妙所等を示すに
 用ゐる小さき丸い點。

【園人】エンジン うまかひ、庭を司る役人。
 【園絆】エンバン とらはれ、いましめ、拘禁。
 【園】エン 漢 セイ かはや(厠)せつ
 【園】エン 吳 シヤウ いん、便所
 【園廁】エンリ かはや、雪隠、便所。
 九畫

【園】エン 漢 吳
 ①かこむ、かこふ、取りまく(衛)と通ず
 る、まはり(抱)へのまるさ
 【園基】エンキ 園菜に作る、基をうつこと。
 【園障】エンシャウ かこひ、かき、牆垣。
 【園繞】エンジュウ 取りかこむ、めぐらす
 【園】エン 漢 吳
 ①その、果實を植ふる所(垣)の圍ひな
 きものは苑(御)みさ(御)陵)はか
 【同訓異義】その
 【園】エン 漢 吳
 ①園や苑の周圍にある垣の義。
 【園】エン 漢 吳
 ①ははたけ、園、野菜を植ふる園。

【園】エン 漢 吳
 ①果を植ふる園の義。
 【苑】エン 漢 吳
 ①は鳥獸を養ふ所の義。「の義。
 【場】エン 漢 吳
 ①は禾を收むる畑、稻のこなし場
 【園丁】エンテイ 植木屋(園)をつくる人。
 【園主】エンシュ 果樹園の持主。
 【園亭】エンテイ 庭の小座敷、ちん。
 【園圃】エンポ 花をつくるはたけ、その。
 【園藝】エンゲイ 庭を作る技、果實・蔬菜等
 を培養すること(園)趣味。
 【園生】エンセイ その、には、「仕掛の酒宴。
 【園遊會】エンイウクワイ 庭園にて開催する大
 祇園エン 梨園エン 山園エン 名園エン
 果園エン 御園エン 禁園エン 公園エン
 庭園エン 樂園エン 莊園エン

【圓】エン 漢 吳
 ①まどか、まるし
 して角なし)めぐる、まはり(卵)に同じ
 【同訓異義】まる
 【丸】エン 漢 吳
 ①はまんまるくころげるもの、意
 【圓】エン 漢 吳
 ①はまんまるくあつめる義。
 【圓心】エンシン 圓形の正中の一點。

【圓光】エンクワウ 佛。
 菩薩等の頭上より
 發する光のこと、
 ごくわう。
 【圓坐】エンザ くるま
 ぎ、丸くすわる貌。
 【圓周】エンシュウ 圓形のまはりのふちのこと。
 【圓柱】エンチュウ まるばし、又圓き筒形の
 【圓徑】エンケイ 圓のさしわたし。立體。
 【圓寂】エンジャク 僧の死、入寂。
 【圓助】エンシュウ 一圓札のこと、又一圓。
 【圓座】エンザ 藁又は葦などにて圍く平ら
 にあみたるしきもの。
 【圓頂】エンテイ ①まるき頭、坊主あたま
 ②頭髮を剃りたる者、僧侶。
 【圓圓】エンエン まんまる、まるいさま。
 【圓滑】エンクワツ ①圓くしてなめらか(角
 だたぬ貌)②んこつと讀むは誤り。
 【圓影】エンエイ ①まるきかげ(月)の異名。
 【圓融】エンユウ 圓満。
 【圓満】エンマン 物にかどを立てずして和ら
 【圓熟】エンジュク ①上手になる(物)事に熟
 達したるさま、あかぬげがする。
 【圓轉】エンテン ①まるびめぐる貌、圓轉滑脱。
 【圓太郎】エンタラウ 東京にて昔がたくり馬
 車を圓太郎馬車と云ひしより今の東京



(光 圓)

市管自動車の粗末なのを嘲つていふ。
 【圓周率】エンペラツク圓の直径と四周との比
 直径一に對し圓周率は三・一四一六。
 【圓錐形】エンペラツク①まるぎりのやうに尖
 つた形②圓を底とし點を頂とする。



(體錐圓)

【圓錐體】エンペラツク圓錐
 面とこれを切る平面
 とに圍まれる立方體
 【圓山派】マルヤマ 圓山
 應舉の創めたる畫風
 及び其派を奉ずる人々
 【圓鑿方柄】エンペラツク物事の相合はぬと
 一圓エンチ 廣圓エンチウ 平圓エンチ 圓圓エンチ
 周圓エンチ 通圓エンチ 穹圓エンチ 碧圓エンチ

十一畫

【圖】漢ト 注圖俗に畫に作るは全
 吳ツ 然別字である①はかる
 問ふ、相談す②五がく③のぞく(除)④
 ぬる(塗)⑤計算、勘定⑥点(繪)⑦五づ
 【圖視】クワンテ 取り巻いて注視する。
 【圖繞】クワンゼウ めぐる、かこふ、まは
 り、まはりめぐる、まはりくねる。

【圖】漢ト 注圖俗に畫に作るは全
 吳ツ 然別字である①はかる
 問ふ、相談す②五がく③のぞく(除)④
 ぬる(塗)⑤計算、勘定⑥点(繪)⑦五づ
 【圖視】クワンテ 取り巻いて注視する。
 【圖繞】クワンゼウ めぐる、かこふ、まは
 り、まはりめぐる、まはりくねる。

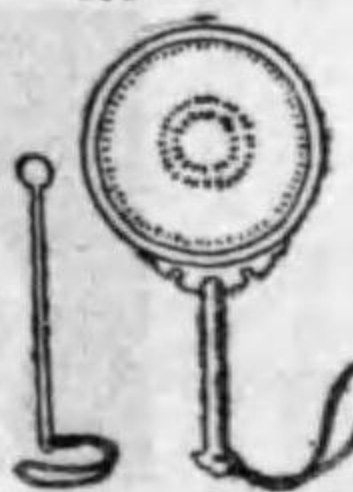
【圖】漢ト 注圖俗に畫に作るは全
 吳ツ 然別字である①はかる
 問ふ、相談す②五がく③のぞく(除)④
 ぬる(塗)⑤計算、勘定⑥点(繪)⑦五づ
 【圖視】クワンテ 取り巻いて注視する。
 【圖繞】クワンゼウ めぐる、かこふ、まは
 り、まはりめぐる、まはりくねる。

【圖書】トシロ 繪圖と書物、又單に書籍。
 【圖南】トナト 大事業を思ひたつこと。
 【圖工】ツコウ ぬかき、畫工。
 【圖面】ツメ 圖のおもて、繪圖面。
 【圖案】ツアン 圖畫の意匠又は下書。
 【圖章】ツシヤウ いんばん、印章。
 【圖畫】ツガウ ぬがく、ぬをかく。
 【圖解】ツカイ 繪圖にて分りよく説き示す
 【圖樣】ツヤウ 繪圖の様式、ぬのかた。
 【圖會】ツエ 圖と繪。「覽せしむる所」
 【圖書館】トシヨクワン 圖書を貯へて公衆に閱
 【圖書寮】ツシヨレウ 昔は中務省に屬し圖書
 の保存、收集より國史の修撰、及び宮中
 の佛事等を掌りし役所であるが今は宮
 内省に屬し圖書の收集保管及び皇室皇
 族に關する記録を掌るつてゐる。
 英國トイ 皇圖トクワウ 壯圖トクワウ 深圖トシ
 異圖トク 版圖トハン 遠圖トエン 雄圖トユウ
 鴻圖トコウ 畫圖トグワ 帝圖トタイ 永圖トエイ

【團】漢ダン ①まるし
 つまり(集)よりあふ、かたまる②物の
 集まり結ばれたるさま③軍隊のくみあ
 ぐる、まはる(旋轉)
 【團圓】漢ダン ①まるし
 つまり(集)よりあふ、かたまる②物の
 集まり結ばれたるさま③軍隊のくみあ
 ぐる、まはる(旋轉)

【團】漢ダン ①まるし
 つまり(集)よりあふ、かたまる②物の
 集まり結ばれたるさま③軍隊のくみあ
 ぐる、まはる(旋轉)
 【團圓】漢ダン ①まるし
 つまり(集)よりあふ、かたまる②物の
 集まり結ばれたるさま③軍隊のくみあ
 ぐる、まはる(旋轉)

法は二二五頁の圖を見よ。
 【團子】ダンゴ ①米の粉をこねてむし丸め
 た食品②すべて粉を丸めて作つたもの
 【團月】ダンゲツ まるき月、月のまるき形容。
 【團社】ダンシヤ 組合をつくること。
 【團匪】ダンビ 支那に起りし賊、義和團。
 【團長】ダンチャウ なかまのかしら。
 【團扇】ダンセン ①うちは②歌の名。
 【團參】ダンサン 團體にて諸方の神社佛閣に
 參詣する意、團體參詣の略。
 【團結】ダンケツ ①組をむすぶ②多くの者が
 一體となるさま。
 【團圓】ダンエン ①物の多く集りたる形②ま
 【團圓】ダンエン ①をはり②一家和合の貌。
 【團樂】ダンラク ①圓形をなすこと②團子③
 一家和樂の貌④一家團樂。
 【團體】ダンタイ 一むれ、一くみ 注圖團隊と
 書くは誤り。
 【團扇太鼓】ウチハダイコ
 一枚革をまるく張
 り柄をつけて團扇
 形に拵へた太鼓。
 一團ダン 月團ダン 蒲團フクタン 兵團ヘイ
 戎團ヂユウ 軍團ダン 疑團ダン 分團フン



(鼓太扇團)

土部

【園】漢エン クワン めぐる(繞)
 吳ラン ゲン かこむ(圍)
 【園流】クワンリウ 水のめぐり流れること。
 【園視】クワンテ 取り巻いて注視する。
 【園繞】クワンゼウ めぐる、かこふ、まは
 り、まはりめぐる、まはりくねる。

十九畫

【園】漢エン クワン めぐる(繞)
 吳ラン ゲン かこむ(圍)
 【園流】クワンリウ 水のめぐり流れること。
 【園視】クワンテ 取り巻いて注視する。
 【園繞】クワンゼウ めぐる、かこふ、まは
 り、まはりめぐる、まはりくねる。

土部

【土】漢ト ①つち、
 か、地②くに(邦土)③わざ(業)④をる
 (居)居る所、場所⑤はかる(度)⑥地の
 神⑦五行の一⑧八音の一⑨土を燒きて
 つくりし樂器)
 【土人】トジン 昔より其の土地に住居せる
 人及びその子孫のこと。
 【土工】トコウ ①土木事業、又その工事の
 したばたらきをする人②燒物師。
 【土木】トボク 土地を基礎とする工事、建
 築・道路等の工事。

【土手】トテ つつみ、土の小高きところ。
 【土民】トミン 土人に同じ。
 【土用】トヨウ 曆の節の名、一年中四度あ
 り十八日を一期とす、普通は夏の土用
 の十八日間のみをいふ。
 【土地】トチ ①地面②或る地方。
 【土性】トセイ ①土質、地味②五性うちの
 の土の性。
 【土宜】トギ ①其の地に適する産物②みや
 【土芥】トカイ 土と芥、價値なきものこと
 【土芋】トウヤウ 薯の一種、
 かしゆら芋、け芋。
 【土足】トソク ①土の
 ついた足②履物の
 儘の足③土足にて
 踏込む。
 【土物】トブツ 土地の産物、轉じてみやげ。
 【土風】トフウ その土地の習慣・風俗。
 【土砂】トシヤ すな、つち。
 【土星】トセイ 太陽系の第
 六位の遊星、二十九年
 にて太陽を一週す。
 【土俵】トヘウ ①土を俵に
 いれたるもの②相撲をとる場所。
 【土俗】トゾク 土地の風俗。
 【土瓶】トビン 土製の湯茶を沸かすもの。



(芋土)



(星土)

【土匪】トヒ その土地に據つて亂を起す土
 民、土地のわる者、あだをなす不良住民
 【土偶】トウ 土にてつくりたる人形。
 【土産】トサン 土地の産物、みやげ。
 【土筆】トシツ すぎなの花、つくし。
 【土葬】トソウ 四葬の一、死體を埋める。
 【土間】トマ ①床の張つてなき座敷②演劇
 の舞臺に面して下通りの中央廣場。
 【土塀】トヘイ 土で作つたへいのこと。
 【土塊】トクワイ つちくれ、土のかたまり。
 【土窟】トクツ あなぐらのこと。
 【土著】トチャク 其の土地に常居せること及
 びその者④土著の民。
 【土賊】トソク 亂を起せし農民、百姓一揆。
 【土臺】トダイ ①建物の最下部の横木②轉
 じて總て物の基礎となるもの。
 【土管】トクワン 土燒きの管。
 【土質】トシヤク 土地の良否、地味、地質。
 【土蕃】トバン 土著のえびす。「土燒の器」
 【土器】トキ ①かはらけ②釉藥を施さる
 【土橋】トバシ 上に土をおほうた橋。
 【土鍋】トナベ 土をやいて作つた鍋。
 【土曜】トエウ 一週七日に七曜を配したる
 第七日目の日、土曜日。
 【土藏】トサウ 土にてぬりし倉、ぬりこめ。
 【土壤】トレイウ ①耕作すべき土地②つち。

ちこくと讀むは誤り。

【地誌】地理の書物、地志。

【地動】一定の法則に従ひ地球が太陽の周りを移動する自轉・公轉の稱。

【地割】地面を區劃すること。

【地雷】地雷火の略。

【地境】區劃された地面のさかひ。

【地學】地理を研究する學問。

【地勢】地形に同じ。「死後に陥る所」

【地獄】極樂の對、生前惡業ある者の

【地圖】地球上の山河・海洋・國土・其

他の状態を描きたる圖。

【地熱】地球の内部にある自然熱。

【地盤】①家屋などの基礎となる土

地②行為及び勢力の土臺となる所。

【地層】地球の外皮を成せる層。

【地鼠】食蟲類の獸で

形は普通の鼠に似て稍小

さく口吻は細く突き出で

毛は短く柔くて長い尾の

端に長い毛がある。

【地價】土地臺帳に記

載された土地の價格②實際に土地賣買

の價格、普通は①の場合を言ひ地租を

賦課する標準となす。

【地質】土地の軟硬乾濕等の性質。



(鼠地)

【地震】火山の爆發・地熱の作用其

他の原因より地面の動搖する現象。

【地積】土地の面積。

【地點】一つの場所、或る土地。

【地變】地面に

起る災害・火事・洪

水・地震等の如き

もの。

【地管】つばな

といふ一種の植物

一名白茅ともいふ。

【地蠶】地中より出

づる小蟲。

【地上權】他人の土

地を使用する權利、借地權

【地久節】皇后陛下

の御誕生日を祝ふ祭日の稱。

【地方債】公債の一種で國債に對

し府・縣・市・町・村等の地方自治團體が

起すところの公債をいふ。

【地方色】其土地特有の自然・人

情・風俗等をいふ、ローカル・カラー。

【地方稅】各府縣の收入として徴

收する税金。「事務をとり扱ふ官廳。

【地方廳】府縣廳の如く地方官の

【地文學】地球と天體の關係・空



(管地)



(蠶地)

界・水界・地球等を研究する學問。

【地役權】土地の所有者が他人の

所有に屬する土地を使用する權利。

【地雷火】地中に爆發物を埋め發

火爆發せしむる仕掛をしたるもの。

【地球儀】地球の形を作りて表面に

地圖をかき表はした者。「究する學問。

【地質學】地殼の組織構成等を研

【地理學】地理を研究する學問。

【地磁氣】地球が天然に有せる磁石力

【地震口】雨戸の内に設けたく

り戸。「弱をはかる器械。

【地震計】地震の状態又はその強

【地鎮祭】土地の基礎工事を初め

る前に取行ふ祭儀。「した鐵道。

【地下鐵道】地中を鑿通して敷設

【地方公職】地方自治體の事

務を扱ふ職にあるものこと。

【地方長官】府縣知事の如く

【地方行政事務を管掌する上級の地方官

【地方官廳】地方の行政を扱

ふ役人の事務を執る役所。

【地球自轉】地球が地軸を中心に

回轉すること。「雲を守護する佛。

【地藏菩薩】慈悲を主とし子供の

勝地 賣地 采地 掃地

【均等】均一に同じ。

【均衡】釣合ひ均衡をとる。

【均霑】平等に霑ふこと。

【均輸法】其土地に多く産する貨

物を租稅として出さしめて時價の暴落

を防ぎ、政府は更にそれを同貨物の乏

しき土地へ賣り拂ひて其暴騰を防ぐ法

國均 齊均 平均 潔均 清均

天均 廉均 調均 清均

【坊主】(巷)へや(房)いへ(家)皇太子

の舍(東宮御所)てら(寺)ふせぐ

(防)さふ(障)つみ(堤)國訓ば

ら、子供、僧形の人(坊主)

【坊舍】坊舍の主人、僧侶。

【坊間】僧の住む所、僧房に同じ。

【坊間】まちなか、せけん。

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【圭】漢ケイ

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【均】漢キン

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坊】漢ハウ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

【坐】漢サ

讀むは誤り。「又は終日を意味す。

- 【坐臥】ザクワ ①坐したり臥したり。日夜
- 【坐食】ザシヨク ①はたらかずして生活する意
- 【坐視】ザシ ①見ながら其事に關係せぬ貌
- 【坐席】ザセキ ①すわる場所。席の順序。
- 【坐骨】ザコツ ①臀部の骨、おしりのほね。
- 【坐業】ザゲフ ①すわつて居てする手しごと
- 【坐睡】ザスキ ①坐して眠る、おねむり。
- 【坐礁】ザセフ ①舟の暗礁に乗り上げる事。
- 【坐禪】ザゼン ①佛家の修行、靜かに黙坐して妙理を究むる法、靜思。
- 【坐職】ザシヨク ①すはりしごと、坐業に同じ。
- 【坐作進退】ザサシシタイ ①たちひふるまひ。
- 【偶坐】ゴザ ①兀坐。待坐。靜坐。
- 【危坐】キザ ①危坐。足坐。端坐。

【坑】カウ 漢カウ ①あな(穴)土あな。むなし(空)。

- 【坑口】カウコウ ①鐵物を掘出す穴の出入口。
- 【坑夫】カウフ ①鐵山・炭坑など坑内にて仕
- 【坑内】カウナイ ①あなのなか。「事する者」
- 【坑道】カウダウ ①炭坑などにて使用の穴道。
- 【坑陷】カウケン ①地面がくぼんで出來た穴。

【址】シ 漢吳 ①もと(基)。

【壘】リ 漢フン ①ちり(塵)。

【坎】カン 漢カン ①あな(穴)おとし

【坏】クワイ 漢ハイ ①二つ重りたる山

【赤】セキ 漢セキ ①一〇〇二頁の赤を見よ。

【坤】コン 漢吳 ①易の卦

に對す、つち(地)をか(陸)。

【坪】ヘイ 漢ヘイ ①地のたひらかなる所。

【垂】シ 漢シ ①たる、さがる、ぶらさがる、かゝる

【堞】ダク 漢ダク ①あづち(射弓の的)

- 【堞】ダク 漢ダク ①あづち(射弓の的)をかける所。
- 【垠】ギン 漢ギン ①かぎり(限界)。
- 【垢】コウ 漢コウ ①あか(赤)ちり(塵)。
- 【垢面】コウメン ①あかづきたるかほ。
- 【垢氣】コウキ ①俗氣、けがれたる氣。
- 【垢脂】コウシ ①あぶらあか、あぶらあせ。
- 【垢拔】コウハツ ①いきなやうす、粹なさま。
- 【封】フウ 漢フウ ①封を封を見よ。
- 【栽】サイ 漢サイ ①栽を見よ。
- 【者】ジャ 漢ジャ ①者を見よ。
- 【袁】ユエン 漢ユエン ①袁を見よ。



(堞)

に諸國の神人に生れ變つて出現し佛法の跡を遺す。

- 【垂柳】スエリウ ①しだれやなぎ、垂楊。
- 【垂教】スエキウ ①垂示に同じ。
- 【垂涎】スエセン ①涎を流す、ものを望み欲する念の切なるをいふ。
- 【垂線】スエセン ①平面と九十度の角度をなし
- 【垂纒】スエエン ①高位又は有爵者の義。
- 【垂木】スエキ ①棟よりのきにわたす材、椽。
- 【垂水】スエスイ ①瀧の古語、瀑布。
- 【垂直線】スエチヨクセン ①地平面に對して九十度の角度を有する線のこと。

【坩】カン 漢カン ①つぼ、土の壺。



(坩)

【坦】タン 漢タン ①ひろ(寬)たひら

〔埋〕〔埋〕

漢 バイ ①うづむ
おほひかくす(隠) ②をさむ(藏) ③おぎ
なふ(補) ④國訓らめる、不足を補ふ、
代償する

〔埋伏〕マイフク 埋つて隠れること。
〔埋没〕マイボツ 埋つて見えずなる。
〔埋設〕マイセツ 地中にうづめまうける。
〔埋骨〕マイコツ 骨を埋む、死して葬らる。
〔埋葬〕マイサウ 埋め葬る。「知れざる」こと。
〔埋藏〕マイザウ 久しく埋没してその所在の
〔埋木〕ウモレキ ①木の穴を填充したる木 ②
太古の木材が河床に埋れて硬化した物
〔埋火〕ウツメヒ 灰をおほひて埋めた火、
〔埋立〕ウツメテ 海河を埋めて陸となした所
〔埋合〕ウツメハセ いれあはせ、代償。
〔埋草〕ウツメクサ 缺けた部分又はあいたとこ
ろを満すための物。
〔埋葬〕シヂムレ 甲蟲の一
種で前鞘翅は黒色にし
て三條の赤褐色の紋が
あり好んで動物の死屍
に集まる、幼蟲も亦腐敗物を好む。



(蟲葬埋)

〔城〕〔埒〕

漢 セイ
吳 ジヤウ

①しろ ②みやこ
(國都)くに(國土)
③築く ④とりで
(堡壘)



(城)

〔城下〕ジヤウカ ①城の
外 ②大名の居城の都
〔城内〕ジヤウナイ ①城の中 ②國內、領内。
〔城市〕ジヤウシ 大名の城のあるまち。
〔城代〕ジヤウダイ 城の代官、城の留守居役。
〔城主〕ジヤウシュ 一城の主人。「城持大名」
〔城守〕ジヤウシュ 城を守る人 ②徳川時代の
〔城旦〕ジヤウタン 周代の刑法、四年の刑期
の罪人、毎朝城普請の役に従ふ罪人。
〔城門〕ジヤウモン 城の門。「書くは誤り」
〔城址〕ジヤウジ 昔城のありし所 ②城址と
〔城府〕ジヤウフ ①市街のかこむ、城下 ②心
〔城砦〕ジヤウサイ ①とりで、しろ。「のへだて」
〔城郭〕ジヤウクワク しろのくるわのこと。
〔城柵〕ジヤウサク 城壁に同じ、とりで。
〔城塞〕ジヤウサイ 城、とりで。
〔城樓〕ジヤウロウ 城の物見やぐら。
〔城壘〕ジヤウレイ ①とりで。「けた門」
〔城戸〕キド ①城の門 ②通路の出入口に設
め込まれて和約を結ぶこと。

火城 ジヤウ
牙城 ジヤウ
帝城 ジヤウ
千城 ジヤウ
禁城 ジヤウ
鳳城 ジヤウ
皇城 ジヤウ
金城 ジヤウ
宮城 ジヤウ
堅城 ジヤウ
古城 ジヤウ
傾城 ジヤウ
漢 吳 ぼこり、ちり、ごみ、あ
埃 アイ ①くた、けがれ
埃霧 アイイ ①砂ぼこり ②けがれ、汚濁。
埃及 エヂラト 阿非利加にある國名。
織埃 アイ 塵埃 アイ 黄埃 アイ 氛埃 アイ
埃 漢 吳 ぼこり、ちり、ごみ、あ
埃 漢 吳 ぼこり、ちり、ごみ、あ
埃 漢 吳 ぼこり、ちり、ごみ、あ

八畫

〔埒〕〔埒〕

漢 ハイ ①つち
吳 バイ かふ、

〔域〕〔域〕

漢 キキ ①さか
吳 キキ ひ(境)

かぎり(限)はて(際涯) ①くに(邦土)地
②ひくきかき ③場所、ところ
〔城内〕キキナイ 定められたる場所の内。
〔城外〕キキガイ 城内の反対、區域のそと。
異域 キキ 埒域 キキ 邦域 キキ 疆域 キキ
國域 キキ 西域 キキ 邊域 キキ 里域 キキ

〔埒〕〔埒〕

漢 シヨク はに、
吳 シキ ①ねば



(輪埒)

〔埒土〕シヨク ねばつち、には土。「の略」
〔埒生〕ハニ はにのある地、又埒生の小屋
〔埒輪〕ハニウ 埒土で
作つた人馬・鶏の
類、殉死の代りに
墳墓の周圍に立て
し物。
〔埒師〕ハニシ 埒輪を造りし部民。
〔執〕シツ 吳 シフ ①とる
〔執〕シツ 漢 シツ もつ
まもる(守) ②ふさぐ(塞) ③とらふ(捕)
④はからふ(處置) ⑤をそる(畏) ⑥もて
なす ⑦とも(友)
〔同訓異義〕とる 執・取・採其他の用法
は一七九頁の取を見よ。
〔執行〕シツカウ ①とりおこなふ ②官公吏が
其の職務を實行する。
〔執事〕シツジ ①家政を取扱ふ人 ②鎌倉幕
府の政所及び問注所の職名 ③室町時代
の執政、大官の姓名に代へ用ゐる敬語。
〔執持〕シツヂ ①とりもつ、とりなす。
〔執柄〕シツペイ ①政權をとる ②關白の異稱

〔執拗〕シツエウ ①かたいちにして人に従はぬ
こと、しつこし。「を執り行ふ人」
〔執政〕シツサイ ①國政を執る ②國家の政治
〔執奏〕シツソウ 人民の意見・上書などを天
子に取りつぎて上奏す、又その者。
〔執務〕シツム 事務を執る、業務に従ふ。
〔執筆〕シツヒツ 文章を作り又文字等をか
く
〔執權〕シツケン ①政權をとる ②昔將軍の輔
佐となりし人、執權職。
〔執心〕シツシン 一心となる、深く思ひこむ。
〔執念〕シツネン 深く思ひこむ、一心に思ふ。
〔執著〕シツチャク ①一心に思込み忘れぬ貌。
②執著 ③シツチャク 區裁判所に屬し法律に
従ひ訴訟に關する書類の送達及び裁判
の執行をなす者。
〔執行命令〕シツカウメイ 法律を執行する爲
に發する命令にて施行規則若くは施行
細則の名稱を以て發する勅令又は省令
〔執行猶豫〕シツカウイウ 或期間中刑の執行
を猶豫し其期間中を事無く経過すれば
服罪を免れしむる特殊の恩典。
〔執行妨害罪〕シツカウバウガイザイ 職務を執行
の官公吏に暴行脅迫を加へて正當の執
行をなし得ざらしめた者に科する罪。
固執 シツコク 拘執 シツコウ 友執 シツユウ 確執 シツカク
父執 シツフ 幽執 シツウ 虐執 シツゲツ 禁執 シツキン

〔培〕〔培〕

漢 ハイ ①つち
吳 バイ かふ、

やしなふ(養) ②ありつか(蟻埒) ③をか
(丘) ④つみ(堤) ⑤よる、よりかゝる
⑥ます(益)ふやす、ふやします
〔培根〕パイコン 根元をつちかひ養ふ。
〔培植〕パイレイク ①人材を養成すること ②
草木を養ひ育てること。
〔培養〕パイヤウ 草木をつちかひ養ふ。

〔基〕〔基〕

漢 吳 ①もさむ、
キ もと、はじ

め(始) ②すき(礎) ③まうく(設) ④キロの
あて字(或數に冠して其千倍を表はす)
〔基本〕キホン 物のはじめ、おこり。
〔基因〕キイン ①もとむ、もと ②ねもと。
〔基金〕キキン 事業の基本となる金。
〔基業〕キギョウ 基となる事業、家業。
〔基調〕キキョウ もと、よりどころ、基本。
〔基礎〕キソ 建物などのどだい、いしづゑ。
〔基數〕キスウ 數の基本、一より九迄の數。
〔基本金〕キホンキン 事業のもととなる金。
〔基督教〕キリストキョウ 宗教の名、耶穌教。
〔基本財産〕キホンザイサン 其收益を以て或事
業の費用に充つる目的で設備する財産
〔基本單位〕キホンタンイ 數量に於けるすべて

の單位中の大本となる單位、之に對し他の單位を補助單位といふ。

開基キキ 國基クニキ 弘基ヒロキ 舊基キウキ 洪基フウキ 福基フクキ 大基ダイキ 盤基パンキ

【埼○】**埼** 漢キキ、岸頭

【堀○】**堀** 漢キキ、岸頭

漢タツ コツ 吳コチクチ 堀は名詞、堀は動詞として區別して用ふ。ほる 國訓ほり(穿ちたる川・池・穴)

【堂○】**堂** 漢タウ ①おも

き(家の正面の南向の座敷) ②朝廷、又は神社佛閣 ③他人の母の敬稱 ④盛んな貌 ⑤山の廣く平らかな所

【堂乎】**堂乎** 漢タウ てざし

【堂宇】**堂宇** 漢タウ どつしりとしたさま。

【堂塔】**堂塔** 漢タウ いかめしく盛んなる貌、勇氣あるさま、公明正大なるさま。

【堂塔】**堂塔** 漢タウ 堂と塔、寺院などに用ふ。

後堂ゴウドウ 深堂シンドウ 黃堂ワウドウ 梵堂バンドウ 塾堂ジュドウ 覺堂ケウドウ 朝堂テウドウ 天堂テンドウ 青堂セイドウ 心堂シンドウ 哄堂フウドウ 講堂コウドウ

【堅○】**堅** 漢ケン ①かたし

②ひさし(久)ながし(長) ③よるひ(甲)

【堅守】**堅守** 漢ケン ①主義節操を堅く守る ②城塞・とりで等を堅く守る。

【堅固】**堅固** 漢ケン 我慢強い、能くこらへると。

【堅實】**堅實** 漢ケン 堅牢に同じ。

【堅壘】**堅壘** 漢ケン 要害よ

【堅魚木】**堅魚木** 漢ケン 社殿の棟上に並列せる圓棒の如き物。

【堅牢地神】**堅牢地神** 漢ケン 大地を守護する女神、よく大地をして堅牢ならしむといふ、其像は赤肉色にして左手に鉢を持し鮮花を盛る

【剛堅】**剛堅** 漢ケン 中堅チュウケン 貞堅テイケン 牢堅ラウケン



(神地牢堅) (木魚堅)

被レ堅カケン 排レ堅ハイケン 構レ堅カウケン

【埠○】**埠** 漢ホ ほとば、ふなつきば

【堦○】**堦** 漢ケン ①ねばつち

【堦】**堦** 漢ケン ①ねばつち

【堆○】**堆** 漢タイ ①詰りうづだかし

【堆肥】**堆肥** 漢タイ つみごえ、貯へてある肥料。

【堆積】**堆積** 漢タイ うづだかくつもる。

【聖○】**聖** 漢アク ①しろつち、

【聖室】**聖室** 漢アク ①白壁の家 ②服喪者の室。

【聖筆】**聖筆** 漢アク 白墨、白チヨーク。

【埤○】**埤** 漢アキ ①田のさかひ、

【埤】**埤** 漢アキ ①埤き土 ②梵語のタ音

九畫

【堤○】**堤** 漢テイ ①どて、つみみ(堤) ②土を積み築き水を防いでうね(畝)

【堤防】**堤防** 漢テイ つみみ、どて。

【堤塘】**堤塘** 漢テイ 堤防に同じ。

【堪○】**堪** 漢カン ①たふ、

【堪】**堪** 漢カン ①たふ、

【堪忍】**堪忍** 漢カン たへしのぶ、がまんする。

【堪能】**堪能** 漢カン 才能がすぐれて物事に巧者

【堪當】**堪當** 漢カン 山の形の奇異なるさま。

【堯○】**堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【堯堯】**堯堯** 漢イ ①たかし

【報○】**報** 漢ハウ ①むく

【報】**報** 漢ハウ ①むく

【報文】**報文** 漢ハウ 返事の文書。

【報仇】**報仇** 漢ハウ 仇をかへす。

【報告】**報告** 漢ハウ 事情を告げ知らす、答へ告

【報音】**報音** 漢ハウ 知らせ、たより。

【報知】**報知** 漢ハウ 知らせること。

【報施】**報施** 漢ハウ ほどこす、めぐみ與ふ。

【報怨】**報怨** 漢ハウ 怨みをかへす、仇をむく。

【報恩】**報恩** 漢ハウ 恩をかへす、恩にむく。

【報書】**報書** 漢ハウ 通知の文書。

【報國】**報國** 漢ハウ 國家の恩澤に酬ひて盡す。

【報章】**報章** 漢ハウ へんじ、返書。

【報答】**報答** 漢ハウ むくひ答ふ。「は誤り、

【報道】**報道** 漢ハウ 報告に同じ ②報導と書く

【場○】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【場】**場** 漢チヤウ

【塵務】チンム 社会のつとめ、俗務。
 【塵氛】チンフン けがれたる氣、俗臭。
 【塵軌】チンキウ 人生の係累、世のほだし。
 【塵境】チンキョウ この世、人間界、塵界。
 【塵襟】チンキン 愚にもつかぬ考へ、俗情。
 【塵寰】チンケン この世、うきよ、俗世。
 同塵ドウ 拜塵ハイ 凝塵ギョウ 六塵リク
 灰塵クワイ 霽塵フウ 風塵フウ 埃塵アヒ
 紅塵コウ 沙塵サ 荒塵クワウ 心塵レン

【塾】シユク 漢シユク ①へや 門側の堂 ②學校 又、學問所の寄宿部屋
 【塾主】シユクシユ 塾のあるじ、校長。
 【塾生】シユクセイ 塾舎の學生、寄宿生。
 【塾舎】シユクシヤ 學業を修むる家、學校。
 【塾長】シユクチャウ 塾舎の長、塾舎の頭、塾主に代りて助教などする者。
 【塾頭】シユクトウ 前に同じ。
 【境】キョウ 漢ケイ ①さか ②かぎり ③くに(邦土) ④ところ(場所)地位
 【境内】ケイダイ ①さかひの中 ②神社・佛閣の構への中 ③讀けないと讀むは誤り。
 【境字】キョウジ 國のさかひ、國境。

【境界】キョウカイ ①土地の區域を定める分劃點、さかひ、かぎり、きは ②所、場所。
 【境涯】キョウガイ ①さかひ、かぎり ②まはり合せ、此世に於ける身分。
 【境域】キョウイク 限られたる場所。
 【境遇】キョウキョウ ①まはり合せたる運命 ②身の置きどころ、現在の身分。
 【境界石】キョウカイセキ 境をしきるしもの石
 【境界面】キョウカイメン さかひした表面。
 【境界線】キョウカイセン さかひのすぢ。
 佳境カキョウ 夢境ムキョウ 靈境レイキョウ 蓮境レンキョウ
 遠境エンキョウ 聖境セキョウ 逆境ギャクキョウ 眞境シンキョウ
 邊境ヘンキョウ 異境イキョウ 幽境ユキョウ 國境コクキョウ

【墓】ボ 漢ボ はか、おく 葬る所 ①つか、盛土なきつか
 【墓石】ボセキ 墓の石、石塔。
 【墓地】ボチ 人の屍を葬る處、はかば。
 【墓表】ボヘウ 死者の經歷を記したる文。
 【墓所】ボシヨ 是かば、墓地。
 【墓前】ボゼン 墓石のまへ、はかのまへ。
 【墓參】ボサン 墓まゐり、墓祭。
 【墓標】ボヘウ はかじるし、墓志。
 【墓碑】ボヒ 墓の石ぶみ、石塔、墓碑。
 【墓銘】ボメイ 墓碑に記せし押韻の文。

【墓誌】ボシ 墓石にするす文辭。
 【墓誌銘】ボシメイ 墓標に彫みつけたる死者の德行功績等の文辭。
 丘墓キウボ 墳墓フン 盧墓ロ 塹墓エイ

【塹】ゼン 漢ゼン 慣用音 ゼン 塹に作る ①城を繞れるほり(濠) ②あな(坑) ③ほる(掘)
 【塹壘】ゼンルキ ぼりとよりで。
 【塹濠】ゼンガウ 城のまはりの濠。
 【塹壕】ゼンガウ 敵彈を防ぐ爲のからぼり
 【塹壕戰】ゼンガウセン 塹壕を掘り兵士をその中に隠し銃砲彈や爆彈等にて互に破壊を企てつゝ敵の塹壕を奪ひ合ふ野戰。
 【塹】ゼン 漢ゼン かはら(瓶)
 【塹】ゼン 漢ロウ 小さいをか、つか、吳ル ありづか(蟻蛭)
 【塹】ゼン 漢シヨヤ 註 塹と讀むは誤り ①田圃中のいぼり ②しもやしき(別莊) ③郊外の地
 【塹】ゼン 國字 ①かき、へい、邸門の外に設



(塹 壘)

ける目かくし ①おほひ
 【塹】ゼン 漢ゼン ①おつ うしなふ(失) ②おとろふ
 【同訓異義】 おつる 墜・墮・落等の用法は八九一頁の落を見よ。
 【墜下】ツキカ おちる、落下。
 【墜落】ツキラク 高き所より落ちること。
 【墜葉】ツキエフ おちば、落葉。

【層】ソウ 漢ソウ ①おほひ ②おほし(衆) ③かさなる
 【同訓異義】 ますます 増・倍・益其他の用法は七一二頁の益を見よ。
 【増大】ゾウダイ ふえる、大きくなる。
 【増水】ゾウスキ 河・池等の水かさのますと。
 【增收】ゾウシウ 取り入れ高のふえること。
 【増加】ゾウカ 増し加へる、ふやす。
 【増長】ゾウチャウ 驕る心の増し加はる貌。

【増師】ゾウシ 師團の増設を略した新聞雜俎
 【増俸】ゾウホウ 俸給を増す、増給。「誌語」
 【増益】ゾウエキ 加へ増す、ふえる。
 【増減】ゾウケン 増すと減らす、加減。
 【増進】ゾウジン 益々進む、發展する。
 【増補】ゾウホ 不足を増し足して補ふ。
 【増殖】ゾウシヨク ふやします。
 【増資】ゾウシ 資本を増加すること。
 【増築】ゾウチク 建て増し、まじきづく。
 【増額】ゾウガク ①たかをます、たかをふやす ②土地・家屋及び諸種の動産に修繕其の他の改良工事を施した爲め價格數量等の増加するをいふ。
 【増敷】マレシキ 相場の變動が甚しい際危険を未然に防ぐ爲に賣買者の雙方から更に證據金を取ること、追敷、追證。
 【増擔保】マシタンボ 擔保品の價格の下落の爲に生じた不足額の擔保を入れること

【墨】ボク 漢ボク ①すみ、黒水 ②度の名、五尺の長さ ③五刑の一、いれずみ ④かなしむ貌 ⑤衰へたる貌 ⑥くらし、明らかならぬ貌 ⑦軟弱なる貌 ⑧駄に通じて用ひらる
 【墨斗】ボクト 矢立、墨壺。
 【墨汁】ボクジツ すみしる、インキ。

【墨池】ボクチ 墨汁を入れる具、墨つぼ。
 【墨刑】ボクケイ 昔領に入墨した刑。
 【墨竹】ボクチク ①墨繪の竹 ②竹の一種。
 【墨守】ボクシュ 元の状態を頑固に守ること
 【墨色】ボクシキ 墨汁の濃淡、すみいろ。
 【墨花】ボクカ 硯に染み込みし墨のつや。
 【墨車】ボクシャ 周代丈夫の乗用せし車。
 【墨帖】ボクテウ 石版ずりの手本。
 【墨客】ボクカク ①詩人・書家等の如く文筆を業とせる者 ②風流人。
 【墨堤】ボクテイ 隅田川東岸一帯のつゝみ。
 【墨痕】ボクコン 墨の蹟、文字
 【墨蹟】ボクセキ 前に同じ。
 【墨壺】ボクバク ①墨汁を入れる具、すみいれ ②墨繩に使ふ墨汁をたくはへおく大工道具。

【墨水紙】ボクスイシ 吸取紙、吸墨紙。
 【墨西哥】ボクシゴ 北米にある國の名、墨國。
 煙墨エンボク 深墨シンボク 細墨ジヨウ 翰墨カンボク
 白墨ハクボク 文墨ブンボク 粉墨コンボク 芳墨ハウボク
 淡墨タンボク 黛墨タイボク 朱墨シュボク 刀墨タウボク



(刑 墨)



(壺 墨)

【塹○礮】 漢 カウ ① やせち ② いし 吳 ケウ ち、あれち ③ 平

【塹塹】 カウカウ 耕作に適合せる石地、あれ地、やせ地、傾ける土地。

【墟】 漢 キヨ ① をか(大丘) ② あ 吳 コ と、ふるきあと ③

【墮】 漢 タイ ① 子をおろす、人工流産。 ② 高き所より落つ ③ 品性が ④ 道心を失ひ俗心となる

【墮胎】 タイ ① 子をおろす、人工流産。 ② 高き所より落つ ③ 品性が ④ 道心を失ひ俗心となる

【墮落】 タク ① 高き所より落つ ② 品性が ④ 道心を失ひ俗心となる

【墳】 漢 フン ① 土をもちたる墓 吳 ボン 盛土をしたるつか

【墳墓】 フンボ 死體を葬り石碑又は木標等に一定の表示を爲したる所、墓。

【墳塹】 フンケウ 大なるには火、あかり。 土手、水をふせぐ塹。

【墳樹】 フンジュ 墓場にある樹木のこと。 吳 フンジュ 墓場、わがふるさと、祖先の墓のある土地の意。

十三畫

【壁】 漢 ヘキ 吳 ヒヤク ① かべ、かこひ、かき、とりで(壘) ② 二十八宿中の星、なまめ(がけ) ③

【壁立】 ヘキリツ ① 壁の立てるのみにて他に家財なき意、貧家のこと ② 險しき崖の形容、垂直にきりたつ。

【壁虎】 ヘキコ ① 足利氏の末武家の家法を記したるもの、又其の家法・憲法は ② 文書のこと。

【壁畫】 ヘキガ ① 壁の中にぬりかくす義で古 ② 紙魚、衣魚。

【壁生草】 ヘキセイソウ ① つまで草、一に萬 ② 年草とも書く、濕 ③ 五月に五瓣の尖に



(草生壁)

黄色の小さき花を開く。

【壁訴訟】 カベソウジヨウ 壁に向ひてかこつ、ひとりていふ愚痴、ひとりつぶやき。

【高壁】 カウ ① 絶壁 ② 四壁 ③ 複壁 ④ 古壁 ⑤ 敗壁 ⑥ 峭壁 ⑦ 玉壁 ⑧ 巖壁 ⑨ 峻壁 ⑩ 崖壁 ⑪ 層壁 ⑫ 赤壁

【壇】 漢 タン ① まつ ② ひろし(寛) ③ 國訓だん、す ④ 一段と高いところ

【壇場】 タンヂヤウ ① 祭典・儀式などを行ふ爲めに設けた所、祭壇、一段高き所。

【壇浦主義】 タンポウシギ ① 最後に行詰まる ② ところまで行く主義。

【壇】 漢 アウ ① をか(陸)くが ② 吳 オウ 水のほとり、みぎ

【塹】 漢 アウ ① をか(陸)くが ② 吳 オウ 水のほとり、みぎ

【塹】 漢 アウ ① をか(陸)くが ② 吳 オウ 水のほとり、みぎ

【塹】 漢 アウ ① をか(陸)くが ② 吳 オウ 水のほとり、みぎ

【壅】 漢 ヨウ ① ふさぐ、せき(堰) ② せき、とづ(閉)うめ

【同訓異義】 ふさぐ 壅・塞・梗其他の用法は二三九頁の塞を見よ。

【壅塞】 ヨウサク ① ふさがる、ふさぐ。「まる。 ② はかどらぬ、ふさがりと ③ 才能をおほひかくす。

【壙】 六五三頁の壙を見よ。

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓】 漢 アフ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

【壓迫】 アツパク ① おしつける、おし迫る。 ② おしたふす、おさへつける、 ③ 屈服させる、大いに勝つ。

【壓】 漢 アツ エン 促音 アツ 吳 エフ オン

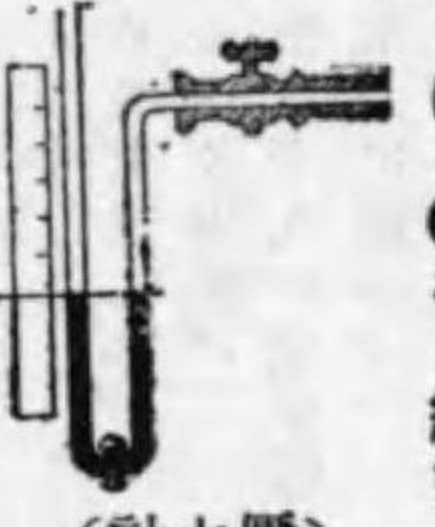
【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。



(計力壓)

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

【壘】 漢 ルキ ① とりで ② かさ ③ 小きき孔、細隙。

朽壤クワイ 殘壤クワン 敗壤クワイ 廢壤クワイ
折壤クワイ 沮壤クワイ 荒壤クワイ 裂壤クワイ
【壘〇】【壘】漢 タン ①さかざめ
訓びん、硝子の徳利 吳 ドン とくり 國

【壘〇】【壘】漢口 漢口
①つか、はか(家)②うね、くろ(畔)田
の高き所、あぜ(畦)

【壘〇】【壘】漢口 漢口
①つか、はか(家)②うね、くろ(畔)田
の高き所、あぜ(畦)
【壘〇】【壘】漢口 漢口
①つか、はか(家)②うね、くろ(畔)田
の高き所、あぜ(畦)
【壘〇】【壘】漢口 漢口
①つか、はか(家)②うね、くろ(畔)田
の高き所、あぜ(畦)

十七畫

【壤〇】【壤】漢 ジャウ ①やは
土②肥えたる地③富み足る④やぶる
(傷)⑤いりまじる(紛雜)⑥つち(地)
【同訓異義】くづる 壤・崩・頽等の用法
は三二九頁の崩を見よ。
【同訓異義】やぶる 壤・敗・破其他の用
法は七三二頁の破を見よ。
【壤土】ジャウ 耕地に適する土地。
【壤地】ジャウ 土地、邦土。
【壤壤】ジャウ 入りみだれるさま。
背壤ジャウ 蟻壤ジャウ 肥壤ジャウ 泉壤ジャウ

枯壤ジャウ 土壤ジャウ 糞壤ジャウ 豊壤ジャウ
天壤ジャウ 異壤ジャウ 朽壤ジャウ 擊壤ジャウ

士部

【士】【士】漢 吳 ①さむらひ
位の者②こと(事)こと③官位ある
者④男子の總稱⑤君子⑥兵卒⑦事に通
ずる、ことがら、しごと、わざ

【士女】シジョ 男女、をとことをんな。
【士分】シブン さむ、ひの身分。
【士卒】シソウ 下士・兵卒、侍と足輕。
【士官】シカン 兵卒を指揮する武官。
【士風】シフウ ①風紀、士氣②武士かたぎ。
【士族】シツク 昔の士の家柄。
【士魂】シコン 武士のきもだましひ。
【士道】シドウ 士の守るべき節義。
【士氣】シキ ①武士氣質、士人の意氣②軍
兵士卒の意氣③士氣大に振ふ。
【士君子】シクンニ 學徳共に高き人。
【士官學校】シカンガクカウ 陸軍の將校を養成
する學校。 「てわけた區別、四民。
【士農工商】シノウコウカウ 人民を職業によつ

名士シメイ 進士シレン 良士シリヤウ 正士シセイ
甲士シカウ 女士シジョ 壯士シサウ 文士シブン
國士シコク 義士シギ 力士シリキ 勇士シユウ
志士シシ 上士シジョウ 處士シシヨ 廉士シレン
善士シゼン 博士シハクセ 節士シセツ 烈士シレツ
信士シシン 雅士シガ 隱士シイレ 儒士シジュ

【壬〇】【壬】漢 ジン
①十千の第九位、みづのえ②任に通ず
はらむ③大いなり④おもねる、へつら
ふ(倭)⑤方角にては北方
【壬生部】シラベ 古昔、皇子誕生の時産湯
の事を司りし部民のこと。
【壬生狂言】シラベキヤウゲン 念佛をどりの一種

三畫

【吉】一八七頁の吉を見よ。

四畫

【壯〇】【壯】漢 シヤウ ①さか
②つよし(強)③大なり④三四十歳の頃
⑤さす(傷)⑥八月の異名⑦易の卦の名

【同訓異義】さかんなり 壯・熾・盛其他
の用法は七一三頁の盛を見よ。
【壯丁】チヤウテイ 働き盛りの男子、陸海軍の現
役兵に適する者。 「ころつき。
【壯士】サウシ ①氣力の盛んなる士②政界の
【壯心】サウシン 雄々しくさかんなる心。
【壯夫】サウフ 壯丁に同じ、又雄々しき武士
【壯志】サウシ 雄大なる心、大志。
【壯年】サウネン 働き盛りの年輩。
【壯勇】サウユウ 年わかくして元氣なる者。
【壯者】サウシャ わかくして血氣盛んの人。
【壯烈】サウレツ をしく盛んなるさま。
【壯圖】サウト ①さかんなるくはだて、勇ま
しきはかりごと。 「うに語る言葉。
【壯語】サウゴ ①雄壯なることば②つよき
【壯健】サウケン 元氣ありてすこやかなり。
【壯商】サウシヤウ 壯年、はたらき盛りの年輩。
【壯舉】サウキョ 雄大なるくはだて、壯圖。
【壯麗】サウレイ さかんにしてうるはし。
【壯觀】サウクワン 立派なる見もの、盛事。
健壯サウケン 大壯サウタイ 少壯サウシャウ 丁壯サウテイ
美壯サウミ 勇壯サウユウ 悲壯サウヒ 偉壯サウワイ

【声】八三八頁の聲を見よ。
【元】九九七頁の賣を見よ。

八畫

【壺〇】【壺】漢 コ
①つぼ②ふくべ(甕)③壺に矢を投げ入
れる遊戲(周代の賓客待遇の禮)
【壺漿】コシヤウ 壺の中の飲物。
【壺燒】コシヤウ さいえを殼のまま焼いたも
の、又料理して其殼にて煮たもの。
【壺中天】コシヤウチン 俗を離れた一郭、別
天地・仙境等の意。
【壺胡録】コシヤウコ 壺をなせるやな
ひにして節會其他
の朝儀などの警固
に近衛の武官の負ひしもの。



(録胡壺)

九畫

【壻〇】【壻】漢 吳 ①むこ、
をつと②妻より夫を呼ぶ稱③わかもの
【喜】二〇八頁の喜を見よ。

【壹】一頁の一を見よ。

十畫

【壺〇】漢 吳 宮中の門、室の通路
【鼓】一一九五頁の鼓を見よ。

十畫

【壽〇】【壽】漢 シウ
漢用音ス ①ひさし(久)②い
のちながし(長壽)命長き者③とし(年)
よはひ④星の名⑤祝意を表し金帛を賜
る意⑥ことぶき、ことほぎ
【壽夭】シユウ 長命とわかじに。
【壽命】シユウメイ いのち、生命、命數。
【壽宴】シユウエン 長壽を祝福するさかもり。
【壽家】シユウカ 生前に建て置く墓。
【壽詞】シユウジ ながいきを祝ふことば。
【壽賀】シユウガ 還暦(六十一歳)喜字(七十
歳)米壽(八十八歳)等の長壽の祝ひ。
【壽樂】シユウラク ①長生して樂しむ②長命と
安樂。
年壽シネン 三壽シサン 萬壽シマン 長壽シチャウ
福壽シフク 老壽シラウ 永壽シエイ 高壽シカウ
富壽シフク 貴壽シキ 仁壽シニン 鶴壽シカク

士部(十一—十九畫) 嘉・豪・鼓・臺 又部又(一—九畫) 夂・冬・夂・各・麥・咎 夂部夂(七畫) 夏二四六

南山壽ノビシ 天地壽ヲシテ 仁者壽ノビシヤ
柏葉壽ノビシユフ 龜龍壽ノビシユウ 無量壽ノビシヤウ

【嘉】 二二二頁の嘉を見よ。

【豪】 五四七頁の豪を見よ。

【鼓】 七一頁の鼓を見よ。

【臺】 八六一頁の臺を見よ。

【賣】 九七七頁の賣を見よ。

【穀】 一〇二三頁の穀を見よ。

【懿・懿】 四一二頁の懿を見よ。

又部

【夂○】 漢シユウ 吳シユ 終の古
漢吳ナ
とより至る○おくる(後)
字①あ

【夂】 一五四頁の夂を見よ。

【冬】 一二四頁の冬を見よ。

【夂】 九一二頁の處を見よ。

【各】 一八六頁の各を見よ。

【麥】 一一八八頁の麥を見よ。

【咎】 一九八頁の咎を見よ。

【愛】 三九九頁の愛を見よ。

【憂】 四〇五頁の憂を見よ。

【慶】 四〇五頁の慶を見よ。

【夂】 一一八八頁の夂を見よ。

【變】 九八〇頁の變を見よ。

夂部

【夂○】 漢吳 行く、おそく行く、し
スキ づかに行く

【夏】 漢カ ①なつ、
②支那中央の文明國、本國、中華の
大なる家(夏) ③白・黒・赤・青・黄の五原
色(元)のき(夏) ④支那王朝の名(おほ
いなり(大))

【夏天】 カラシ ①なつ、なつの季節。

【夏日】 カジツ ①なつ、なつ、夏の太陽。

【夏月】 カゲツ ①なつ、なつ。

【夏半】 カハン 陰曆四月の異稱、卯月。

【夏季】 カキ ①なつ、なつ、なつ。

【夏期】 カキ ①なつ、なつ、なつ。

【夏至】 ゲシ 廿四氣の一、六月廿一日頃太

陽が夏至線の上にある日の最も長き時

【夏豆】 ナツマメ 夏熟するしろまめ。

【夏負】 ナツマケ なつやせすること。

【夏椿】 ナツツバキ 山地
に自生する落葉喬
木で椿に似た白色
の花を開く。

【夏瘦】 ナツヤセ 暑氣に
弱つてやせること

【夏蠶】 ナツコ 夏期にかへるかひこ。

【夏至線】 グレシセ 回歸線、赤道より北・南各
二十三度半の所に假定せる線。

【夏大根】 ナツダイコン 夏期に生ずる根の細い
辛味の多い大根のこと。

【夏木立】 ナツコダチ 夏季生ひ繁つた木立。

【夏蜜柑】 ナツミカン 果實が蜜柑より大きい

【夏季大學】 カキダイガク 諸學校の夏期休暇中
避暑地等で臨時開講する一種の講演會

【夏期休業】 カキキウギフ なつやすみ。

【夂】 漢ケイ 吳ギヤウ ①はる
か(遙)

【夂乎】 ケイコ 極めて遠き貌。 「懸絶。」

【夂絶】 ケイゼツ 遠くへだゝつてゐること、
「懸絶。」

【夂然】 ケイゼン 遠くはるかなる貌。

【夂】 漢キ ①一本足の
み懼れるさま ②堯舜の時、典樂の官と
なつた人の名

夕部

【夕】 漢セキ ①ゆふ

②くれ、ひぐれ(夜) ③夜間 ④夜間

⑤月、ゆふづき。 ⑥天子の月を拜する禮(夕)
ひの月、ゆふづき。

【夕方】 ユフカタ 日のくれがた、夕暮。

【夕立】 ユフダチ 急に降る夏の雨、驟雨。

【夕刊】 ユフカン 夕方に發行する新聞の略稱

【夕風】 ユフカゼ 夕方海風と陸風と交代せん
として一時風の止むこと、又その海。

【夕和】 ユフワ 夕方海面に風がなぐ、夕風。

【夕映】 ユフエ ①ゆふやけ、日の入りぎはに
日光の反射で西空の赤く見ゆるもの。
②ばんめし、夕飯。

【夕涼】 ユフスズメ 夏の夕方に外に出て涼む

【夕景】 ユフケイ 夕ぐれ、入日のけしき。
【夕餉】 ユフケ ①ゆふめし、晚餐。
【夕飯】 ユフハン 夕食に同じ。
【夕燒】 ユフヤケ 夕映に同じ。
【夕闇】 ユフヤミ 宵に月が出ないで暗いこと
【夕顔】 ユフガハ 瓠葉と同種類の蔓草。
【夕暮】 ユフクレ ①ゆふぐれ、ゆふがた。
【夕照】 セキセウ 夕日、ゆふやけ(注) ゆうせ
うと讀むは誤り。 「うと讀むは誤り。
【夕陽】 セキヨウ 夕日、いりあひ(注) ゆうや
【夕間暮】 ユフマダレ ①ゆふぐれ、くれがた。
【夕景色】 ユフケシキ 夕方の景色、晚景。
【夕顔棚】 ユフガハダナ ①ゆふがほの蔓を這はせ
る爲竹や木などをあんで作つた棚。
【旦夕】 セキセキ ①七夕、日夕、歳夕、
【夕夕】 セキセキ ①一朝一夕、
【夕夕】 セキセキ ①一朝一夕、

外部

【外】 漢ケイ 唐音ウキ
①ほか、そと、おもて、宮中に對して
朝廷、朝廷に對しては地方(外)とほざく
(遠) ②はづる(脱)のける、のぞく(外)し
りぞく(御)うとんず(疎)よそ、他所
③わする(忘)ト女方のみうち、母妻な

どの血縁(血縁)國訓は不ず、それる、と、
とづくに、とのも
【外人】^{グワイジン} 日本人でない人、外國人、異人(異)よその人、他人(他人)わが黨でない人、世間の人。
【外心】^{グワイシン} ふたごころ、二心。
【外史】^{グワイシ} 官府以外の事實を記録する官、轉じて私事を記録する者又其手に成りしもの、私記(私記)日本外史。
【外交】^{グワイカウ} ①國と國との交際(交際)國人と外國人との交はり(交はり)②外廻りの交渉に當る者(内勤の對)。
【外見】^{グワイケン} ①人が見る(見)みえ、外貌。
【外形】^{グワイケイ} 見た所の形、外觀。
【外來】^{グワイライ} 外より來る、外國より入り來る。
【外役】^{グワイエキ} ①外國へ出てやる職(職)②外國を征伐すること。
【外征】^{グワイセイ} 外國を征伐すること。
【外的】^{グワイテキ} 內的の對、自己の外に存在する意、社會自然の意に用ゐらる。
【外周】^{グワイシュウ} 所がは、外をめぐる。
【外相】^{グワイシヤウ} 外務大臣の略稱。
【外洋】^{グワイヤウ} ①世界の何國にも屬せぬ海、公海(海岸から三里以外)②うち海に對して、そと海、外海。「外の事物」に對して、耳目にふれるもの、自己以外物(外物)グワイブツ

【外姻】^{グワイイン} むこ又はよめの家族。
【外侮】^{グワイブ} ①外國より受くるあなどり②他人より受くるあなどり。
【外面】^{グワイメン} うはべ、そとつら、表面。
【外界】^{グワイカイ} 自己以外のものにして五官に觸れる總てのもの。
【外家】^{グワイカ} ①皇后の生家(生家)②母の生家。
【外孫】^{グワイソン} わが娘の生める子。
【外祖】^{グワイソ} 母方の父母、母方のちぢば、外祖父母。「ト、コートの類」
【外套】^{グワイタウ} 衣服の上に纏ふもの、マン
【外國】^{グワイコク} よその國、西洋諸國。
【外部】^{グワイブ} うはべ、そとがは。
【外務】^{グワイブツ} 國際關係についての政務。
【外寇】^{グワイコウ} 外國人が襲來すること。
【外電】^{グワイデン} 外國電報の略。
【外戚】^{グワイセキ} 皇后の家柄、母方の親類。
【外患】^{グワイワン} 外國から蒙る災難。
【外郭】^{グワイコクワク} そとまはりの一區劃。
【外賓】^{グワイヒン} 外國よりのお客さま。
【外氣】^{グワイキ} 室外のくうき。
【外債】^{グワイチャイ} 外國よりの借金。
【外舅】^{グワイキウ} 妻の父(正史以外の記録)。
【外傳】^{グワイデン} ①本文に附記した記録(記録)②戸外のつとめ、又その者、世間のきこえ。
【外聞】^{グワイブン}

【外側】^{グワイソク} そとがは。
【外貌】^{グワイバウ} 見たやうす、外見。
【外敵】^{グワイテキ} 外寇に同じ。
【外藩】^{グワイハン} 諸侯王の領する邦土。
【外議】^{グワイギ} ①世間の評判、世間のうはさき(うはさき)②朝廷外の議論、又は意嚮。
【外觀】^{グワイクワン} 外見に同じ。
【外様】^{トヤマ} 關原の役後新に徳川氏に従屬したる大名、譜代大名に對していふ。
【外印】^{グワイイン} 太政官の印、大方二寸五分にして六位以下の位記及太政官の文案に捺印したもの。
【外道】^{グダウ} ①我主義に反する道(道)②人の心を傷け、邪道に陥らせる者(邪)③惡相の顔つきに作つた假面。
【外科】^{ゲクワ} 専ら手術によりて治療する醫術(醫術)④わいくわと讀むは誤り。
【外題】^{ゲタイ} ①書物のなま(なま)、標題(標題)②芝居等の題目(題目)③讀むは誤り。
【外用劑】^{グワイヨウザイ} 體の外部につける藥。
【外交官】^{グワイカウワン} 外交の局に當る官吏例へば大使、公使、領事官等の如し。
【外交員】^{グワイカウイン} 註文を取り又は事業上外部と交渉の任にあたる者。



【外交團】^{グワイカウダウ} 一國に駐在する數多の外交官の集合した團體をいふ。
【外光派】^{グワイクワハ} 屋外の自然の光線の下に作物をなす藝術の一派。
【外來語】^{グワイライゴ} 我國の通語となりたる外國語(ガス・ランブの類)。
【外務省】^{グワイムシヤウ} 我が十一省の一、國際行政を扱ふ中央官廳。
【外交文書】^{グワイカウブンシヤ} 外國との交際、交渉についての書きもの。
【外面描寫】^{グワイメンペウシヤ} 小説などにて人物の風采・容姿・態度等日常のことを描き出す意。「たる諸種の思想」
【外來思想】^{グワイライシヤウ} 外國より入り來り入すること、又その資本。
【外資輸入】^{グワイシユツプ} 外國より資本を輸入すること、又その資本。
【外國貿易】^{グワイコクボウイ} 外國との商ひ、外國と商取引をすること。
【外患内憂】^{グワイワンナンイウ} 外國に對する心配や國內のうれひ。
【外様大名】^{トヤマダイメイ} 徳川幕府の大名關ヶ原の役後徳川氏に附屬したもの。
【外面如菩薩】^{グワイメンニヨボサツ} 容貌溫和にして内心の邪惡なるをいふ。

【多】^タ 漢吳 ①おほし(適)②たもつ(保)③ほむ(褒)④すぎ(過) 數が衆い(多)おほくのすぐれたる人。
【多才】^{タサイ} 才智のすぐれしをいふ。
【多大】^{タダイ} 多くの數、多數。
【多分】^{タブン} ①多き數量、たくさん(多)②たいてい、おほかたの意。
【多少】^{タセウ} ①數の多きこととすくなきこと(多)②あまた、おびた(多)③や、幾らか。
【多用】^{タヨウ} 用件の多きこと。
【多年】^{タネン} 久しき年月、何年もの意。
【多次】^{タシ} たび、屢々。

【多忙】^{タバウ} いそがしきこと。
【多言】^{タゲン} ことば多し、能く喋る。
【多幸】^{タカウ} 幸福の多きをいふ。
【多妻】^{タサイ} ①多くのつま(妻)②一人にて二人以上の妻を有せること。
【多事】^{タジ} 事多くして忙がしきこと。
【多恨】^{タコン} 恨み多し、怒む心深し。
【多望】^{タバウ} 見込が十分ある。
【多能】^{タノウ} 藝又は才に富むこと。
【多量】^{タリヤウ} 多くの分量、たくさん。
【多情】^{タジヤウ} ①いろけが多い(多)②なまけ深し(多)③あきつばい、うつりぎ。
【多罪】^{タサイ} 罪多し、失禮をわびる語。
【多感】^{タカン} 感情に激しやすきこと。
【多聞】^{タモン} ひろく聞きしる、博聞。
【多勢】^{タセイ} ①多くの人數(勢)②勢ひの盛んたかの多いこと。「なる貌」
【多端】^{タタン} ①仕事が多い、仕事が多なる(多)②くさく、しな、百端、萬端。
【多寡】^{タカウ} ①おほきこととすくなきこと(多)②物の數量。「く重なること」
【多難】^{タナン} ①禍の多きこと(多)②難事の多色々のげいが上手なこと。
【多様】^{タヤウ} さま、いろ、謝意の厚きさま。

【多辯】タベン 言葉が多い、おしやべり。
 【多人數】タニンズ たくさんのにんず。
 【多元論】タゲンロン 宇宙は獨立自存せる多數の實在の集合なりとの哲學上の説。
 【多方面】タハウナン さまぐのむき。
 【多血質】タケツシツ 感覺が強く直ちに外物の刺戟をうけ且之を永く保存することの出來ぬ氣質、感情の冷熱烈しき質。
 【多角形】タカクケイ 多くの直線にて圍はれそれ等の線の接合する所に線と同數の角を有する平面形、數學上の語。
 【多神教】タシンケウ 一神教に對する語、多神の存在を認めこれを崇拜する宗教。
 【多聞天】タモンテン 毘沙門天の別稱。
 【多數決】タスウケツ 種々の意見中最も同意者の多い意見に従つて可否を決定する。
 【多羅波蟹】タラバガニ 長幅蛤と尺餘に達し、背部に低い疣を具へ歩脚は扁平にして長さ二尺に達す、日本海の北部に産し肉の美味なるを以て賞せらる。
 【多幸多福】タカウタラク 非常に幸福の多いと。
 【多趣多様】タシユタヤウ 種々様々な趣き。
 【多額納税者】タガクナラゼイシヤ 一府縣内に於て直接國税を最も多く納むる者にして



(蟹波羅多)

貴族院議員の互選權を有す。
 衆多シュウタ 衆多シュウタ 夥多ケツタ 猥多ワウタ
 華多ケワタ 盛多セイタ 許多キョタ 煩多ワンタ
 【名】 一八九頁の名を見よ。
 【舛】 八六六頁の舛を見よ。
 【多】 九八七頁の多を見よ。
 【夜】ヤ 漢ヤ ①よ、よど(臥床) ②夜の時刻 ③よふけ(深更) ④ひぐれ、よひ ⑤やみ、くらやみ
 【夜叉】ヤシヤ ①猛惡な鬼 ②殘忍酷薄な人
 【夜分】ヤブン よる、夜中。
 【夜色】ヤシヨク 夜の景色、夜のおもむき。
 【夜行】ヤカウ 夜歩く、夜中進行する。
 【夜前】ヤゼン 昨夜、ゆふべ。
 【夜來】ヤライ 昨夜以來、夜頃。
 【夜思】ヤシ よるの物思ひ、深夜人がねしづまりて心に浮ぶおもひ。
 【夜具】ヤグ よる寐るに用ふる具。
 【夜食】ヤシヨク ゆふしよく、又夜の食事。
 【夜業】ヤゲフ よなべ、よしごと。
 【夜話】ヤワ たそがれ過ぎコーヒを味ひ

ながら煙草でもくゆらしゆるくと氣樂に語り合ふこと。
 【夜氣】ヤキ ①夜のけはひ ②夜間靜かに落ついた心、よるの氣分。
 【夜陰】ヤイン よる、夜中 ③夜陰に乗ず。
 【夜會】ヤクワイ 西洋風の夜の宴會。
 【夜壺】ヤコ しゆびん、便器。
 【夜學】ヤガク 夜間の學校、又夜まなぶと。
 【夜警】ヤケイ 夜間の警戒、よまはり。
 【夜襲】ヤシユ ようち、夜中の攻撃。
 【夜間】ヤカン 日没より日出までの間、よる
 【夜廻】ヤマワリ 夜分見廻りて警戒する。
 【夜明】ヤアカ 夜のひきあけ、あさがた。
 【夜光珠】ヤクワウツク 暗いところに置けば光を發するといふ名玉。
 【夜光蟲】ヤクワウツク 鞭毛蟲類の原生動物で形は小さく球状をなし全體は膠質で透明し海中に簇生して夜間水波の動搖につれて燐光を放つ。
 【夜合樹】ヤガフジュ ねむの木(合歡木)。
 【夜御殿】ヤミノド 清涼殿の北の妻戸の内にある主上の御寢所。
 【夜間攝影】ヤカンサウイ マグネシウム之光線を利用して夜間にうつす寫眞。



(蟲光夜)

【夜郎自大】ヤラウジダイ 凡人仲間にて威張る者、餓鬼大將のたぐる。「むる貌」
 【夜以繼日】ヨモツチヒヨリ 晝夜の別なく勤
 永夜エイヤ 長夜チヤウ 不夜フヤ 星夜セイヤ
 修夜シュヤ 甲夜ケツ 乙夜エツ 燭夜シュツヤ
 幽夜ユウヤ 禁夜キンヤ 通夜ツウヤ 殘夜ザンヤ
 涼夜リョウヤ 佳夜カヤ 清夜セイヤ 深夜シンヤ
 徹夜テツヤ 獨夜ドクヤ 白夜ハクヤ 暮夜モクヤ
 夙夜ソクヤ 日夜ニツチ 晨夜シンヤ 玄夜ゲンヤ

くらし、明かならぬ貌 ②まぼろし、想像
 【夢卜】ムボク 夢にて吉凶を判ず、夢判斷。
 【夢中】ムチュウ ①ゆめのうち ②物事に一心となるさま ③本心を失つた状態。
 【夢幻】ムゲン ゆめまぼろし。
 【夢死】ムシ 夢の如く死する。
 【夢裡】ムリ 夢のうち又夢中の意。
 【夢象】ムシヤウ 夢に見た象、夢のきざし。
 【夢想】ムソウ ①夢に思ふ ②夢の如く空な考へ ③夢中に神佛の示顯あること。
 【夢魂】ムソク 夢中の魂、ゆめ。
 【夢寐】ムビ ①寢てゆめみる意 ②夢にも寢てもこの義、轉じて常々の意。
 【夢枕】ムソマクラ ねむつてゐる中に神佛などが枕邊に現はれて夢のつげあること
 【夢現】ムソゲン 夢の中とうつゝの義より物事のはつきりしないこと。
 【夢幻劇】ムゲンゲキ 事柄の波瀾と場面の變化に重きを置いて脚色した演劇。
 【夢遊病】ムイウビヤウ 熱にうかされし如くわけもなくさまよひ歩く一種の病氣。
 惡夢アクム 妖夢ユウム 佳夢カユ 吉夢キツム
 寤夢ウム 大夢ダイム 厭夢エンム 殘夢ザンム

ほし、物盛んにして多き貌
 【夥多】ケツタ おびたゞしく多きこと。
 【黃】ワウ 漢吳 ①つゝしむ(敬)おそるたよる、よりすがる(緇) ②とほし(遠) ③おほいなり(大)
 【黃綠】ワウリョク ①木の根のからみつくさま ②つきまとふ縁故。
 【舞】 八六七頁の舞を見よ。

大部

【夢】ム 漢ボウ 吳ム ①ゆめ ②はかなし
 【林夕夢字】リンセツムジ 俗
 【夢】ム 漢ボウ 吳ム ①ゆめ ②はかなし

【夥】ケツ 漢クワ ①おびた ②お
 【夥】ケツ 漢クワ ①おびた ②お

【大】ダイ 漢タイ ①おほいなり、はげし、盛んなり ②多し、ゆたか、長し、久し、ふとし、たくまし、ひろし ③高し、すぐれたり ④おも、主要 ⑤凡そ、あらまし ⑥尊し、立派 ⑦容易ならぬ、常ならず ⑧もと、はじめり ⑨ふとる、こゆ ⑩年長、めうへ ⑪たかぶる、おごる ⑫はなはだし、たけし ⑬尊ぶ、重んず ⑭歎稱の意に用ふ
 【大力】ダイリキ ①つよき力 ②造化の意。
 【大人】ダイジン ①小兒に對しておとなのこ

と**大徳**の人**父**一人を呼ぶ尊稱**子**が父又は母を呼ぶ稱。

【大工】**ダイク** ①木匠、木工**口**よき職人。

【大小】**ダイセウ** ①大と小**口**少量の意**口**曆に於ける月の稱、二・四・六・九・十一は小の月、其他は大の月**口**刀と脇差。

【大夫】**ダイフ** ①周時代の官名、士の上、卿の下に位するもの**口**後世官位ある者**口**藝人又は遊女の名に添へて呼ぶ語**注**太夫と書くは誤り。

【大弓】**ダイキウ** 上古に用ひられた武器の**口**最も大形な一種の弓。

【大分】**ダイブン** ①凡そのきまり**口**よほど

【大火】**ダイカ** ①大火事**口**夏のあつさ。

【大切】**ダイセツ** ていねい、だいじ。

【大父】**ダイフ** ①先祖**口**父母の父、祖父。

【大方】**ダイハウ** ①世間の賢い人、諸君子**口**おほかた、あらまし、大部分。

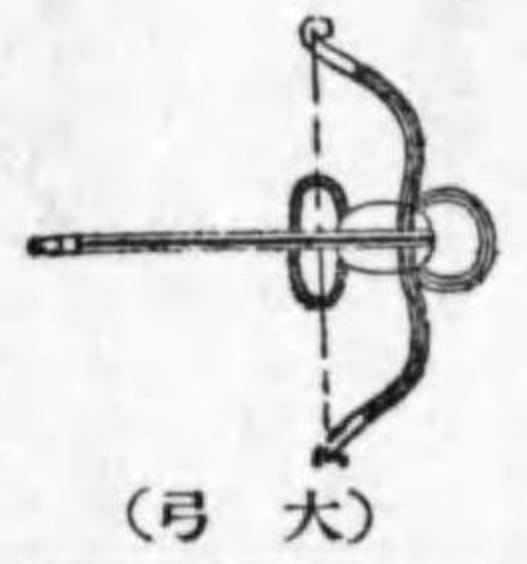
【大内】**ダイナイ** ①だいら**口**おほうち、禁中。

【大半】**ダイハン** 半分以上、ほとんど、大方。

【大用】**ダイヨウ** ①多くの費用**口**重任を負ふ

【大水】**ダイスイ** ①洪水、おほみづ**口**大河。

【大兄】**ダイケイ** ①長兄**口**又朋友の相よぶ聲



【大木】**ダイモク** おほもと、農業の一名。

【大任】**ダイニン** 重大なる任務、重き役目。

【大功】**ダイコウ** 大きいてがら。

【大白】**ダイハク** ①大きなさかづき**口**金星。

【大地】**ダイチ** 土地、地球、又地上。

【大兵】**ダイヘイ** からだの大なるをいふ。

【大行】**ダイカウ** 往きて再び歸らざるの義、天子の崩御にいふ。

【大老】**ダイロウ** ①徳川幕府の重役、現今の太臣**口**凡人にあらざる老人。

【大同】**ダイドウ** 大體同じの意。「品、傑作。

【大作】**ダイサク** 繪畫其他文藝等の優れた作

【大名】**ダイメイ** ①徳川時代一萬石以上の城主**口**おほきなほまれ、盛名。

【大君】**ダイクン** ①おほきみ、君主**口**徳川時代外國に對して用ゐし將軍の別稱。

【大旨】**ダイシ** 大要、要旨。

【大臣】**ダイシン** 内閣各省の長官、執政の高官、昔は太政官の長官の稱、おとど。

【大成】**ダイセイ** 完全に出來上る。

【大別】**ダイベツ** おほよそに區別する義。

【大序】**ダイジョ** 芝居狂言のはじめの舞臺。

【大尾】**ダイビ** 總體のをはり、最終。

【大局】**ダイキョク** 全體の局面。

【大帝】**ダイテイ** 天皇をたゞへていふ語。

【大佛】**ダイブツ** 大きな佛像**口**奈良の大佛。

【大洋】**ダイヤウ** 大きな海。

【大株】**ダイカブ** 大阪株式取引所の株式。

【大言】**ダイゲン** おほごと、ほら、壯語。

【大命】**ダイメイ** 天子の命令、天上の命。

【大抵】**ダイテイ** おほよそ、たいがい**注**大底と書くは誤り。

【大役】**ダイヤク** ①大なる役目**口**國家の大工事**口**戦争。「る外交官の一等階級。

【大使】**ダイシ** 國家を代表して外國に使す

【大枚】**ダイマイ** 金高の澤山なるにいふ。

【大空】**ダイクウ** おほぞら、天空。

【大社】**ダイシャ** 國土を守護する神の社。

【大法】**ダイフ** 主要なる法律、大切なる掟。

【大姉】**ダイシ** ①一番上のあね**口**姉を呼ぶ敬稱**口**佛語、善女、信女の稱。

【大東】**ダイトウ** 東のはて、極東。

【大佐】**ダイサ** 陸海軍佐官の最上位。

【大部】**ダイブ** ①部數又は冊數の多い書籍**口**おほかた、大部分。

【大麻】**ダイマ** ①植物の一、莖の皮から織維をとつて織物にする麻**口**おほぬさ、神に捧げる御幣のこと。

【大事】**ダイジ** ①大きな事柄**口**父母の死、大故**口**大切に同じ。

【大故】**ダイコ** ①大いなる出來事**口**父母の死、大喪**口**甚だ悪い行ひ、惡逆。

【大砲】**ダイハウ** おほづゝ、巨砲、火炮。

【大度】**ダイド** 大いなる度量、心が廣い。

【大雨】**ダイウ** おほあめ、豪雨。

【大知】**ダイチ** 非常に賢明、又その者。

【大房】**ダイハウ** 都市中にある盜賊の巢窟。

【大府】**ダイフ** 官中と政府の庫。

【大政】**ダイセイ** 天子の見そなはず政務。

【大約】**ダイヤク** おほよそ、だいたい。

【大要】**ダイヤウ** ①およそ、大意**口**肝腎の點。

【大典】**ダイテン** 國家の大なる儀式。

【大計】**ダイケイ** ふかきはかりごと。

【大柄】**ダイヘイ** ①おほかた、身體の大なるをいふ**口**國家を支配する大權。

【大黃】**ダイウ** 草の名、根は下劑になる。

【大喪】**ダイサウ** 天皇・皇后・皇太后等の崩御

【大家】**ダイカ** ①近侍より天子を稱す**口**身分貴き者**口**學藝に優れし者**口**姑の尊稱

【大乘】**ダイジョウ** 佛語、圓滿完全の眞智を獲て正覺を得しむる教旨。

【大根】**ダイコン** 野菜の名、蘿蔔。

【大氣】**ダイキ** ①天の氣、空氣**口**人の度量の大なるにいふ。

【大師】**ダイシ** 高德の僧に對して朝廷より贈らるゝ稱號。「**口**ためいき。

【大息】**ダイソク** ①氣を著へて大に呼ぶこと

【大差】**ダイサ** 彼と此との差の大なるをいふ。

【大悟】**ダイゴ** 深くさとる、大悟徹底。

【大逆】**ダイギャク** 君父を弑する行爲。

【大祝】**ダイシュク** 神を祀ることを掌る官。

【大酒】**ダイシュ** ①おほざけ、酒豪、鯨飲、痛飲**口**冬つくとて夏出す酒。

【大喝】**ダイカク** 大聲にて叱りつける貌。

【大尉】**ダイウ** 武官の稱、尉官の上級。

【大麥】**ダイマク** 麥の異種、おほむぎ。

【大赦】**ダイシャ** 天皇の大權で大喪又は即位等に際し恩恵を罪人に垂れ給ひ或犯罪に對して刑法上の總ての効果を消滅せしめる作用。刑法上の責任を全く消除せしめる點が特赦と異なる。

【大略】**ダイリョク** あらまし、あらかた。

【大婚】**ダイコン** 天子・諸侯の婚禮。

【大衆】**ダイシュウ** 多數の人、大勢の民。

【大望】**ダイバウ** 大なる望み、過分の希望。

【大將】**ダイシャウ** ①軍隊を指揮する最上位の官**口**武官の最高位の將官。

【大陸】**ダイリク** 島嶼に對し廣き陸地。

【大暑】**ダイショ** ①二十四節の一、陰曆七月二十三日頃**口**暑さの甚しきこと。

【大寒】**ダイカン** ①二十四節の一、陰曆にて一月二十日頃**口**寒氣の甚しきこと。

【大量】**ダイリヤウ** ①多量**口**度量の大なるをいふ

【大統】**ダイトウ** 天皇の御系統、皇位。

【大賀】**ダイガ** 大いに祝すべしとの意。

【大極】**ダイキョク** ①天地陰陽の分れざる前萬物の元始たりし物**口**天子の御位。

【大道】**ダイダウ** 人の守るべき根本の道。

【大過】**ダイカウ** ①易の卦名**口**大なる過失。

【大患】**ダイケン** ①大病**口**大なる弊害。

【大紋】**ダイモン** 衣類の名、ぬのひただれ、諸大名の正服で家の紋を大きく染出し五つ紋をつけたもの、その下に長袴をつけること。

【大書】**ダイショ** 大きく書きしるす。

【大期】**ダイキ** 臨月、うみづき。「る會合。

【大會】**ダイカイ** ①多人數の寄合**口**盛大な

【大智】**ダイチ** 通俗を超越した高遠な智力。

【大業】**ダイゲツ** ①大事業**口**大なる功績。

【大意】**ダイイ** 大義に同じ、あらましの筋。

【大義】**ダイギ** 人倫の根本、義の大なるもの

【大聖】**ダイセイ** 大聖人、大賢人。

【大脳】**ダイノウ** 腦髓の一部。「**口**一部。

【大腸】**ダイチャウ** 腸の一部。

【大黒】**ダイコク** ①七福神の一**口**僧の妻。



【大勢】タイセイ ①多人數 ②自然の傾向。
 【大廈】ダイカ 大いなる建物、大廈高樓注。
 【大綱】ダイカウ 大趣意、大本、大づな。
 【大層】ダイソウ 大きく、はなはだ。
 【大盡】ダイジン ①田舎にて身代に富めるもの ②遊郭にて多く散財する客。
 【大儀】ダイギ ①重大なる儀式 ②骨を折つた。
 【大徳】ダイトク 高僧の異名。「て疲れる」。
 【大廟】ダイバウ 天子のおたまや。
 【大論】ダイロン 雄大なる議論、高尚な論説。
 【大器】ダイキ ①大きなうつは ②勝れた人。
 【大學】ダイガク 國家に須要なる學術を教授し、其の蘊奥を攻究する最高の學府。
 【大概】ダイガイ おほよそ、あらし。
 【大舉】ダイキョ ①多數人繰出す ②大事業。
 【大覺】ダイカク 大いにさとり、十分に道をさとり得た者、佛、如来。
 【大變】ダイヘン ①大きなかはりごと ②大いに、非常に、たくさんに、まことに。
 【大膽】ダイタン きも太きさま。
 【大禮】ダイレイ ①冠・婚・葬・祭などの儀式 ②朝家に關する重き式典。
 【大難】ダイナン 世の中に及ぼす大禍患。
 【大願】ダイガン ①おほいなるねがひ ②大なる希望 ③衆生を救はんとする念願。

【大權】ダイケン ①天皇の統治權 ②憲法にては天皇の親裁し給ふ政治上の權力。
 【大觀】ダイクワン 能く見ぬきて會得す。
 【大體】ダイタイ おほよそ、あらし。
 【大護】ダイゴ 天子の出御に立てる大旗。
 【大凡】ダイバン 大概に同じ。
 【大向】ダイカウ 劇界の通用語、舞臺の正面にて立ち見する處。
 【大形】ダイケイ おほげさ、實際よりも大きくいふこと。「巾と書くは誤り」。
 【大幅】ダイハク 小幅の對、大きい幅注。
 【大詰】ダイジツ 物事のつしまり、最後。
 【大倭】ダイヤマト 日本國をたゞへて呼ぶ言。
 【大赦】ダイシャク 六月・十二月の晦日に行ふ神事、半年間の汚穢を赦ふ式、六月の夏越の祓ともいふ。
 【大童】ダイドウ ①髪を振り亂したる形 ②全力をつくして勤むる貌。
 【大様】ダイサマ ゆつたりしたさま。
 【大鷲】ダイジュ 涉禽類の鳥で、雑草の生茂つた沼などに棲み水をくぐること巧みである。
 【大哥】ダイニヤ 勇勇肌の人が同輩を呼ぶことば、又其人達、あにいづ大哥しつかりたのむ。



(大鷲)

【大和】ヤマト ①日本國の稱 ②今の奈良。
 【大外記】ダイガイ 大寶令による太政官の屬官、専ら詔書奏文の勘正・公文の讀申・曠職の檢出等を掌りし者。「高き貌」。
 【大丈夫】ダイヂヤウ ①節義ある士 ②見識の
 【大山水】ダイサンボク 木蘭科の常綠喬木高さ七丈乃至八丈、五月頃葉間より花梗を抽出し雪白色の大形花を開き香氣高し、花瓣は倒卵形を呈し通常九筒ある、材は木理緻密にして諸種に供せらる、アメリカ合衆國の原産。
 【大内裏】ダイナリ 昔の宮廷の稱。
 【大正琴】ダイセイコ キーと爪と兩方にて奏する卓上琴の一種。
 【大元帥】ダイゲンスウ 陸海軍を統帥せらるゝときの天皇の御資格。「かに死ぬると」。
 【大往生】ダイワウジヤウ 何の心配もなく安らふ。
 【大早計】ダイサウケイ 早呑込、はやまりすぎ。
 【大本營】ダイホンエイ 大元帥の居ます軍營。
 【大安日】ダイアンニチ 陰陽家のいふ旅立・移轉其の他萬事に吉なる日。
 【大多數】ダイタスウ 數の非常に多きこと。
 【大祭日】ダイサイニチ 國祭を行ふ日にて四方



(大山水)

拜・元始祭・明治節・春季皇靈祭・神武天皇祭・秋季皇靈祭・神嘗祭・新嘗祭・大正天皇祭の當日のこと。
 【大納言】ダイナゴン 昔の官名、太政官の次官。
 【大威徳】ダイイタク 本地は阿彌陀如来にして一切の惡毒龍を摧伏するといふ明王で其像は六臂六臂にして劍・鉞・輪・棒を執り印を結び大石牛に御す。
 【大農制】ダイノウセイ 機械を利用し大區劃の田畑に於て農業を營む大仕掛の耕作法。
 【大統領】ダイトウリヤウ 共和國の最高機關。
 【大理石】ダイリシキ 鑽石の一種、美術工藝又は建築用材として用ふ。
 【大磐石】ダイバンシキヤク ①極めて大なる岩 ②物事のゆるぎなきこと。「はる、新嘗祭」。
 【大警會】ダイセイワウエ 天皇の御即位後始て行
 【大勳位】ダイクンシキ 國家に功勞あるものを賞する勳等中の第一位のもの。
 【大團圓】ダイダンエン 物のましまり、をはり。
 【大學院】ダイガクケン 大學卒業生又は之に相當する者が入學し更に學術技藝の蘊奥を研究する所。「調進を掌る役」。
 【大膳職】ダイセンシヨク 宮内省に屬し膳部の



(大威徳)

【大審院】ダイシンエン 最高級の普通裁判所。
 【大禮服】ダイレイフク 公事に用ゐる最も丁重なる服装、官等に依り相違あり。
 【大織冠】ダイシヨクワン 昔の第一級の冠位。
 【大寶令】ダイハウリヤウ 我國法令の基礎、文武天皇の大寶年間に制定せられし法令。
 【大入袋】ダイイリフクロ 各種の興行で大入を祝ふ爲に景氣附に座員に配る景品袋。
 【大内山】ダイナヤマ 皇居、禁中。
 【大立物】ダイタテモノ 新界の第一人者のこと。
 【大宮人】ダイミヤヒト 禁中に仕ふる官吏。
 【大津繪】ダイツエ ①はしり書きにしたる一種の粗畫、もとは佛畫を主とせしが、後には専ら戲畫となつた。
 【大袈裟】ダイカサ 誇張の意、たいさう。
 【大部屋】ダイベヤ 劇場にて名代以下の俳優
 【大道具】ダイダウグ 劇場の舞臺に飾る屋臺襖・立木等をいふ。
 【大藏省】ダイザンシヤウ 内閣の一省にして租税の徵收・政府一切の出納・國債・造幣等のことを司る所。
 【大蟻食】ダイアリキ 南ア



(大津繪)



(大蟻食)

メリカの熱帯地方に産する食肉類の獸もの。
 【大口袴】ダイクチハカマ 略して大口ともいふ、生絹平絹等にてつくり東帯の時に表袴の下に穿くもの、裾の口廣くして大きい。
 【大和魂】ダイワタマ 日本人固有の特別な氣性、日本人氣質、やまとこころ。
 【大和舞】ヤマトマヒ 我國古代の風俗歌の舞、大和國より出でたりといふ、樂器は笏拍子・笛・箏を用ひ、舞人四人歌者二人樂器各一人と規定さる。
 【大同小異】ダイドウコウイ 大部分は同じく小部分のみ異なること。
 【大行天皇】ダイカウテンノウ 崩御ありて後未だ諡を奉らざる間の先帝の稱。
 【大林區署】ダイリンクシヨ 國有林野の經營・保管・利用等に關する事務を掌る官廳。
 【大衆文藝】ダイシュウブンゲイ 社會一般多數の人の趣好に投ずる文藝。
 【大衆攝影】ダイシュウサウエイ エキストラを使用



(大口袴)



(大和舞)

して大部隊を動かし廣い範圍の映畫撮影をすること。「あはれみ」。

【大慈大悲】ダイジダイヒ 非常ないつくしみと

【大器晩成】ダイキバンセイ 大才は速かに成らずして普通より後れて成就する意。

【大陸政策】ダイリクセイサイ 各國各々異なれども我國にては滿蒙に基礎を据ゑて支那大陸に勢力を扶植せんとする政策。

【大和民族】ヤマトミンゾク 萬世一系の天皇を戴き大日本帝國を組織せる民族。

【大陸性氣候】ダイリクセイキョウ 暑さ寒さの差が大きくて晝夜の温度が甚だしく異なる大陸内部の氣候。

【大藏省證券】オホクラシヤウシヨウケン 國債の出納上一時的に歳入の不足を來した時發行するもので十二ヶ月以内の期日で發行し年度の歳入で支拂はれる短期國債

博大ハク 措大ダイ 洪大コウ 廣大クワウ

肥大ヒ 細大サイ 渾大コン 強大キヤウ

老大ラウ 雄大グウ 尾大ビ 甚大ジン

寛大クワン 尊大ソン 碩大セキ 莫大バク

【天。】漢吳 ①あめ、そら、かみ ②萬物主宰の神、造化の神、

【天。】漢吳 ①あめ、そら、かみ ②萬物主宰の神、造化の神、

あまつかみ ②五刑の一、死刑 ③眞理、正義、無上道 ④高き處、いたゞき(頂) ⑤帝王の敬稱 ⑥運命、まはりあはせりうまれつき ⑦無爲自然の道

【天人】テンジン 神と人、又天女の如き美人。

【天力】テンリキョウ 人の力以上のもの、人力にて成し能はぬはたつき、天のちから。

【天上】テンジョウ ①てん、天の上。【天子】テンシ 天の子の意、天に代りて國を治むる者、君主國の元首、天皇。

【天下】テンカ ①あめがした、世界 ②國內。【天才】テンサイ うまれつきの才智。

【天工】テンコウ 天然のたくみ、造化のわざ。【天心】テンシン ①上帝の心、天意 ②なごぞら、大空のまんなか。

【天分】テンブン 性質又は運命。【天井】テンジョウ ①棟上に木を交へ方形に組めるもの ②空又は高き處の意。

【天生】テンセイ 自然になること。【天日】テンニツ 太陽、てんび。「天體の現象

【天文】テンモン 日・月・星辰・寒暑・陰陽等の【天水】テンスイ あめ、雨水。「天帝、天主教。

【天主】テンシュ ①天守に同じ ②耶蘇教の神



(人天)

【天女】テンニョ 天人に同じ。

【天目】テンモク ①抹茶々椀の一種摺鉢形をしたもの、天目茶碗 ②武具の差物の名

【天井】テンジョウ てんぶらどんぶりの略。【天台】テンダイ 佛經八宗の一、天台宗

【天府】テンフ ①祖先の祭祀に供する物品を藏め置く所 ②物産の豊富なる地 ③要害の地 ④學問の蘊蓄を極めた人。

【天狗】テンク 形は人に似て鼻が高い、背に羽があつて常に深山に棲むといはるる怪物、其の鼻の高きことより轉じて一般に自慢することに用ひらる。

【天杯】テンバイ 天子から賜はる杯。【天地】テンチ ①天と地、また上と下 ②非常に異なるもの、喩へて天地の相異。

【天災】テンサイ 人為以外の自然の災害。【天外】テンガイ 非常に遠きところ、天表。【天佑】テンユウ 天のたすけ、天祐。

【天使】テンシ ①日月 ②勅使 ③神の使者。【天金】テンキン ①繪畫の裏金に類し書物の上端の切口に金箔を置いた製本 ②東京一流の天麩羅屋の名稱。「位、天職。

【天位】テンキ ①天子の位 ②天より受けし【天性】テンセイ 自然にそなはる性質。【天命】テンメイ 天帝の命令、天のさしづ。

【天明】テンメイ 夜あけ頃、あかつき。

【天河】テンガ ①あまのがは、銀河、天漢。【天皇】テンノウ 天子に同じ。

【天帝】テンテイ 天地の萬物を主宰する神。【天威】テンキ ①天子の勢力 ②天然に備はりたる威光 ③神の威光。「あたま。

【天窓】テンマド ①屋根にあけた窓、ひき窓【天漢】テンカン あまのがは、天河。【天則】テンソク 自然の法則。

【天界】テンカイ 天上の世界(佛語)。

【天候】テンコウ 天氣に同じ。

【天祖】テンソ 天皇の御先祖、天照大神。【天恩】テンオン ①天子の恩 ②天然の恵み。

【天神】テンジン ①天にのみます神 ②菅原道眞を祀れる天満宮の稱。「杵尊。

【天孫】テンソン 天照大神の御孫、彦火瓊瓊【天祐】テンユウ 天のたすけ、神の冥助。

【天真】テンシン ありのまま、無垢、自然のまま、にて人爲を加へぬさま。

【天氣】テンキ ①そらもやう、天候 ②善い日和、晴天 ③天子の御機嫌。

【天朝】テンテウ 朝廷、皇朝、みかど。【天秤】テンビン 物の重量を測る器械。

【天産】テンサン ①天然に發生すること ②天然に發生したる産物。【天馬】テンバ 上帝が乗つて空を走る馬、

伯樂星の支配する馬、また駿馬の稱。【天授】テンジュ 天からのさづかり。

【天國】テンコク ①神の國、極樂 ②基督教で信者の靈魂が行くといふ所。「讀むは誤り

【天稟】テンリン 天賦に同じ ③讀んでんりんと【天運】テンウン そらのはて、極めて遠き所【天理】テンリ 天然自然の道理、萬物を支配する正しきすぢみち。

【天然】テンゼン ①人工を加へざる天の成したるまゝの形 ②ひとりで、自然 ③讀んでんりんと讀むは誤り。

【天與】テンイ 天のあたへ、神の授けもの。【天極】テンキョク 地球の端と天球の端との交叉する點、天球の南北極。

【天運】テンウン 自然のまはり合せ。【天業】テンゲツ 天子の事業、皇業。

【天道】テンダウ 天理に同じ、又俗に太陽。【天誅】テンテウ ①天の下す誅罰 ②私心を挾まざる正義の征伐。

【天資】テンシ 天性に同じ、うまれつき。【天罰】テンバツ 上帝よりの罰、神罰。

【天蓋】テンガイ ①佛像又は楯の上にかざす長柄の絹がさ ②虚無僧のかぶる深い編笠



(蓋天)

【天幕】テンマク 露營等の時に張りまはす屋根形の布、テント。

【天壽】テンジュ 自然の命數、一定せる壽命。【天網】テンマウ 天のあみ、自然のおきて、罪惡の到底免るべからざるにいふ。

【天賦】テンフ ①うまれつき、天のさづけたる性質、もちまへ、天資。【天應】テンオウ 神の同意、天の感應。

【天德】テントク ①天子の徳 ②廣大無邊にして萬物を化育する大自然のはたらき。【天邊】テンペン ①空のはて ②てつべん、頭のうへ。

【天質】テンシツ うまれつき自然にそなはる【天險】テンケン 天然にけはしきところ。【天機】テンキ ①天子の御機嫌 ②國家の政治 ③人に知れぬ自然の神祕、轉じて大なる秘密、大なる機密。

【天顔】テンガン 天子のおかほ、天子の御きげん、天子のおそば。【天譴】テンセン 天のおしかり、神のとがめ、よりて奪はるゝこと(人爵の對)。

【天覽】テンラン 天子の御覽になること。【天職】テンシヨク ①天帝のつとめ ②自然にそなはりしつとめ、自分に對する適業。【天壤】テンジョウ 天地の①に同じ。

ない、たちうを。

【太刀取】タチトリ ①切腹の時に介錯をなす人 ②横綱力士の土俵入りに太刀を持ちて其の後に従ふ力士。

【太宰府】ダイサイフ 昔筑前の國に置いた役所

【太政大臣】ダイセイヂョウダイシ 太政官の長官。

【太皇太后】タイクワウタイヒ 天皇の御祖父にあ

たらせ給ふ天皇の妃。

【太上天皇】ダイヤウテンノウ 退位せられた天皇

【太政入道】ダイセイウニョウダウ 大臣の入道せし者

夫。[夫]

漢フ 吳ホ

①をのこ、をとこををつと、つまを發語の詞、それ二物事を指示する詞、かの、かれをその(其)の感嘆詞、かな、か

②賦役の人夫を手段、くめん、てだて

【夫人】フジン ①王妃又は諸侯貴人の妻 ②人妻の尊稱 ③婦人の封號 ④人の母又は己の母を呼ぶ稱。

【夫子】フツシ ①先生・賢者・長者などの尊稱 ②妻が夫を呼ぶ語 ③人を呼ぶ敬稱。

【夫役】フユク 人夫となりて公の勞役に服すること。

【夫君】フケン 妻が夫をさしていふ敬稱、むすめのむこををつと。

【夫婿】フケイ 夫たる身分に依りて妻に對すること。

【夫權】フケン 「良人、郎君。」

【夫】フ 妻が夫をさしていふ敬稱、むすめのむこををつと。

【夫】フ 夫たる身分に依りて妻に對すること。

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

【夫】フ 漢フ 吳ホ

する權利 同妻を同居せしむる權。

【夫婦】フウフ めをと、夫と妻。

【夫婦隨】フウフズイ 夫婦相合のさま。

【夫婦財產制】フウフサイサンセイ 法律上夫婦間の財產について特に定めたる制度。

【狂夫】キヤウフ 萬夫 丈夫 匹夫 匹婦

【武夫】ブフ 僕夫 哲夫 駁夫 頑夫 頑夫 凡夫 節夫 窮夫 壯夫 凡夫 節夫 窮夫

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

【夫】フ 漢クワイ ①きむ、きめる(決)

①なか、なかば、なかほど ②つく(盡)

③ひろし(曠) ④ひさし(久)とほし(遠)

⑤あざやか ⑥やはらぐ(和)

【失】シツ 漢シツ ①うしな

す、取り落す ②あやまつ、しくじる、

たがへる ③逸に同じ、すぐ、にがす

【同訓異義】うしなふ

【亡】ハチ 滅び失せたる義、滅亡・死亡。

【喪】ハチ 喪失、即ちなくなりしこと。

【失】ハチ 是取り失ふ義。

【失火】シツカ 火事であやまちて火事を起す

【失名】シツメイ 名を忘れる又名がわからぬ

【失色】シツシキ 顔色をかへる。

【失念】シツネン 忘れる、ものわすれ。

【失效】シツカウ 法律上の効力が消滅する

【失言】シツゲン 過言、言ひそこなひ。

【失笑】シツセウ 堪えかねて笑ふ、ふきだす。

【失意】シツイ 思ふやうにならぬ、願ひ

【失明】シツメイ 目くらになること。

【失計】シツケイ ヤリそこなひ、手ちがひ。

【失敗】シツバイ ヤリそこなふ、しくじる。

【失政】シツセイ 政治の方針をあやまる。

【失跡】シツツク 行方をくらます。

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

【失】シツ 漢シツ ①うしな

九夷 荒夷 垣夷 東夷

裔夷 恢夷 曠夷 創夷

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

【夸】クワイ 漢クワイ ①うしな

奇。[奇] 漢クワイ

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

【奇】キ 漢クワイ ①うしな

<

【奇策】キヤク 優れて珍しきはかりごと。
 【奇貨】キカ 再び得がたき品物。通ずべからざる好機會。奇貨措く可からず。
 【奇零】キレイ 單位以下の數字、小數。
 【奇智】キチ 普通とは異なる智慧。
 【奇遇】キウ 思ひがけなく出逢ふ、意外なる所にて出逢ふ、珍らしいめぐりあひ。
 【奇筆】キヒツ すぐれたる書家。めづらしき書きもの、奇本。
 【奇術】キジュツ 珍らしきわざ。てじな。
 【奇談】キタン 奇聞に同じ。「けぬ勝利」。
 【奇勝】キショウ すぐれたる景色。思ひが【奇習】キシユ めづらしき習慣・風俗。
 【奇禍】キカ 意外な災難、思はぬ不幸。
 【奇異】キイ ふしぎ、常になく珍らし。
 【奇瑞】キズキ 極めてめでたきしるし。
 【奇矯】キキウ 強ひて人より變りたる言行をなすこと。すぐれて強い。
 【奇態】キタイ ①めづらしきかたち。②あやしき様子、ふしぎ、奇妙。
 【奇聞】キブン 珍らしき話、ふしぎな話。
 【奇數】キスウ 二で割りきれぬ數。
 【奇縁】キエン ふしぎのえにし。
 【奇觀】キカン 思ひまうけぬめぐりあひ。
 【奇蹟】キセキ 不可思議にしてその理由の解くべからざる意、かみわざ。

【奇想】キキョウ なみはづれし考へ、人の意表に出でし思ひつき。奇想天外。
 【奇警】キケイ すぐれてすばやし。
 【奇襲】キシユウ 不意に敵陣をおそふ。
 【奇麗】キレイ 美しく、うるはし、綺麗。
 【奇險】キケン ふしぎなるしるし、奇效。
 【奇觀】キカン めづらしきもの。
 【奇蹟類】キセキルイ 一足に一枚の蹄をもつ獸類。
 【奇岩怪石】キガンクワシ 珍らしい形をし。
 【奇奇妙妙】キキウキウ 甚だ不思議なること。
 【奇奇怪怪】キキウクワイ 合點のいかぬ貌。
 【奇特頭巾】キテツツケン づきんの一種、徳川時代に、婦人のおもに被りし物。
 好奇キカウ 傳奇キカウ 魁奇クワイ 新奇キシン
 偏奇ヘンキ 數奇スウキ 珍奇チンキ 偉奇ワイキ



(巾頭特奇)

【奈】ナイ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奈】ナイ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奈】ナイ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奈】ナイ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

臺下に設けし穴。
 【奈良漬】ナラヅケ 漬物の名、大和の名産。
 【奉】ホウ 漢ソウ ①たてまつる、さしげ(承)うけ ②つぐ(助)やしな(養) ③かまつる(仕) ④みつき(貢) ⑤おくる(送) ⑥ふち、給料(か)す(藉) ⑦まかなひ(奉公) ⑧國事の爲めにつくす(租) ⑨税等を納めて國民の義務をつくす(主) ⑩どりをする、下女下男に雇はれる。
 【奉加】ホウカ 神佛の寄進中に金を加ふ。
 【奉行】ホウギョウ 承けて施し行ふ、御用をつとめる。武家時代の官の名。
 【奉仕】ホウジ ①君に仕ふると。②他の爲めにつとめ働く。「に安置すること」。
 【奉安】ホウアン 神體・佛像等を一定の場所
 【奉納】ホウナフ 神社佛閣に金品を寄進す。
 【奉迎】ホウゲイ 貴人の來るを迎ふ。
 【奉書】ホウシヨ ①室町時代將軍の命によりて下せし文書。②紙の一種、色白く質柔かき大判の紙、主として儀式上の文書を書くに用ふ。「對し答へ奉ること」。
 【奉答】ホウタフ 天皇の御下問又は御諮詢に
 【奉養】ホウヤウ 父母などを養ふこと。

【奉職】ホウシヨク 役につく、職につとめる。
 【奉讀】ホウダク よみたてまつる。勅語奉讀。
 【奉讀】ホウダク よみたてまつる。勅語奉讀。
 【奉體】ホウタイ うけて心にとめ行ふ。
 【奉戴】ホウタイ あがめいたぐ。
 【奉加帳】ホウカチャウ 奉加金を出したる人の姓名金高などをしるす帳。
 【奉答文】ホウタフブン 勅語に答へ奉る文章。
 【奉幣使】ホウヘイシ 神に幣を奉る時の勅使。
 【奉射的】ホウシャマ 昔奉射に用ひた大的。
 祇奉キホウ 畏奉オホホウ 順奉ジュンホウ 承奉ショウホウ
 修奉シュホウ 資奉シホウ 進奉ジンホウ 統奉トウホウ
 肅奉ソウホウ 邁奉マイホウ 衛奉エイホウ 貢奉クウホウ



(射的)

【奏】ソウ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奏】ソウ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奏】ソウ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

【奏】ソウ 漢ソウ ①すゝむ ②まうす(自)言上 ③人臣より主君に奏する書 ④かなづ(符)わり(符)てがた(契) ⑤あつまる(湊、轆)

漢シヤ シヨ 吳ソ 俗語の
あね(姉)は(母)蜀人の語(あなど
る(慢)すがた(姿)おごり
【姪御】アネゴ 俠客・博徒などの親分の妻。

【姪】 漢シ ①あによめ(嫂)あね
吳ソ(姉)

【姪婦】 ジヤ 兄の妻、あによめ。

【姪】 二七一頁の姪を見よ。

【姪】 二八五頁の姪を見よ。

【姪】 三三九頁の姪を見よ。

六畫

【姦】 漢吳
①みだりがまし(淫)みだら(公明、正
大ならず)②いつはる(詐)③よこしま
(邪)④悪を爲す、又悪者(國訓かしま
し、かまびすし)

【姦】 漢吳
①みだりがまし(淫)みだら(公明、正
大ならず)②いつはる(詐)③よこしま
(邪)④悪を爲す、又悪者(國訓かしま
し、かまびすし)

【姦】 漢吳
①みだりがまし(淫)みだら(公明、正
大ならず)②いつはる(詐)③よこしま
(邪)④悪を爲す、又悪者(國訓かしま
し、かまびすし)

【姦婦】 カンソ 適法の有夫の女にして夫以
外の男と私通せし者。

【姦曲】 カンキョク よこしま、非理、不正。

【姦邪】 カンジャ ①よこしま②あしき者。

【姦惡】 カンアク わるもの、奸惡。「こと。

【姦通】 カンツウ 夫ある女が他の男と通ずる

【姦雄】 カンユウ 姦智ある英雄。

【姦婢】 カンビ ①男女の道ならぬちぎり
暴行又は脅迫を以て婦女に對し貞操を
汚すべき行爲をすること。

【姦智】 カンチ 姦才に同じ。「讀むは誤り。

【姦黠】 カンカク 姦才に同じ。「讀むは誤り。

【姦通罪】 カンツウザイ 適法の婚姻後妻が夫以
外の男子と私通して成立する犯罪。

大姦カニ 和姦カン 豪姦カニ 防姦カニ
長姦カニ 陰姦カニ 藏姦カニ 強姦カニ

【姪】 漢吳
①ひめ(女子の美稱)きさき(王后の別
名)②人の姓(めかけ(妾)

【姪矢】 ヒメヤ 石を割る時割目に挟む楔。

【姪君】 ヒメキミ 上流社會の娘の敬稱。

【姪宮】 ヒメミヤ 内親王のこと、皇女。

【姪椿】 ヒメツバキ ねずみもちの異名。

【姪糊】 ヒメノリ 飯粒で作った糊。

【姪萩】 ヒメハギ 山野に
自生する多年生薬
用草本、葉はつげ
に似て紫色の蝶形
花を開く。



(萩) 姪

【姪松】 ヒメマツ ①落葉松②五葉松。
婦徳をそなへた者。

【姪百合】 ヒメユリ 百合の一種、紅百合。

【姪御前】 ヒメゴゼ 姫君又單に若き女の稱。

歌姫カ 幸姫カ 貴姫カ 美姫カ

【姻】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姻戚】 インセキ 次に同じ。「對する關係。

【姻族】 インゾク 夫婦の一方が他方の血族に

【姻】 イン 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【姦】 漢吳 ①夫婦にな
入を婚、嫁いりを姻といふ)とつぐ(

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【威】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

【姪】 漢吳 ①たけし、お
ごそか(嚴)

物をのする臺。

【嬾情】ラシダ 物うくてなまける、懶惰。

十七畫

【孀】漢サウ やもめ(夫に死別 婦、未亡人) 吳シヤウ せる女(こけ(寡 婦、未亡人))

【媼】漢サウ やもめ、寡婦。

【孀】漢サウ やもめ、寡婦。

【孀】漢サウ やもめ、寡婦。

【孀】漢サウ やもめ、寡婦。

【孀】漢サウ やもめ、寡婦。

【孀】漢サウ やもめ、寡婦。

子部

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

爵位の第四位(子爵)のね、十二支の一、時刻の名(午後十二時)方角の名(正北)

【子女】レダ 息子と娘。「意(息子と弟。子)弟」に對して年若き者の

【子孫】レダ 子と孫(世つぎ)後世生れる血族。

【子房】レダ 雌蕊の根部のふくれた所に

【子事】レダ 子の親に對する如くつかふ。

【子宮】レダ 婦人生殖器の名。

【子息】レダ むすこ、せがれ。

【子細】レダ 細かいこと、せがれ。

【子規】レダ ほととぎすの異名。「の葉。

【子葉】レダ 植物の種より發生する最初

【子爵】レダ 爵位の第四位。

【子囊】レダ 隠花植物の胞子を包む小囊

【子役】レダ 芝居で子供に扮する役。

【子供】レダ ちひさいこ、子等、小兒、少年、小人(小供と書くは誤り)。

【子飼】レダ 子供の時から養ふ、又其養

【子寶】レダ 大切な子。「はれたもの。

【子日】レダ 十二支の子に當る日、大

【子午線】レダ 地球の南北兩極を通じて



(孔雀)

【孔雀】クワクワ 鸚鵡類に屬する鳥の名、雄の尾は頗る長くして美麗である。

【孔雀石】クワクワ 銅の酸化より成る石

【孔門十哲】クワクワ 孔子の門人中で德行學藝の特にすぐれた者十人のこと

【孔雀明王】クワクワ 佛母大孔雀明王といふ、一頭四臂にして孔雀に乗る佛。

【孕】漢シ 一、はらむ(妊)みごもる、みふくれる

【孕胎】クワクワ 是らむこと、みごもる。

【孕婦】クワクワ 身もちの女、はらみ女。

【字】漢シ 一、言葉の記号、もじ、もんじ(あざな、あざなす(いづくし(慈)やしなふ(養)うむ(産)いひなづけ(許嫁))

【字句】ジク 文字語句のこと(字句の修正)

【字母】ジボ 活字をつくる基となる模型

【文字】ジボ 音を綴り出すもととなる文字。

畫ける想像上の圖線。「利子、元利金。

【子母錢】シボセン 母錢は元金、子錢はその鼠に似て尾が長く幼

【子守鼠】シボセン 有袋類の小獣で外觀は

【子煩惱】シボセン 子の愛に眼のくらむと

【子孫孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご

【子孫】シボセン 子孫代々の意、まご



(鼠守子)

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【子】漢シ 一、こども、嫡出子、庶子、私生子、養子、繼子(よつぎ(宗子)をむすこ(息子)をむすめ(娘)を物(名)に附して用ふ(たね(種子)に人に對する敬稱(子

【存外】ゾウグワイ おもひのほか、意外。
 【存生】ソウシヤウ いきながらへて居る。
 【存在】ソウザイ 現にある、其のまゝのこる。
 【存否】ソウヒ あるかないか、残るか残らぬか。
 【存命】ソウメイ いきながらへてある。「いか。
 【存問】ソウモン 安否をたづねとふ。
 【存念】ソウネン かんがへ、存慮。
 【存意】ソウイ オもはく、かんがへ。
 【存候】ソウコウ 見舞ふこと、伺ひ問ふこと。
 【存慮】ソウリョ かんがへ、みこみ。
 【存廢】ソウバイ 保存と廢止。
 【存續】ソウゾク 繼續して存在すること。
 【愛存】アイソウ 安存ソウ 思存ソウ 現存ソウ
 臨存ソウ 生存ソウ 默存ソウ 治存ソウ
 長存ソウ 保存ソウ 永存ソウ 所存ソウ

四畫

【孜】シ 漢 吳 ①つとむ (勤勉) ②あつし(篤) ③いづくしむ(愛) ④孜孜(孜) 勉めて怠らざる貌。
 【孝】カウ 漢 ①よく ②善く ③先につかふる行爲 ④親を大切にする者 ⑤孝行な人、孝行な子。

【孜】シ 漢 吳 ①つとむ (勤勉) ②あつし(篤) ③いづくしむ(愛) ④孜孜(孜) 勉めて怠らざる貌。

【孝】カウ 漢 ①よく ②善く ③先につかふる行爲 ④親を大切にする者 ⑤孝行な人、孝行な子。



(機斷母孟)

【季】キ 漢 吳 ①すゑ(末) ②すゑ(末) ③すゑ(末) ④すゑ(末) ⑤すゑ(末) ⑥すゑ(末) ⑦すゑ(末) ⑧すゑ(末) ⑨すゑ(末) ⑩すゑ(末) ⑪すゑ(末) ⑫すゑ(末) ⑬すゑ(末) ⑭すゑ(末) ⑮すゑ(末) ⑯すゑ(末) ⑰すゑ(末) ⑱すゑ(末) ⑲すゑ(末) ⑳すゑ(末) ㉑すゑ(末) ㉒すゑ(末) ㉓すゑ(末) ㉔すゑ(末) ㉕すゑ(末) ㉖すゑ(末) ㉗すゑ(末) ㉘すゑ(末) ㉙すゑ(末) ㉚すゑ(末) ㉛すゑ(末) ㉜すゑ(末) ㉝すゑ(末) ㉞すゑ(末) ㉟すゑ(末) ㊱すゑ(末) ㊲すゑ(末) ㊳すゑ(末) ㊴すゑ(末) ㊵すゑ(末) ㊶すゑ(末) ㊷すゑ(末) ㊸すゑ(末) ㊹すゑ(末) ㊺すゑ(末) ㊻すゑ(末) ㊼すゑ(末) ㊽すゑ(末) ㊾すゑ(末) ㊿すゑ(末)

【孝心】カウシン 孝行な心。
 【孝行】カウカウ よく父母に仕へること。
 【孝弟】カウテイ よく親や兄につかふ。
 【孝貞】カウテイ 孝にして兄弟なかによきと。
 【孝鳥】カウテイ 親につかへ又操を守る妻。
 【孝順】カウジュン 孝行にしてすなほなこと
 【孝敬】カウケイ 親をやしなひ敬ふ。
 【孝道】カウダウ 孝行の道。
 【孝經】カウキヤウ 孝道を説いた書物の名。
 【孝慈】カウジ 孝行と慈愛、よく親につかへ子孫をいづくしむこと。
 【孝養】カウヤウ 父母に仕へて能く孝を盡す 純孝カウジュン 達孝カウタク 追孝カウツイ 至孝カウシ 忠孝カウチュウ 大孝カウダイ 不孝カウフ 仁孝カウジン 孝子カウコウ
 【孚】フ 漢 ①かへす(孵) ②まこ ③つや(玉采) ④鳥のたまご、又植物の種子 ⑤はぐむ(育) やしなふ(養) ⑥まご ⑦ろを以て人を動かす
 【孚化】フカ 卵をかへすこと、孵化。
 【孚甲】フカウ 種子のから、表皮のこと。
 【孚育】フイク やしなひそだてること。
 【孚信】フシン まこと、信實、誠實。
 【字】ハイ 漢 ①草木しげる ②は ③吳 ④きばし(彗星) ⑤くら

五畫

【孟】マウ 漢 ①はじめ(始) ②おほいなり(大) ③人の上に立つ者、かしら、をさ(長) ④つとむ(勉) ⑤おろそか(疎) ⑥みだり(妄) ⑦孟子(孟) ⑧長男 ⑨四書の一、孟子の著 ⑩孟冬 ⑪冬の初めの月、十月。 ⑫孟秋 ⑬秋のはじめの月、七月。 ⑭孟宗 ⑮支那の孝子の名 ⑯孟宗竹の略、又其藪に生じたる筍。「そか。 ⑰孟浪 ⑱取とめなし、でたらめ、おろそか。 ⑲孟婆 ⑳風の神、轉じて、風の異名。 ㉑孟宗竹 ㉒マウソウタク 葦が太く節が短い竹。 ㉓孟母三遷 ㉔マウボサンセン 孟子の母が其子の教養のため三度居を易へたといふ故事 ㉕初め墓地の近くに住む時は孟子は非事を真似て遊び町家に移れば商人の様子を倣ひて遊ぶより更に學校の傍に轉居した、世に之を三遷の教といふ。 ㉖孟母斷機 ㉗マウボタンキ 孟子が學業中途にして歸宅せし時その母が自ら織りつ

【季春】キシュン 春のすゑ、春のをはり。
 【季夏】キカ 夏の終りの月、六月。
 【季節】キセツ とし、をり、時節。「の詠題。
 【季題】キダイ 季節に關係ある和歌・俳句等
 【季候風】キカウフウ 季候の變化によつて氣流の方向がきまつて吹く風。
 【孤】コ 漢 ①みなし ②ひとり(獨) ③たすけなし、たよりなし ④そむく(孤負) ⑤かへりみる ⑥喪中の大名の自稱 ⑦王者の自稱 ⑧孤立 ⑨一本だち、ひとりだち ⑩助くる者なき貌。
 【孤村】コソウ 他の村とかけはなれた村。
 【孤兒】コジ 親のない子、みなしこ。
 【孤坐】コザ ひとりすわる。
 【孤身】コシン ひとりみ、單身。
 【孤帆】コハン ひとつの船、孤舟。
 【孤舟】コシフ 前に同じ。
 【孤兒】コジ 前に同じ。
 【孤客】コカク ひとりたびの人。
 【孤忠】コチュウ 己れ一人忠義をまもる。
 【孤城】コジヤウ ①援軍なくひとり敵を引受けて戦ふ城 ②山上等にある一つの城。
 【孤軍】コダン 援兵なき軍、轉じて生活上の戦ひに何人の援けもなきにいふ。

【孩】カイ 漢 ①ちのみこ、笑ひか ②あごの下(わかし(年少) ③みどりこ、ちのみこ。
 【孩心】ガイシン をさなごころ。
 【孛】ハク 漢 ①妻と子、 ②は夫の罪によりてその妻子まで罰する ③刑法 ④奴に通ず、やつこ(使はるゝ人) ⑤とりこ(虜) ⑥鳥の尾
 【孛】ハク 漢 ①妻と子、 ②は夫の罪によりてその妻子まで罰する ③刑法 ④奴に通ず、やつこ(使はるゝ人) ⑤とりこ(虜) ⑥鳥の尾
 【孩】カイ 漢 ①ちのみこ、笑ひか ②あごの下(わかし(年少) ③みどりこ、ちのみこ。
 【孩心】ガイシン をさなごころ。

【孩兒】ガイジ 笑ひかけのみどり子。
 【孩蟲】ガイチュウ 産れての蟲、幼蟲。
 【孩嬰】ガイエイ みどりご、ちのみこ。

七畫

【孫】ソウ 漢吳
 【遜】ソウ
 【孫】ソウ

①まご(子の子)②命の血すぢ③一つのものより分れしもの④つぐ(繼)⑤の(通)にぐ⑥ゆる、したがふ
 【孫子】ソウシ 齊の孫武の著した兵書。
 【孫吳】ソウゴ 孫武と吳起の二兵法家、支那春秋戰國時代に於ける兵法の大家。
 【孫手】マゴテ 先端に指の爪形のものをつげ背のかゆい所を搔く棒、麻姑。
 【孫引】マゴヒキ 原書に



よらず、他の文書に引用したものを其儘引例すること
 【孫廂】マゴヒヤ 母屋の廂の間の外に更にそへたる廂。
 子孫 ソウソウ 曾孫 ソウソウ 玄孫 ソウソウ 昆孫 ソウソウ
 外孫 ソウソウ 天孫 ソウソウ 孽孫 ソウソウ 耳孫 ソウソウ
 兒孫 ソウソウ 皇孫 ソウソウ 末孫 ソウソウ 嫡孫 ソウソウ 孫孫 ソウソウ

八畫

【孰】ジュク 漢シユク 熱に
 【孰】ジュク 吳シユク 通ず、
 なる(煮)①みのる(稔)②たれ(誰)たれ
 ぞ③いづれ(何)いづれか④くはし(精)
 【孰若】ジュクニシ izzれぞ、izzれぞや。
 【孰與】ジュクニシ 前に同じ。

九畫

【辱】ジュク 漢セン ①よわし(弱)おとる
 【辱】ジュク 吳ゼン (劣)おろか(愚)②せまる、くるしむ(窘)③うなる、うめく
 (呻吟)④山の高く現はれし貌
 【辱劣】センレツ よわくておとる。
 【辱弱】センジュク よわし、かよわし。

十畫

【孽】ニツ 漢シ ①しげる(茂)ふ
 【孽】ニツ 吳ツ える(殖)②つとむ(勉)はげむ(勵)③子を持つ、やしなふ(養)④さかる(鳥獸の交合)
 【孽孕】ニツゴ 動物が子をはらんでうむ。
 【孽育】ニツゴ けうみ育てる。
 【孽】ニツ 漢吳 ①やしなふ(養育)②卵をかへす(孵化)
 【孽化】ニツゴ 卵をかへす、又卵がふへる

十二畫

【學】ガク 漢カク 吳ガク ①まなぶ、ならぶ、修める、教へを受く②さとる③學ぶ人、又學ぶわざ④まなぶ所(學林)

【學力】ガクリキ 修めたる學問の分量。
 【學士】ガクシ ①大學卒業生に與へられる稱號②すべての學者の稱。
 【學才】ガクサイ ①學問と才智②學びて得たる才能③學問ある者。 「る人。
 【學生】ガクセイ 書生に同じ、學問を勉強する
 【學位】ガクイ 學識のすぐれし人に授ける名譽の稱號、博士號。
 【學舍】ガクシヤ 學校、校舎。
 【學名】ガクメイ 博物又は醫學上の名稱を世界共通のラテン語でつけたもの。
 【學友】ガクイウ 學校友達のこと。
 【學林】ガクリン 學問の範圍、學界。
 【學匠】ガクシヤウ 學者、ものしり、師匠。
 【學究】ガクキウ 學問の研究又其研究する者
 【學年】ガクネン 學制により定むる一ケ年。
 【學房】ガクバウ がくもんをするへや、教室。
 【學級】ガクキフ 學年に分ちたる學校の組。

【學制】ガクセイ 學事に關する規則・制度。
 【學長】ガクチャウ ①官職の名②學校の管理者又は生徒のかしら。
 【學科】ガククワ 教授上より規定して區別してある學問の條目。 「て學問ある人。

【學者】ガクシャ 學事に通達したる人、すべ
 【學界】ガクカイ 學藝の社會、學校、學林。
 【學府】ガクフ 學問の首腦となる所。
 【學則】ガクソク 學校の規則、校規。
 【學堂】ガクドウ 學校に同じ。
 【學修】ガクシウ 學問を學び修む。 「氣風。
 【學風】ガクフウ ①學問の風儀②學校固有の
 【學徒】ガクト 學びのともがら、學生。
 【學派】ガクハ 學を修める所、學舎。
 【學問】ガクモン ①學び習ふ②知らぬ事を學びて其理を覺り道をたづねて其惑を解く義③學び得た學藝。 「とふ。
 【學海】ガクカイ 學問の廣きを海の廣きにた
 【學理】ガクリ がくもん上の道理、眞理。
 【學術】ガクジツ 學問と藝術。「の一期間。
 【學期】ガクキ 學制によりて定めたる修業
 【學習】ガクガク 学ばなびならふ。
 【學窓】ガクサウ まなびのまど、學校。
 【學費】ガクヒ 學問するに必要な費用。
 【學說】ガクセツ 學問上の說。

【學僕】ガクボク 師の家又は家塾などの召使
 【學僧】ガクソウ 佛教研究の僧侶。
 【學問】ガクモン 同じ學校の出身者が互ひに
 相助けて勢力を得んとする團體。
 【學殖】ガクシヨク 學問を修めつむこと
 【學植】ガクシ 學問のためにする費用。
 【學資】ガクシ 修學のためにする費用。
 【學園】ガクエン 學校、學舎、學館。
 【學童】ガクドウ 學問修業の兒童。
 【學徳】ガクトク 學問と德行。
 【學會】ガクカイ 學問研究の爲めの團體。
 【學業】ガクゲツ 學問といふに同じ。
 【學窮】ガクキウ ①研究しつくす②學者にして貧困なる者。 「理する職員。
 【學監】ガクカン 學生を監督し又は學校を管
 【學寮】ガクリウ ①學校②寄宿舎③寺院にて
 徒弟の學問する所。
 【學館】ガクカン 學園に同じ。 「る識見。
 【學識】ガクシキ ①學問と見識②學びて得た
 【學齡】ガクレイ 男女の初めて小學校に入る
 べき年齢、義務教育を受くべき年齢、
 即ち滿六歳より十四歳まで。
 【學籍】ガクセキ 在學生として其學校の名簿
 【學藝】ガクゲイ 學術と技藝。「に記す身分。
 【學務委員】ガクムツウ 府縣市町村及町村學
 校組合が教育事務の爲に置くことを要し

又市町村内及び學校町村組合の區が小
 學校教育事務の爲に置くことを得る委員
 五學ガク 六學ガク 幼學ガク 獨學ガク
 強學ガク 好學ガク 文學ガク 內學ガク
 淫學ガク 心學ガク 曲學ガク 經學ガク
 耳學ガク 視學ガク 博學ガク 書學ガク
 校學ガク 私學ガク 國學ガク 廢學ガク
 志學ガク 同學ガク 精學ガク 篤學ガク
 儒學ガク 宿學ガク 碩學ガク 雜學ガク
 道學ガク 勤學ガク 苦學ガク 奧學ガク
 積學ガク 秘學ガク 晚學ガク 家學ガク
 俗學ガク 就學ガク 瀟學ガク 僞學ガク
 後學ガク 梵學ガク 禪學ガク 字學ガク

【孺】ジュ 漢シユ ①いとけなし、ちのみ
 呼ぶ語、こぞう②したふ③さかる(交尾)
 【孺子】ジュシ ①ちのみこ、をさなご、こども
 ②他人を見下げて呼ぶ言葉。

十六畫

【孽】ニツ 漢ガツ ①妾腹の
 【孽】ニツ 吳ケチ 子(庶子)
 ①いやしき生れのもの②いたむ(戴)
 ③かざる(飾)④うれふ(憂)⑤わざはひ
 (妖)⑥いたむ(傷)⑦つみ

六部

【六〇】漢メン 家をほほふ口おほかんむり(漢字形象上の語)

一畫

【字・佇・竚】漢吳 ①たゝずむ口支那の君主が政事を聴くため立てし場所(門と扉との間)

【守立】

【宅】

【穴】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【宅】

【守】

漢シウ 吳シユ ①まもる、もり、もる、まもり ②たもつ(保)見はる(防禦) ③守護の役人、又位低くして官の高きを現はす詞 ④狩に通ず、かり ⑤國訓かみ

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】 漢シウ 吳シユ ①まもる、もり、もる、まもり ②たもつ(保)見はる(防禦) ③守護の役人、又位低くして官の高きを現はす詞 ④狩に通ず、かり ⑤國訓かみ

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

【守】

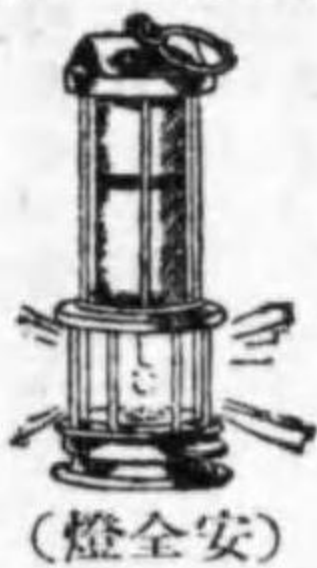


(守 宮)



(字 治人形)

をはかる處置方法。
 【安全燈】アンセトリツ 鑛山などで坑夫が坑中を照らすに用ひる安全装置の燈火。
 【安全第一】アンセンドイチ 安全なるが處世上の一番大切な事であるとの義。
 【安樂世界】アンラクセカイ 阿彌陀如來の報土といふ世界、西方淨土、極樂。
 【安寧秩序】アンネイチウジヨ 公の秩序と同じ意味で社會の狀態が安穩靜寧にして凡百の事物各々其所を得て整頓すること。
 【安心立命】アンシンリツメイ 生死のさとりを開きて來世の安心を得ること。
 【安全週間】アンゼンシウカン 全市が協力一致して屋内・屋外共に十分の注意を拂つて種々の災害を未然に防ぎ一週間にその市内をして絶對的に安全な狀態の中に置かうとして試みられるくはだて。
 【安全地帯】アンゼンチタイ ①交通上の危險防止區域 ②總て危險不安等の伴はざる狀態に言ふ ③俗に誘惑のなき所をもいふ
 【安價生活】アンカセキツウツ 營養分を多量に含有する安價なる食物を常食として生活すること。 「る腰掛の總稱」



(燈全安)

燕安アン 又安アン 治安アン 恬安アン
 鎮安アン 閑安アン 便安アン 平安アン
 撫安アン 儉安アン 慰安アン 保安アン

【字】 二八三頁の字を見よ。

【宋】

漢ソウ ①國の名 吳スウ (現今の支那の河南省歸商邱、又南北朝時代の南朝の一、又五代の後の一國) ②をる、ゐる(居) ③すまひ

【宋音】ソウオン 宋代に行はれし字音。「學」
 【宋學】ソウガク 宋代に研究されし儒教の哲
 【宋襄之仁】ソウシャウノジン 宋の襄公が楚と戦ひし時、公子目夷が敵の陣列の未だ成らざる前に急に撃つことを勧められたれど君子は人を厄に困しめずといひて遂に楚に破られたりといふ故事より轉じてつまらぬあはれみのこと。
 【完】 漢クワン ①まつ
 ②そなはる(備) ③そらふ ④つくろふ(繕) ⑤はたす、なしとぐ ⑥安全ならしむ ⑦古文の寛 ⑧髪を去る刑
 【同訓異義】 まつたし 完・全等の用法

【完】

漢クワン ①まつ ②そなはる(備) ③そらふ ④つくろふ(繕) ⑤はたす、なしとぐ ⑥安全ならしむ ⑦古文の寛 ⑧髪を去る刑

【宏】 漢カウ 吳コウ ①ひろく(廣) ②ふかし(深) ③おほいなり(大) ④廣くす、大にす
 【宏才】 コウサイ すぐれて深き才智。

は一二頁の全を見よ。
 【完了】 クワンリョウ 全部を成し遂げる。
 【完全】 クワンゼン ①物の全くとよのへるさま ②十分にそなはる、缺點なし。
 【完成】 クワンセイ 出來上る、成就する。
 【完納】 クワンナウ ①租税その他の負擔を殘らず納むること ②物品を全部納める。
 【完然】 クワンゼン ①全くそなはる ②缺くるところなきさま。
 【完結】 クワンケツ 物事の全部終りし貌。
 【完備】 クワンビ 不足なく備はる。
 【完膚】 クワンフ ①むきずのはだ ②他人を論難攻撃して十分にやりこめること。
 【完済】 クワンサイ 残らずす、皆返す。
 【完璧】 クワンペン ①きずのなき玉 ②文章などの完備せるにたさふ ③物の完全になはるさま ④完壁を期す。
 【完全無缺】 クワンゼンムケツ 悉く揃つて缺けた所がない、少しもきずがない。
 【完全變態】 クワンゼンヘンタイ 蟲が仔蟲及蛹の二期を順次に經て成蟲に變化する狀態
 【宏】 漢カウ 吳コウ ①ひろく(廣) ②ふかし(深) ③おほいなり(大) ④廣くす、大にす
 【宏才】 コウサイ すぐれて深き才智。

【宏大】 コウダイ ひろくして大なり。
 【宏壯】 コウサウ 大にして盛んなり。
 【宏言】 コウゲン 大言、おほげさなる言。
 【宏博】 コウハク 廣くして大なり。
 【宏規】 コウキ 遠大なるはかりごと。
 【宏器】 コウキ 大なる器量、大きいうつわ。
 【宏猷】 コウイウ 宏規に同じ。
 【宏遠】 コウエン 宏々として廣きさま。
 【宏業】 コウゲツ 大いなるわざ。
 【宏圖】 コウト 宏規に同じ。
 【宏謨】 コウモ 前に同じ。
 【宏邈】 コウバク ひろく遠きさま。
 【央】 漢シツク 古文の肉の字 ①に 吳ニク く、しと訓む ② 今はにくには肉、ししには央を用ふ
 【央人】 セシヒト 肉類の料理をなす人。
 【弁】 漢セイ 吳シヤウ 家の中に設けられた井戸、室内の井戸のこと
 【牢】 六五六頁の牢を見よ。
 【究】 七六〇頁の究を見よ。



(井)

【宗】

漢ソウ 吳ス ①むね(旨) ②おもなること(主) ③みなもと(本源) ④おほもと ⑤たつとぶ(尊) ⑥祖先中徳のあるもの、又祖先の總稱 ⑦第一位の人、重なる人 ⑧同類の親族 ⑨祖先より分れし分族 ⑩まみゆ(見) ⑪おもむく(趣)

【宗子】 ソウシ 家を相續すべき長子、嫡子。
 【宗兄】 ソウケイ 總領の兄、あとさりの兄。
 【宗主】 ソウシュ ①おほもと、總本家。 ②すべて師匠たる者の稱
 【宗匠】 ソウシヤウ ①すべて師匠たる者の稱 ②すべての官吏、工師。
 【宗室】 ソウシツ ①本家、又一門の本 ②太宗の廟 ③一門の者。「別に同じ宗派」
 【宗門】 ソウモン ①宗族に同じ ②宗教上の區
 【宗家】 ソウカ 本家、一門のもととなる家。
 【宗族】 ソウソク 一家、親族、みうち。
 【宗廟】 ソウベウ 祖先の廟、主として帝王につ
 【宗制】 ソウセイ 宗門のおきて。「いていふ」
 【宗旨】 ソウジ ①宗教の趣旨 ②宗派、宗門。
 【宗徒】 ソウト その宗派の信仰者。
 【宗派】 ソウハ 宗教の分派。
 【宗教】 ソウケウ 人生に超越せる最高なるものを人格化して信仰し之に歸依して安心幸福を得せしむる精神的の教。

【官】

漢ウ ①つかさどる

【宗論】 ソウロン 宗派の優劣論。
 【宗主國】 ソウシュク 附屬國に對していふ、それを保護する關係にある國。
 【宗秩寮】 ソウチリヤウ 宮内省に屬し皇族・玉族・公族・華族・朝鮮貴族・有位者に關する事項、皇族會議及び爵位に關すること等をつかさどる。「する權力」
 【宗主權】 ソウシュケン 國家が他の國家を支配
 朝宗ソウ 祖宗ソウ 詩宗ソウ 文宗ソウ
 功宗ソウ 南宗ソウ 禪宗ソウ 儒宗ソウ
 【官】 漢ウ ①つかさどる
 ②公務 ③やくしよ(官廳) ④やくば(官能) ⑤ほやけ(公) ⑥朝廷、政府 ⑦はたらき(官能)
 【官位】 クワンイ 官職と位階との併稱。
 【官女】 クワンニョ 宮中に仕へる女官、宮女。
 【官司】 クワンシ 役人 ①有司、百官 ②役所。
 【官立】 クワンリツ 政府にて設立維持する意
 【官宅】 クワンタク 官にてつくり役人を置く舎屋、官舎ともいふ。「肩書」
 【官名】 クワンメイ ①戸籍上の本名 ②官吏の
 【官吏】 クワンリ 國家の事務を負擔すべき義務を負ひ直接間接主權者に隸屬する者
 【官民】 クワンミン 官吏と平民との並稱。
 【官有】 クワンユウ 國家又は政府の所有の意。

【官印】クワンシヨク ①太政官の印。官署又は官職の印章及び記號。
 【官私】クワンシヨク 公と私、公事と私事。
 【官省】クワンシヨク 役所。國語官省。
 【官等】クワンシヨク 官職の等級。
 【官廷】クワンシヨク 役所、官廳。
 【官妓】クワンシヨク 容色の美と歌舞の技藝を以てみやづかへたる女。「に同じ」。



(妓官)

【官舎】クワンシヨク 官宅。
 【官房】クワンシヨク 各省の長官に直屬して特別の事務を取扱ふ所のこと。
 【官府】クワンシヨク 官廷に同じ。「こと」。
 【官命】クワンシヨク 官廳より個人に命令する。
 【官金】クワンシヨク 政府より發行する貨幣、國庫の所有に屬する金錢。「し神社」。
 【官社】クワンシヨク 諸侯が自身の爲めに建てた。
 【官家】クワンシヨク ①天子の朝廷、又官吏。
 【官邸】クワンシヨク 官宅に同じ。
 【官紀】クワンシヨク 官府の規律、官吏の取締。
 【官物】クワンシヨク 政府の所有せる物件。
 【官能】クワンシヨク 目・耳・鼻・口・皮膚の五官の作用、生物のもつ生理上のはたらき。
 【官員】クワンシヨク 官途につける人、役人。
 【官海】クワンシヨク 官吏社會、官途。

【官制】クワンシヨク 官廳の組織・官吏の權限等を定めたる法則。「事を許すをいふ」。
 【官許】クワンシヨク 官廳が特定の人に特定の「官書」クワンシヨク 上の書もの、公文書。
 【官途】クワンシヨク 官吏の地位、役所むき。
 【官設】クワンシヨク 國家の費用を以て營造物を設立しこれを維持すること。「隊」。
 【官軍】クワンシヨク 賊軍に對して政府方の軍。
 【官衙】クワンシヨク 役所、官廳。
 【官給】クワンシヨク 政府より給せられる「意」。
 【官署】クワンシヨク 役所、官衙。
 【官費】クワンシヨク 政府にて負擔する費用。
 【官業】クワンシヨク 國家が収益營利の目的を以て又は公益の目的で自ら商工製造事業を經營すること。
 【官報】クワンシヨク 法規其他諸般の新事項を國民一般に周知せしめる爲め政府にて發行する日刊の公報。
 【官幣】クワンシヨク 官内省式部職から祭の際に神社に捧げられる幣帛。
 【官選】クワンシヨク 政府が選りぬく。
 【官邊】クワンシヨク 役所むき、おもてむき。
 【官僚】クワンシヨク 役人、官吏の仲間又同僚。
 【官憲】クワンシヨク 國家のおきて。官吏。
 【官營】クワンシヨク 政府で經營する事業。
 【官職】クワンシヨク ①官制の事務取扱の地位

②やくめ。官と職。
 【官線】クワンシヨク 官有の電線又は鐵道。
 【官權】クワンシヨク 政府の權力。
 【官廳】クワンシヨク 役所、官衙、官廷。
 【官文書】クワンシヨク 官書に同じ。
 【官公吏】クワンシヨク 官吏と公吏、政府の役人と市町村等の役人。
 【官幣社】クワンシヨク 式部職より帛幣を捧げられる資格ある神社、大・中・小・別格の四種あり。「して行ふ政治」。
 【官僚政治】クワンシヨク 政府の權力を主として官僚内閣クワンシヨク 官僚のみで組織した内閣(政黨内閣・貴族内閣の對)。
 地官クワンシヨク 夏官クワンシヨク 冬官クワンシヨク 庶官クワンシヨク 世官クワンシヨク 學官クワンシヨク 士官クワンシヨク 史官クワンシヨク 兵官クワンシヨク 法官クワンシヨク 長官クワンシヨク 譯官クワンシヨク 微官クワンシヨク 左官クワンシヨク 稗官クワンシヨク 大官クワンシヨク 代官クワンシヨク 判官クワンシヨク 士官クワンシヨク 屬官クワンシヨク 文官クワンシヨク 武官クワンシヨク

宙

漢ナウ ①そら、ら、あめ、轉じて天地間、世界。無限の時間。國訓ちう(中空、そら、そらんず)宙宇クワンシヨク 天地、宇宙、天下。宙外クワンシヨク 世界のそと。

【宙返】チウガヘリ 地を離れて空中で身をひるがへす。「に歩くやうに見せる藝」。
 【宙乘】チウノリ 芝居などで身體を吊つて宙をよす(保)しづか(靜)む(わ)かつ(須)とよまる(止)星の名(ひ)た(ひ)額(額)佛敎にて無念無想の域に住するをいふ。①國訓さだめ、約束。
 【定休】テイキウ しまつた休み、定休日。
 【定日】テイジツ 前以て定めたる日限、又日をきめる。「かなる考へ」。
 【定見】テイケン ①しまりたるみこみ。②たし。③定住。テイヂウ ①定まれる住居。②一定の場所に住むこと。「る時刻」。
 【定刻】テイコク ①約束の時間。②さだまりたる時刻。③タイソク ④さだまりたるきそく。
 【定限】テイゲン 定められたる限り。
 【定員】テイイン しまりたる人數。「理論」。
 【定理】テイリ 眞理だと證明される一定の「定情」テイジヨウ 夫婦のかため、めをとのちぎり。「る料理の稱」。
 【定食】テイシヨク 和洋食の一人前そろひた
 【定款】テイクワン 社團法人設立の基礎にしてその組織及び内部の關係を記載した

る文書。「定せる行事」。
 【定例】テイレイ しまりたるしきたり、一
 【定期】テイキ 定めし期日、日数をくぎる。
 【定評】テイヒョウ 世間にて自然に定められ
 た一ばんの評判、ねうち。
 【定著】テイチャク しつかりとつく、固著。
 【定義】テイギ 物事に關する概念の範圍を説明するもの。①物理學の定義。
 【定説】テイセツ ①常にかはらぬ説。②世間一般にしまりし意見。
 【定規】テイキ ①一定の規則。②物を截ち又は線を引く時にあてがふ道具。
 【定量】テイリヤウ しまつた分量。
 【定價】テイカ ①きめたる値段。②定論。テイロン ①定りたる議論。②動かすこと能はざるたしかなる意見。
 【定額】テイガク 常にしまりたるたか。
 【定芽】テイガ 植物の一定の場所に生ずる芽
 【定時】テイジ 定めぬの時期、又定刻。
 【定木】テイキ ①一定の規則により年貢などを免除する特典。
 【定連】テイレン ①いつも一緒になるなかま。②寄席などに定まつて行く者。
 【定命】テイメイ ①定りたる壽命、又運命。②「定めていめいと讀むは誤り」。

【定紋】テイモン 其家のきまりの紋所。
 【定客】テイキヤク いつもの客、來つて客。
 【定宿】テイシュク 常にとまる宿屋のこと。
 【定業】テイギョウ ①定つた職業。②前世にての約束、因果。③「定めていげうと讀むは誤り」。
 【定離】テイリ 必ずしはなれること。④「定めていり」と讀むは誤り。「人員の最小數」。
 【定足數】テイソクスウ 議會等にて定められし
 【定家流】テイカリウ 書體の名、鎌倉時代の歌人藤原定家のはじめしもの。
 【定期米】テイキマイ 現品取引の期限を定めて賣買契約をなす米。
 【定期株】テイキカブ 株式取引所の規定によりその取引所で投機賣買の目的物たることを許された株式をいふ。
 【定期券】テイキケン 定期乗車券の略、汽車電車等の一定の區間及び期日を限り往復乗車する割引切符。
 【定期預】テイキアツケ 或期間を限りて引出さざることを約した預金。「ふ液」。
 【定着液】テイチャクエキ 寫眞術で定着につか
 【定命論】テイメイロン 人間の意志・行爲は神又は自然によつて豫め規定せられ



(紋定)

自己選擇の自由がないといふ説。
 【定時總會】テイジツクワイ豫め一定する時期に開催する總會、定期總會。
 【定期取引】ライキトリヒヤ有價證券・貨物等を取引所に於て三ヶ月以内の期間を限りて賣買受渡しすること。
 【定期航海】タイキカウカイ一定の航路に一定の時日・一定の船舶を以てする航海。
 【定量分析】タイリヤウブンセキヤ化合物を分析して各原素の分量をはかる方法。
 【定期刊行物】タイキカンカウブツ 日刊・週刊・月刊等の如く一定の時期を定めて刊行される出版物のこと。

肯定テイ 安定アン 創定サウ 未定マイ
 鎮定チン 保定ハウタイ 制定セイ 豫定ヨイ
 商定ライヤウ 奏定ソウ 建定ケン 撫定フイ
 更定ケイ 撰定ゼン 匡定キヤウ 刊定カン

宛

【宛】(宛) 漢エン ①まがる
 吳ラン (曲)かむ
 ②さながら、あだかも(恰)小
 さき貌③四又は凸巧みに人をよける
 ④死亡のさま⑤國訓あて、づ、名ざし
 【宛如】エンシヤ さながら、丁度、あだかも。
 【宛然】エンゼン ①さながら、あだかも②依然として③ゆづりさくる貌。

【宛轉】エンゼン ①附かず離れず隨ふ②すなほなる形にて動くさま。
 【宛名】アヲナ手紙などをやる時の先方の名



【宜】(宜) 漢イ ①よろし、よし②よろしき物事③好みよしとす④うべなり、もつともなり、よみす⑤宜しく何々すべし⑥祭の名
 【宜男草】イダシナウ草
 機宜キヤ 時宜ジ 便宜ベン 適宜チヤ

【宥】(宥) 漢タウ ①通過の意、過ぐ、吳ダウ こゆ(超)②あな、ほらあな③瀆に通ず
 【室】 三〇八頁の寶を見よ。
 【空】 七六〇頁の空を見よ。
 【穹】 七六二頁の穹を見よ。

客

漢カク ①まら 吳キヤク うど(來)

客(カク) ①たびに居る、たびびと(旅人)寄留せる人②あひて(相手)攻め來りし敵③過去を現はす語④我が意識に對して外界を現はす語⑤支那戰國時代の辯士⑥食客、寄食者
 【客土】カクツ ①旅路、他國、客地②おき土、他から持つて來た土。
 【客月】カクゲツ あとの月、去月。
 【客日】カクジツ 過ぎた日、先日。
 【客冬】カクトウ 去年の冬、去冬、昨冬。「ひ。客心」カクシン 旅にありて心細く感ずる思
 【客秋】カクシュ 去年の秋、去秋、昨秋。
 【客死】カクシ 旅に居て死ぬこと。
 【客我】カクガ 自ら自己を觀察する時その自己のこと、即ち客觀的に見たる自己。
 【客地】カクチ 知らぬ土地、旅さき。
 【客年】カクネン 去年、昨年、客歲。
 【客舍】カクシャ ヤドや、旅人宿。
 【客員】カクイン 客、來客。
 【客春】カクシュン 去年の春、去春、昨春。
 【客夏】カクカ 去年の夏、去夏、昨夏。
 【客寓】カクウ 他所のかりずまひ、寓居。
 【客氣】カクキ 血氣にはやる勇氣、空元氣。
 【客情】カクジョウ 客心に同じ。
 【客愁】カクシュ 旅の心、旅の心配、旅愁。
 【客語】カクゴ 論理學上の語、一般概念を

表はず命題の一。 「ひにする。
 【客遇】カクグ 賓客として接待する、客扱
 【客歳】カクサイ 客年に同じ。
 【客觀】カククワン 主觀に對する語、自己に對する外界のすべてをいふ②隨處きやくくわんと讀むは誤り。
 【客臘】カクラフ 去年の十二月、舊臘。
 【客體】カクタイ 行爲又は意志の目的物となるもの②囚犯罪の客體。
 【客人】カクジン まらうど、きやく。
 【客止】カクヂ 興行物などの大入滿員で客をことわるること。
 【客分】カクブン お客として取扱はれる人
 【客車】カクシャ 貨車の對、乗客の輸送を目的として運轉する列車。
 【客待】カクマチ 車夫などが客の乗車を待つて居ること、又其小屋。
 【客室】カクシツ 客を招き入れる部屋。
 【客席】カクセキ 客人の座席。
 【客船】カクセン 乗客のみを輸送する船。
 【客本主義】カクホンシヤウジ 東京の松坂屋吳服店が宣傳に用ゐてから流行し出した語
 でお客本位の主義といふ意。
 幽客イウ 遊客イウ 孤客コ 媚客ビ
 羈客キヤク 書客シヤク 商客シヤウ 寄客カク
 墨客ボク 寒客カン 俗客ソク 隱客イン

室

漢シツ ①むろ、な(へや、座敷)②(家)③すまひ(住居)④妻又は妾の稱⑤(家族)⑥(さや)⑦(鞘)⑧墓のあな⑨ふくる
 【室老】シツラウ 國老又は家老などの意。
 【室長】シツチヤウ 一室内の者を支配する頭
 【室内】シツナイ 座敷の内、座敷中。
 【室家】シツカ いへ、家屋、住居又家庭。
 【室咲】シツサキ 温室で咲かせた花。
 【室内劇】シツナイゲキ 座敷を其儘舞臺とし有合せの調度品を用ひて演ずる劇。
 【室女宮】シツメユウ 天の十二宮の一。
 居室シツ 居室シツ 宮室シツ 廟室シツ
 陋室シツ 世室シツ 營室シツ 蠶室シツ
 幽室シツ 私室シツ 深室シツ 側室シツ
 氷室シツ 溫室シツ 清室シツ 浴室シツ
 茅室シツ 禪室シツ 正室シツ 房室シツ
 宗室シツ 土室シツ 王室シツ 皇室シツ

宣(セン) ①のぶ(述) 漢イ ①のたまふ
 【宣託】センタク 神佛のつげをいふ。
 【宣教】センケウ 宗教をひろめること。
 【宣揚】センヤウ ひろく世にあらはす。
 【宣誓】センサイ ちかひを立つ、誓約の宣言。
 【宣傳】センデン ①上より下に命令を布く②ひろくのべつたふ、いひよるむ。
 【同訓異議】のぶ 宣・述・陳其他の用法は一〇三一頁の述を見よ。
 【宣下】センゲ ①みことりのりを下す②臨時のみことりのりにて官位につくこと。
 【宣化】センカ 徳政を行ふと。「きわたる。
 【宣布】センブ ①官よりのふれ②ひろくゆ
 【宣示】センシ 上より下にしきしめすと。
 【宣言】センゲン ①天子のみことりのり②任官の時のみことりのり、上卿より外記に傳へて下知せしこと③女官の名。
 【宣告】センコク ①のべつぐ②判決の言渡。
 【宣言】センゲン ①明かにのぶ②公衆に向つて政治上又は學術上の意見を述べる。
 【宣命】センメイ ①みことりのり②即位・立后・立太子・任大臣等に關する天子のおほせを宣命文に記したるもの③隨處せんめいと讀むは誤り。
 【宣託】センタク 神佛のつげをいふ。
 【宣教】センケウ 宗教をひろめること。
 【宣揚】センヤウ ひろく世にあらはす。
 【宣誓】センサイ ちかひを立つ、誓約の宣言。
 【宣傳】センデン ①上より下に命令を布く②ひろくのべつたふ、いひよるむ。

【宣職】戦争を中絶に宣言すること。
 【宣言文】裁判所に宣言する旨を記したる文。
 【宣誓書】誓ひを立て其の旨を記したる書。
 【宣教師】耶蘇教を弘むる教師。
 【宣誓式】帝國大學の入学式。

宥

【宥免】罪をゆるし軽く罰す。
 【宥恕】寛大の意。罪をかるくす。
 【宥救】罪をゆるす。

宦

【宦官】去勢の刑をうけて後宮に仕へる者。

【宦女】宮づかへの女。
 【突】七六二頁の突を見よ。
 【穿】七六二頁の穿を見よ。
 【窃】七六二頁の窃を見よ。

宮

【宮女】宮仕へする女。
 【宮中】皇居、大みや、御所。
 【宮室】宮殿のこと、御殿。
 【宮相】宮内大臣の略稱。
 【宮廷】天子の御所。
 【宮苑】王宮内の園、禁苑、御所。
 【宮庭】天子の居る城、皇居、御所。
 【宮媛】女官。

【宮殿】宮城に同じ。
 【宮司】伊勢神宮の祭主の次に位する神官。國幣社の最高神官。
 【宮仕】宮中に奉公する、轉じて一般に主人もちの俗語。
 【宮居】皇居、宮城。神社の在る所に柱を立て、皇居の柱。神社の柱に參る儀式、うぶすなまゐり。
 【宮内省】皇室に關する諸般の事務を總理する役所。
 【宮内大臣】皇室に關する諸般の事務を總理する役所。
 【宮中席次】宮中に於ける重臣の席順、轉じて役所、學校等の集會に於て俸給順に著席を定むることの形式的に過ぐることをいふ。
 【宮中顧問官】宮中に設けられ宮廷に關する天皇の御諮問機關。
 【行宮】東宮、春宮、震宮、行宮、中宮、後宮、法宮、離宮、齋宮、儲宮。

宰

【宰】漢、一つかさどる(司)を

【宰府】丞相の役所。
 【宰相】天子をたすけ政治を行ふ官職、昔の參議。「行く人」取締る。
 【宰領】荷物の運送を護衛して行く人。

害

【害】他人の苦痛不幸等を喜ぶ傾向。人を害せんとする心。
 【害鳥】農作物を害する鳥。
 【害虫】農作物を害する昆虫。
 【害毒】物を害する毒。
 【害意】他人の苦痛不幸等を喜ぶ心。
 【害鳥】農作物を害する鳥。
 【害虫】農作物を害する昆虫。
 【害毒】物を害する毒。
 【害意】他人の苦痛不幸等を喜ぶ心。



(害虫)

宴

【宴】酒をなして楽しむこと。
 【宴會】酒をなして楽しむこと。
 【宴飲】酒をなして楽しむこと。
 【宴遊】酒をなして楽しむこと。
 【宴會】酒をなして楽しむこと。
 【宴飲】酒をなして楽しむこと。
 【宴遊】酒をなして楽しむこと。

宵

【宵】夜のこと。
 【宵月】初夜の月、宵の間に出現する月。

家

【家】住居、一団、一つまと、をつとめること。
 【家人】一家の成員。
 【家内】一家の成員。
 【家什】日用の食器家具等。
 【家中】一家の成員。
 【家兄】一家の長男。
 【家令】一家の長女。
 【家名】一家の名譽。
 【家老】一家の長老。
 【家扶】一家の輔佐。
 【家君】一家の長男。
 【家作】一家の長女。
 【家系】一家の系圖。
 【家例】一家のしきたり。

【家事】カゼ 家の事、家庭内の用事。
 【家長】カチヤイ いへのをさ、戸主。
 【家門】カモン 家、主として自分の生家。
 【家具】カガ 家財に同じ、うつは、道具。
 【家風】カフウ ①家のしきたり②一家のおきて③家風に合はぬ。
 【家庭】カライ 己が家、一家の中。
 【家相】カサウ 家屋に對する吉凶の運勢。
 【家屋】カヤウ 人の住居する建物、家。
 【家計】カケイ 一家のくらしむき。
 【家政】カセイ 一家内の用務及び經濟。
 【家財】カサイ 一家の財産。「の簡條書」
 【家訓】カケン 家庭のをしへ、家訓、又その親族にて其家に在る者及び其の配偶者
 【家乘】カゼヤ 家の記録、その家の歴史。
 【家畜】カチウ 人家に飼ふ獸類。
 【家産】カサン 家財に同じ、一家の財産。
 【家集】カジュ 一人の詩歌文章などを集む
 【家僕】カボク 家に召使ふ男、下男。
 【家國】カコク 故郷に同じ。「る者」
 【家從】カジュウ 華族の家にて雜事に従事す
 【家婢】カヒ 女中、下女。「て家計」
 【家道】カダウ ①一家としての作法、をき
 【家業】カゲウ ①其家のなりあひ、商賣。
 【家禽】カケン 家に飼ふべき鳥類。

【家督】カトク ①相續する家のあとめ②戸主としての權利義務及び前戸主の總ての權利と義務。
 【家傳】カデン ①其の家の事蹟を書き遺せる記録、家の傳記②その家のつたへ。
 【家塾】カジュク 私人の經營する塾。
 【家廟】カベウ 家の祖先のたまや。
 【家憲】カケン 一家のおきて、家規、家典。
 【家鴨】カワウ 家禽の一、あひる。
 【家學】カガク 己が家に傳來の學問。
 【家寶】カホウ 一家傳來の寶物。「仕へる者」
 【家來】ケライ ①貴人の召使②一般に主に
 【家元】イヘト 生花・茶の湯・音曲などの流派をぬけ出る。「儀の本家」
 【家出】イヘチ 家に初めから附いてゐる者
 【家附】イヘツキ 家に初めから附いてゐる者
 【家持】イヘモチ ①家作を持てる人②くらしむきのやりかた、家計の持ちかた。
 【家柄】イヘガツ ①家すぢ、家の格式②貴い家すぢ、名門、名家、門閥。
 【家賃】ヤチン 家の賃賃、たなちん。
 【家長權】カチヤウケン 戸主の權利。
 【家政婦】カセイフ 一時的に家庭に雇はれて雜用をなす職業婦人。
 【家宅搜索】カチヤウサウク 被疑者又は證據物件を發見する爲め行ふ家宅内の處分。
 【家庭小説】カライセウゼツ 日本在來の因襲、

倫理・道德等を主として書きたる小説。
 【家庭教育】カライケウイク 家庭にて行ふ子女のしつけ、主として主婦により行ふ。
 【家庭教師】カライケウシ 家庭にて子女を教育する爲めに雇入れる教師。「の衛生」
 【家庭衛生】カライエイセイ 家庭に於ける日常生活に於ける衛生。
 【家族制度】カザクセイド 家族を國家社會の單位とする制度にて家長が其家族を代表して權利義務を行ふもの。
 【家常茶飯】カヂヤウサパン 極めて普通な事、平凡な事などの意。
 【家督相續】カトクサウゾク 戸主が戸主權を喪失した場合に家督相續人が戸主に屬した一切の權利義務を繼承すること。
 【家宅侵入罪】カチヤウシユライ 妄りに人の住居する邸宅又は人の看守する建造物・艦船・皇居其他に入り又は適法に入りたる後要求を受けて退去しない犯罪。
 寒家カン 民家ミン 公家コウ 外家ゴウイ
 王家ワウ 世家セイ 大家ダイ 夫家フ
 故家コ 道家ダウ 名家メイ 法家フ
 權家ケン 小家セウ 田家テン 官家クワン
 宅家チヤク 皇家クワウ 天家テン 邦家ホウ
 國家コク 豪家コウ 兵家ヘイ 百家ヒヤク
 婦家フ 出家ケツ 勳家クン 貴家キ

【宸】漢吳 ①奥深き室、奥の間②御所③天子の御事に冠して用ふ④のき(軒)亦そら(虚空)
 【宸念】レンネン 帝王のおもひ、おほみ心。
 【宸恩】レンオン 天子の御恩、天恩、皇恩。
 【宸筆】レンヒツ 天子のかゝれたるもの。
 【宸翰】レンカン 天皇のかゝれた御書翰。
 【宸慮】レンリョ 宸念に同じ。
 【宸襟】レンキン 大御心、聖慮。
 【宸隣】レンリン 天子のおさばき。

【容受】ヨウジュ ①受け入る②度量大にして能く人の言を用ゐること。
 【容姿】ヨウシ すがた、かたち、なりふり。
 【容赦】ヨウシャ 罪又は過失をゆるす④注⑤容捨と書くは誤り。
 【容喙】ヨウグヱ ①容喙と書くは誤り。
 【容量】ヨウリヤウ かさ、内容の分量。
 【容態】ヨウタイ ①容子、なりかたち②病狀。
 【容顏】ヨウガン かほかたち、かほいろ。
 【容認】ヨウニン みとめゆるす。
 【容儀】ヨウギ 容貌の禮儀にかなへる貌。
 【容貌】ヨウボウ かほつき、みめかたち。
 【容積】ヨウセキ 物のかさ、大きさ。
 【容器】ヨウキ 總て物を入れるもの。
 【容體】ヨウタイ 病氣の様子、病狀。
 軍容グン 豊容ヨウ 聲容セイ 婉容オン
 婦容フ 儀容ギ 聖容セイ 喜容キ
 禮容レイ 風容フウ 壯容ソウ 華容カワ
 苟容コウ 威容イ 寛容クワン 包容ハウ

【宿】漢吳 シユク 一部音 スク
 ①やどる(泊)②とまる(止)③やどや、はたごや(やすんず(安)④星の座(肅)に同じ、つよしむ(ま)まる(守)⑤ふるし(ひ)さし(久)⑥い(ま)し(む)は(や)し(夙)⑦老練なること⑧老人(夙)訓しゆ(たてば、馬つぎば)
 【宿世】シユクセイ 前世の約束、さきの世。
 【宿因】シユクイン 前世の因縁。
 【宿名】シユクメイ 前より聞えし名。
 【宿老】シユクラウ ①故事に通ずる老人②家老の重なる人③思慮ふかく經驗に富める人のこと。
 【宿忌】シユクキ 忌日の前夜の佛事、たいや。
 【宿志】シユクシ かねての心ざし④前から
 【宿坊】シユクボウ 寺中の宿所。「の望み」
 【宿雨】シユクウ 降り續きたる雨。「る運命」
 【宿命】シユクメイ その人の前世より定まれ
 【宿泊】シユクハク 宿を定めてとまる。
 【宿所】シユクショ ①住所②やど。
 【宿昔】シユクセキ むかしよりの意。
 【宿舎】シユクシャ やどや、はたごや、泊る所
 【宿料】シユクレイ やどちん、宿泊料。
 【宿直】シユクチキ とまりばん、とのゐ。
 【宿怨】シユクオン 前からの怨、かたての怨。

【案】五二八頁の案を見よ。
 【窃】七六三頁の窃を見よ。

【宿根】レクコン 枝葉は枯れても根が土中に生きのこり翌年再び芽を出すこと。
 【宿望】レクマウ かねての希望。
 【宿患】レククワン ①持病、ながわづらひ。古くよりつきまとへるわざはひ。
 【宿將】レクシヨウ 老練にして勳功ある大將。
 【宿場】シユタバ 街道の旅人を宿し又は荷物運搬の人夫や馬をつぎたてる設備のある所、宿驛。
 【宿業】レクゴフ 佛語、過去の報ひ、因果。
 【宿痾】レクコ 宿患の①に同じ。
 【宿醉】レククスキ 酒の酔の翌日にのこりしこと、ふつかよひ。
 【宿弊】レククヘイ ふるくよりの弊害。
 【宿題】シユクタイ ①前々より課し置く問題。②永年解決せざる事件。
 【宿衛】シユクエイ とのゐ、とまりばん。
 【宿縁】シユクエン 前世の因縁。陣取れる所。
 【宿營】シユクエイ ①宿り居る營所。②軍隊の宿営。
 【宿曜】シユクエウ 二十八宿と九曜、又それによつて占ふ術。
 【宿願】シユクガン 上代に臣下を親して呼んだ敬稱。①つて自家に歸ること。
 【宿下】シユクカ 奉公人がしばし暇をもらふこと。
 【宿引】シユクキ 宿屋の客引。
 【宿六】シユクロク 亭主を卑しめていふ語。

【宿屋】シユクヤ はたごや、旅館、旅舎。
 【宿命論】シユクメイロン 人の運命は前世より定りて未來に及ぶものとの説。
 【宿駕籠】シユクカゴ 駕籠の一つで驛路に備へおき駕籠の用意なき旅人の雇用に供せし粗製のもの、雲助駕籠ともいふ。
 【棲宿】シユク 遠宿。
 【寓宿】シユク 者宿。
 【信宿】シユク 再宿。
 【草宿】シユク 老宿。
 【寄宿】シユク 寄宿。
 【寂】シユク 漢セキ。①さびづか、ひっそり。佛語にて涅槃、人の死。
 【寂滅】シユクメツ ①物が自然にこの世から消滅するさま。②人の死ぬこと。
 【寂定】シユクテイ 僧の死をいふ。
 【寂靜】シユクジヨウ 俗世間をはなれて靜かなるさま。②妄念がない。
 【寂然】シユクゼン ①もの淋しき貌。②不動の貌。
 【寂寞】シユクバク ①人なくして靜かなり。②淋しくしづかなるさま。③寂莫・寂漠と。
 【寂寥】シユクリョウ 前に同じ。①書くは誤り。
 【寂光淨土】シユククワウジヨウ 佛の住むとい



(籠駕宿)

ふ所、極樂淨土、寂光土。
 【寄】シユク 漢吳。①よす、まかす(委)②おくる、やる(遣)③よる、もたれかゝる(托)④やど、やどり(宿)⑤かたむく(傾)⑥つくす(盡)⑦國訓よる(集まる義)加ふ。
 【同訓異義】よる。
 【仗】はすがりよる義。
 【依】はよりそひて離れぬ意。
 【倚】は物にもたれつく意。
 【凭】は憑に同じ。
 【寄】はよりてつく義、寄託・寄寓。
 【憑】はもたれかゝる意。
 【據】は物のより所とする義。
 【藉】はたよりて力にする義。
 【頼】はたのみとしてよる義。
 【寄生】シユクシヨウ ①動植物が自ら獨立して生存する能はずして他の動植物體に寄りそれより養分を受けて生存すること。②他人によりて生存する者。
 【寄付】シユクフ 人に物を與へる、又たのむ。
 【寄言】シユクゴン ①ことづけをする。②言を寄

せて人を感奮せしむ。②寄語に同じ。
 【寄身】シユクシン からだをまかす。
 【寄食】シユクシヨク 人の食客となる。
 【寄死】シユクシ 寄寓せる人の死ぬこと。
 【寄書】シユクショ ①書状を送る。②新聞雜誌などに寄稿する文章。
 【寄託】シユクタク ①たのむ、たよる。②當事者の一方が或る物件を保管せしむる目的にて之を相手方に預けること。
 【寄附】シユクフツ ①寄付に同じ。②取引所の市場を開始する時間にてその日の相場の第一回のことをいふ、普通午前九時から始まる相場を相場寄附之を略して前寄といひ後場なら後場寄附略して後寄といふ。「居すること」。
 【寄留】シユクリウ 九十日以上本籍地以外に住居すること。
 【寄寓】シユクヨウ ①やどや。②身を寄する所。③他國又は他家に住居すること。
 【寄宿】シユクシュク ①やどる。②かりの住居。寄ること。「して金品を贈る意」。
 【寄進】シユクシン 寄付に同じ、公共の補助と。
 【寄與】シユクヨ よせ與ふ。
 【寄語】シユクゴ 傳言、ことづて。「藏匿する」。
 【寄藏】シユクザウ 人の依頼を受けて或物品を。
 【寄贈】シユクゾウ よせおくる、おくりとよけ

る、おくりつける、おくり與へる。
 【寄人】シユクジン ①宮内省御歌所の職名。御歌所寄人。②平安朝時代に和歌所・記録所におかれた役人。
 【寄手】シユクテ 攻め寄せる敵軍。
 【寄木】シユクキ いろ／＼の木材を寄せてはぎ合はす、又そのもの。
 【寄合】シユクガヒ ①寄り合ふ、集會。②徳川時代の旗下の士にて持高三千石以上一萬石以下の者の稱。
 【寄席】シユクセキ 講談・落語・演藝などを演じて人を寄せ集める所。「鍋で煮る」。
 【寄鍋】シユクネ いろ／＼の物を寄せ集めてやどつて生を保つ植物、水晶蘭の類。②櫛寄生科に屬する一種の寄生植物。
 【寄生根】シユクシヨウケン 他植物體の中に侵入してその養分を吸ふ植物の根。
 【寄生蟲】シユクシヨウチュウ 他生物體にやどりて生存する小蟲。
 【寄居蟹】シユクカニ 蟹の一種、他の空虚の貝殻をかりて棲む故この名がある。
 【投寄】シユク 重寄。浮寄。戎寄。



(根生寄)

託寄。委寄。任寄。朝寄。龍寄。藩寄。親寄。
 【寅】シユ 漢吳。①つゝしむ。②演に。③敬。④演に。⑤二支の第三、午前四時の時刻、東北の間の方角。⑥すゝ(奏)⑦つとむ(勉)。
 【寅夜】シユヤ よふけ、とらのこく。
 【密】シユ 漢。①つまびらか(審)②みつなり、こまやか(細)③ひそか、ひそかに、人知れず(とむ(止)とづ(閉)④ちかづく(近)⑤山の脊⑥しづか(靜)⑦つまびらか(審)。
 【密夫】シユフ まをとこ、姦夫。
 【密生】シユセイ すきまなくはえてゐる。
 【密行】シユコウ 忍びてまはり歩く。
 【密宗】シユシュウ 眞言宗をいふ。
 【密林】シユリン すきまなくこみあつてゐる林、よく繁つてゐる林。
 【密旨】シユシ ひそかに下す命令。
 【密告】シユコウ ひそかに語りつく。
 【密使】シユシ 秘密の使者。
 【密約】シユヤク 秘密な約束、秘密な條約。
 【密造】シユゾウ こつそり造る、秘密の製造。

【密事】ミツコ ヒみつごと、内證ごと。
 【密奏】ミツウ 内々にて申し上ぐ。
 【密計】ミツケイ 秘密のたくらみ。
 【密封】ミツフウ しかと封をするこゝろ。
 【密室】ミツシツ 人の出入を禁じたる部屋。
 【密航】ミツカウ 其筋の許可を受けずして海
 外に渡航すること。「ことのり」
 【密勅】ミツチヨク 特にひみつにて賜はるみ
 【密度】ミツド 物體の單位とする容積中に含
 【密書】ミツショ 秘密の文書。「まるゝ質量」
 【密器】ミツシヨク 物の集り重なる鏡。
 【密教】ミツケウ 眞言宗の別稱。「さま」
 【密接】ミツセツ ①隙間なき鏡②離れがたき
 【密通】ミツツウ 男女が密かに情を通ずると
 【密集】ミツシツ すぎまなく集まる。
 【密語】ミツゴ ひとへにばなし、内證話。
 【密漁】ミツイシ かつそり漁をする、外國の
 領海又は他の漁區へ忍び行つて漁する
 【密談】ミツダン 秘密なはなし。
 【密閉】ミツペイ すぎ間なくしめきる。
 【密著】ミツチャク しかと離れずして著く。
 【密雲】ミツウン 澤山集つた雲。
 【密會】ミツクワイ 人目をしのびて逢ふ。
 【密輸】ミツユ 税關の目をくらまして内密
 にて物品を輸入又は輸出するをいふ。
 【密意】ミツイ ①人に知らさぬ心、人の知

らぬかんがへ。「つものしらせ」
 【密報】ミツバウ ①内しよにてしらす②ひみ
 【密慮】ミツリョ 内密にて思ひはかる。
 【密賣】ミツバイ ①かくれて賣る②許可なく
 【密謀】ミツバウ 密計に同じ。「して賣る」
 【密藏】ミツゾウ かくかくしをさむ。
 【密議】ミツギ ひみつの相談。
 【密通】ミツツウ 寄り近づくこと、接近。
 【密航婦】ミツカウフ 密かに外國に渡航する
 【密淫賣】ミツインバイ ひとそかに色を賣る、法
 禁を犯して淫をひさぐ。
 【密室監禁】ミツシツカンキン 他人を一室内にと
 ちこめてその自由を束縛すること。
 親密ミツシツ 神密ミツシツ 樞密ミツシツ
 近密ミツシツ 緊密ミツシツ 綿密ミツシツ 微密ミツシツ
 陰密ミツシツ 周密ミツシツ 疎密ミツシツ 慎密ミツシツ
 繁密ミツシツ 詳密ミツシツ 碎密ミツシツ 網密ミツシツ
 【寇】コウ 漢 コウ ①あだ
 取②外敵の雄③おほし
 【寇掠】コウリョク 侵入してかすむ。
 【寇敵】コウテキ 内地に攻めよせし外國の敵
 【寇賊】コウゾク 瓦民を殺害し財物を掠め取
 【寇讎】コウウチ かたき、あだ。「る悪もの」
 司寇ミツコ 秦寇ミツコ 窮寇ミツコ 侵寇ミツコ

【富】フ 漢 フ
 ①とむ(豊かなること)とます②とみ
 (財産)③あつし(厚)④みつ(満)⑤そな
 はる(備)⑥ゆたか⑦おほし(多)
 【富力】フリク ①ゆたかとみの力、とみ。
 【富岳】フウガク 富士山の雅稱。
 【富有】フイウ かねもち、ゆたか。
 【富裕】フユ 富みて財貨の多きをいふ。
 【富貴】フクキ ①財産多く位高きこと、富
 み且つ貴いこと②とみ。
 【富國】フクコク 富んだ國、又國を富ます。
 【富強】フクキョウ 國が富んで且兵力が強いと
 【富源】フゲン ①富を生むもと②生産材料
 や生産の原動力のこと。「がねもち」
 【富豪】フガウ すぐれてとみたる人、おほ

【富饒】フクニホウ 金錢財物に富みてゆたか
 【富】フ 漢 フ
 【富札】フシツ ①とみくじに使ふ②だ。
 【富籤】フシケン 番號を記した札を多數に
 賣り出し其番號中の或ものを當りくじ
 として賭け金を與へるもの、彩票。
 【富士山】フジサン 別に
 不二山・不盡山・芙
 蓉峰等の異名多し
 駿河甲斐に跨る海
 外無双の名嶽にし
 て四時白雪を戴い
 て居る。
 【富國強兵】フクニキヤウイヘ 富國は富みて民
 力ゆたか、強兵は兵備よくととのふと
 と、天下治平のさま。
 饒富フクニホウ 豊富フクニホウ 豪富フクニホウ 巨富フクニホウ
 宏富フクニホウ 繁富フクニホウ 暴富フクニホウ 股富フクニホウ



(山士富)

【寐】ミ 漢 ミ ①いぬ(寝)
 ②ふす(臥)ね
 【同訓異義】いぬる 寐・寝・眠等の用法
 は三〇五頁の寝を見よ。
 【寐汗】ミナセ 睡眠中に出るあせ、盗汗。
 【寐耳】ミミ 寐てるる時、少しも知らぬ

【寒】カン 漢 カン ①さむし、
 ②さむざら③ところてん草
 を晒して製したるもの。
 【寒心】カンシン ①寒氣の爲め心のふるふる
 こと②ぞつとする貌。
 【寒女】カンニョ ①しづのめ、貧しき女。
 【寒正】カンセイ 直言して正しきをいふ。
 【寒中】カンチュウ ①大寒と小寒との期間②冬
 の寒き間。



(寒葵)

【寒月】カンゲツ 冬の月、寒い夜の月。
 【寒行】カンギョウ 寒三十日間にする苦行。
 【寒冷】カンレイ ①さむさ、つめたさ。
 【寒空】カンクウ さむそら、冬の空。
 【寒夜】カンヤ 寒い夜、冬の夜。
 【寒素】カンソ 身分低くいやしきをいふ。
 【寒威】カンキ ①はげしき寒さ。
 【寒食】カンシヨク 陰曆にて冬至より百五日
 目に當る日、昔支那にてこの日煮焚せ
 ずして冷食する習慣あり。
 【寒國】カンコク 寒氣のきびしき土地。
 【寒葵】カンアオイ 馬兜
 料の多年生本で根
 は漢法の薬用とす
 【寒氣】カンキ さむさ。
 【寒烈】カンレツ 寒氣の
 はげしきをいふ。
 【寒風】カンフウ 冬のつめたき風。
 【寒流】カンリウ 地球の兩極地方より赤道地
 方に向つて流るゝ寒冷なる海流。
 【寒温】カンオン さむさとあたゝかさ。
 【寒帯】カンタイ 地球の南北兩極より緯線各
 二十三度二十八分の間内にある最も寒
 【寒暑】カンシヨ 寒さと暑さ。「き地域」
 【寒露】カンロ ①冷かなつゆ②廿四氣の一
 十月八九日頃より二十四日迄の季節。

【寒鯛】カシダイ 棘鱸類の魚で體は楕圓形をなし頭上を起し、鱗は太く全體紅色の條線あり、脊鰭及臀鰭は黄色を呈し體長二尺に達し我國の近海に産す。



(鯛 寒)

【寒天版】カシダイ 寒天を原料として造りたる一種の印刷版。

【寒念佛】カシネンブツ 寒中に念佛して佛にいまそぎをする事、冬の夜にこりを取って神佛にいのること。

【寒山拾得】カシゲイ 氣温の寒暖の度をはかるの化身なりと傳へられし二人の名僧。

【寒】 陰寒カイン 輕寒カイン 微寒カイン 薄寒カイン 饑寒カイン 互寒カイン 盛寒カイン 隆寒カイン 凄寒カイン 凝寒カイン 猛寒カイン 峭寒カイン 嚴寒カイン 酷寒カイン 大寒カイン 小寒カイン

【寓】 漢吳 慣用音 かりずまひ(假居) 〇よす(寄) 〇つけ(屬) 〇やどす、居る 〇かこつけ(假託) 〇鳥の名 〇猿の類

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寓言】 グウゲン 他の事にかこつけていふ。

【寓居】 グウキョ かりのすまひ、寓所に同じ。

【寓話】 グウワ たとへばなし。

【寓意】 グウイ 他のことに我が心をかこつけて知らしめること。

【寓懷】 グウクワイ 思ひ寄せる。

【寓意小説】 グウイセウセツ 題材を他にとりて道徳上の教訓をふくめた小説。

【寔】 漢 ショク 〇まことに(實) 〇吳 ジキ これ(是) 〇たゞし

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)



(寔 寔)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

【寔】 漢 〇みる 〇あきらか(明) 〇あきらか(審) 〇まびらか(審) 〇まびらか(審) 〇あきらか(明) 〇あきらか(審)

ろし(廣)心が大きい、こせつかぬ

【同訓異義】ひろし 寛・博・廣其他の用法は三五五頁の廣を見よ。

【同訓異義】ゆたか 寛・裕・豊其他の用法は九八四頁の豊を見よ。

【寛大】クワンダイ おほやう、心ひろくこせつかぬさま。

【寛仁】クワンジン 心ひろくして人の罪をゆるす、廣くあはれむ。

【寛厚】クワンコウ 心が廣く深切。「ある。」

【寛恕】クワンジョ 度量が大でもひやりが心ひろくしてゆるす鏡。

【寛容】クワンヨウ 心ひろくしてゆるす鏡。

【寛嚴】クワンケン ゆるやかときびしき。

寮

漢吳 ①すみか ②役所、僧舎③つかさざびと、やくにん(官吏)又同役

【寮人】レウジン ①人の娘の尊稱②人の妻の敬稱。

【寮生】レウセイ 寄宿舎に居る生徒。

【寮友】レウイウ 僚友に同じ、同級、同僚。

【寮舎】レウシヤ 寄宿舎。

窮

七六四頁の窮を見よ。

寒

九四一頁の寒を見よ。

十三畫

【寔】漢 クワン ①天子の治むる地 ②吳ゲン 内宮のまはりの垣 ③あがた ④廣い場所、又天地、天下

【寔海】クワンカイ 四方を海で取圍む意。

【憲】四〇八頁の憲を見よ。

賽

九七四頁の賽を見よ。

寒

一〇〇〇頁の寒を見よ。

寒

一〇一一頁の寒を見よ。

十六畫

寵

漢 チョウ ①いつ(愛)めぐむ、めぐみ②たふとぶ③おもふ④君主に愛せられる人、又君主の愛

【寵子】チヨウシ 愛する子、氣に入りの子。

【寵用】チヨウヨウ 氣に入つて用ひられる。

【寵幸】チヨウコウ 寵愛せらるること。

【寵兒】チヨウジ 特別に愛せらるる者。

【寵命】チヨウメイ 慈しみある思召し、恩命。

【寵恩】チヨウオン 特別の寵愛を受くる。

【寵遇】チヨウウ かはゆがる、いつくしみ

【寵姫】チヨウキ 氣に入りの女。て待遇する



(章冠寶)

【寶冠章】ハウクワンシヤウ 國家に功勞ある婦人に賜はる勳章で一等より八等まである。

貨寶ハクワ 大寶ダイ 珍寶チン

佳寶カハク 遺寶イ 秘寶ヒ 家寶カ

重寶チヨウハク 傳國寶デンコク

【騫】一一六〇頁の騫を見よ。

寸部

寸

漢 ソン ①尺度の十分の一②すこし、わづか、③おもひはかる(付)

【寸寸】スンスン ①ずた／＼に②少しづつ③

【寸土】スンツ ①わづかの土地。「一寸毎に。」

【寸心】スンシン ①少しの志、自分の志の謙稱。

【寸尺】スンシヤク ①寸法の稱②僅少の義。

【寸田】スンテン ①眉と眉の間の稱。

【寸志】スンシ ①僅かの志、少しばかりの志。

【寸法】スンハフ ①長さのほど、ながさ。

寶

漢 ハウ ①たから、たからと

【寶】ハク ①おもんず(重)②とみ③たつとぶ、大切にす④天子のこにいふ語

【寶刀】ハクダウ 寶物とせる刀。

【寶玉】ハクギョク 珍重なる玉、金剛石の類。

【寶石】ハクセキ 貴重なる鑽石、たま。

【寶引】ハクビキ 多人數に各一本宛の絲を引かせ其中の一本を勝と定める遊び。

【寶生】ハクシヤウ 能樂の一派、寶生流。

【寶位】ハクイ 寶祥に同じ、天子の御位。

【寶冠】ハククワン 天子が春の儀式に召される冠、又寶玉にてかざりしかんむり。

【寸地】スンチ すこしの土地、尺寸地。

【寸刻】スンコク すこしの間、わづかの時。

【寸陰】スンイン わづかの時間。

【寸閑】スンカン 少しのひま、僅かのひま。

【寸紙】スンシ カみぎれ、短かき手紙。

【寸楮】スンシヤク 寸紙に同じ。

【寸裂】スンレツ きりきり、ずだ／＼にす。

【寸時】スンジ 寸刻に同じ。

【寸毫】スンガウ わづか、いさ／＼か、すこし。

【寸暇】スンカ 寸陰に同じ。

【寸碧】スンヒキ 雲間のあをぞら。

【寸隙】スンキキ わづかばかりのひま。

【寸謝】スンシャ カたばかりの御禮。

【寸斷】スンタン 寸裂に同じ

寸断々々と書くは誤り。

【寸簡】スンカン 短かき手紙、寸楮。

【寸腹】スンブク 前に同じ。

【寸鐵】スンテツ ちよつとした武器。

【寸善尺慶】スンゼンシヤクマ 善事少くして悪事の多き意、一善十惡。

一寸チヨウフツト寸シヤク 徑寸スケ 分寸フン

方寸ハウ 火寸スケ 膚寸フン

二畫

【付】五九頁の付を見よ。

【寶祥】ハウシヤウ 天子のみくらむ。

【寶珠】ハウシユ ①たから ②の珠③ほろしゆ

の玉④寶珠の玉」は頭がとがり火焰形のある玉、又紋所の名。

【寶座】ハウザ 天子の御座所、御所。

【寶庫】ハウコ ①たからを入れる倉②産物の澤山出る土地の稱。

【寶塔】ハウタフ 佛塔、佛堂、卒都婆。

【寶算】ハウサン 天皇の御年、聖壽。

【寶劍】ハウケン 寶刀に同じ、貴重なる劍。

【寶輦】ハウレン 天子の御のりもの。

【寶鑑】ハウケン よいかぢみ。

【寶藏】ハウザウ 寶庫に同じ。

【寶運】ハウジン 貴重なる印章、御璽。

【寶船】タカラフネ ①七福神や寶づくしなどを船にのせたさま

を繪にかいた船のこと②寶船の繪の上

に一種の歌をかきそへたもので元

日又は二日の夜枕の下に敷きよい夢を結び悪い夢は川へ

流すまじなひとするもの。



(船寶)

其の務めにあ
る。①一つの業につとめる。②或
種の事業を一般に禁じ政府に於て經
營すること例へば煙草の專賣の如し。

- 【專管】センクワン 一手にて支配する。
- 【專横】センワウ さまゝ、ほしいまま。
- 【專賣】センバイ ①政府にて行ふ一手販賣。②品物を一手にて賣ること。
- 【專斷】センダン ひとりにて勝手に處理す。
- 【專寵】センチュウ 寵愛を一人にて占む。
- 【專權】センケン 權力を勝手にふりまはす。
- 【專屬】センズク 或物にのみつき従ふ。
- 【專制國】センセイコク 專制政治の行はれる國。
- 【專修科】センシウコク 専門に修める學科。
- 【專制政體】センセイセイタイ 君主一人の考へで政治を行ふやりかた。
- 【專賣特許】センバイトクキョ 發明人の願により官廳より其人のみに發賣權を許すこと。
- 【專務取締役】センムトリスリヤク 銀行・會社等の取締役中、専ら其業務を支配する機關、又その人。
- 【專專】センセン 獨專セン 貞專タイ 精專セイ

尉

漢 ウツ 吳 ヲチ 漢吳キ

①官の名。②やすんず(安)③おさふ(按)④うかじふ(伺)⑤ひのし(鬪)⑥刑獄を司る役人。⑦國訓じよう(おきな、衛門府と兵衛府の佐の次官)。

九畫

尊

漢 吳 ①たふと

とし(貴)②うやまふ(敬)重んず③さかだる(酒樽)④たかし(高)たかくす⑤國訓みこと(命)神又は貴人の敬稱。

- 【同訓異義】 たふと
- 【上】 は尊んで上座に置く意。
- 【尊】 は卑の反對でたふとび敬ぶの義は上に同じ。
- 【崇】 は高貴の人を貴び仰ぐ意。
- 【貴】 は賤の反對で貴き意。
- 【尊大】 ソンダイ おほいなる貌、高ぶる。
- 【尊王】 ソンワウ 天子を尊びうやまふ。
- 【尊公】 ソンコウ ①他人の父の敬稱。②他人の尊名。③ソノイ あなたのお名まへ。「敬稱」。
- 【尊君】 ソンケン 尊公に同じ。
- 【尊來】 ソンライ 他人の來るを敬していふ。
- 【尊者】 ソンジャ ①目上の人。②學徳の備はつた佛弟子、又は僧侶の敬稱。③昔大臣の大變の時正座にすわる人の稱。
- 【尊姐】 ソンシ 樽姐に作る。④尊は酒を容れる樽、姐は性を載する器。⑤公の宴會又は國際上の會目。⑥姐折衝。
- 【尊重】 ソンチュウ たつとび重んず。
- 【尊崇】 ソンソウ 尊敬に同じ、あがめ尊ぶ。
- 【尊卑】 ソンヒ 身分の尊き者と卑しき者。
- 【尊堂】 ソンダウ 人の母の敬稱。
- 【尊貴】 ソンキ たつときこと、高貴。
- 【尊敬】 ソンケイ たふとびうやまふ。
- 【尊號】 ソンガウ 尊びて呼ぶ名。
- 【尊影】 ソンエイ 尊きかけ。②御尊影。
- 【尊稱】 ソンショウ 他人の名を貴び呼ぶ。
- 【尊攘】 ソンゼウ 王室を尊び夷狄をはらふ。
- 【尊慮】 ソンリョ 他人の心づかひを敬稱す。
- 【尊像】 ソンゾウ ①神佛の像。②人の像の敬語。
- 【尊顏】 ソンガン 他人の顔の敬稱。
- 【尊嚴】 ソンゲン 嚴かにしてたつとき貌。
- 【尊屬】 ソンゾク 直系にして父母と同列以上の血族、即ち祖父母・兄・姉・等の類。
- 【尊大人】 ソンダイジン 人の父を敬稱す。
- 【尊王攘夷】 ソンワウゼウイ 王室を尊び朝權を回復し外國のゑびすを逐ひ拂ふの意。
- 【尊嚴無比】 ソンゲンヒ たつとびとて嚴かなこ

とが外にたぐひがない。

- 至尊 ソン 敬尊ソク 遠尊ソク 卑尊ソク
- 極尊ソク 世尊ソク 三尊ソク 自尊ソク
- 獨尊ソク 威尊ソク 家尊ソク 推尊ソク

尋

①たづぬ(索)②もとむ(求)③たひす(正)きゝたひす④おとづる(訪)⑤辯に通ず、あたゝむ(煖)⑥なみ(並)⑦つね(常)なみ⑧ついで(間もなく)⑨つづ(繼)⑩もちふ(用)⑪ながし(長)⑫長さの名八尺(ひろ)⑬そのうち、おのづから

- 【同訓異義】 たづぬ
- 【原】 は事の根原を尋ねるに用ふ。
- 【尋】 は筋道に従つて尋ね求むるの義
- 【釋】 は引出すやうにして筋道をたづね求むる義。
- 【討】 は吟味してさぐりだたづぬる義
- 【尋問】 ジンモン たづねたひす。
- 【尋常】 ジンジャウ ①八尺と一丈六尺の長さ
- 【尋】 は長さのなみ、普通。
- 【尋釋】 ジンシキ 事がらの意味をだん／＼たづねきはめること。
- 【訪尋】 ジンソク 參尋ソク 究尋ソク
- 【精尋】 セイジン 思尋ソク 探尋ソク 登尋ソク

博

千尋セン 萬尋マン 招尋セウ 溫尋ワン

十畫

對

漢 タイ 吳 テ

①こたふ(答)こたへ②いらふ(應)むくゆ(酬)③むきあふ(向合)④あはす(配)⑤あたる(當)⑥ならぶ(列)⑦つゐ(二個そろひし物)⑧つれあひ(配偶)⑨ひとし(等)⑩あひて(敵手)

- 【對手】 タイシュ あひて、敵手、よきあひて。
- 【對比】 タイヒ てらし合す、ならべて比ぶ。
- 【對立】 タイリツ ①並びたつ。②向合つてたつ。
- 【對外】 タイグワイ 外部又は外國に對すると
- 【對生】 タウセイ 二枚の葉が向ひ合ひて幹につく植物、互生・輪生の對。「面の時局」。
- 【對局】 タイキョウ 差向ひにて碁を闘む、當
- 【對決】 タイケツ 法廷にて原告被告の双方をむかひ合せて審問すること。
- 【對坐】 タイザ 向合ひて坐す、さしむかひ。
- 【對抗】 タイカウ むかふ、はむかふ、てむかふ
- 【對向】 タイカウ 向合ひて坐す、さしむかひ。
- 【對岸】 タイガン 向ひがはの岸、川むかう。
- 【對峙】 タイヂ 向ひて並び立つさま。
- 【對屋】 タイノヤ むかし寢殿(おもて座敷)の前方左右に相對せしめて作つた離れ家
- 【對面】 タイメン 顔をあはせる、人に會ふこと、面會。
- 【對陣】 タイジン 敵味方が向ひ合つて陣取る、
- 【對等】 タイトウ 上下貴賤の差別なし、同等。
- 【對策】 タイサク 或問題又は事件に對するはかりごと。②對策決定す。
- 【對照】 タイセウ 彼と此をてらし合すこと、くらべる、引き合せること。
- 【對話】 タイワ 話し向ひの話、會話。
- 【對句】 タイク 語格又は意義の適應したる句を相對せしむること。
- 【對質】 タイシツ 法廷に於て訴訟關係者を對面させて質疑せしむること。
- 【對審】 タイシン 或事件を裁判するに原被兩者を出廷せしめて審理すること。
- 【對外硬】 タイグワイカウ 外國に對し強硬なる外交政策を行ふこと。
- 【對頂角】 タイテイカク 二直線が相交りて成せる角の中の相對するもの(數學用語)
- 【對角線】 タイカクセン 多角形に於て其の相對接せざる二つの角の頂點を結ぶ直線(數學用語)
- 【對等國】 タイトウコク 優劣のない國。
- 【對照表】 タイセウヘウ 複雑せる事實を二以上

の部類下に蒐集して各自の性質數量等を比較するを對照と云ひ之を表はす所の書面を對照表といふ。

【對人信用】タイシレトキヨウ 物件によらず其人に對する信用によりて取引をすること

【對物信用】タイツラシヨウ 債務者其他第三者の財産を基礎とする信用にて質權又は抵當權に據る信用の如し。

【對症療法】タイシヤワレウフ 病源は第二として唯其病狀に對して治療を加へる療法

【對等主義】タイトウシユイ 社會政策の要諦を言ひ現はした語で資本家がその企業によつて得る収益と勞働者が取得する勞働報酬とを適當なる方法と割合を以て分配せんとする主義。

【對等條約】タイトウヂョウヤク 雙方に於て同等の權利ある條約のこと。

一 對ツキ 反對ツキ 相對ツキ 絶對ツキ

【壽】 二四五頁の壽を見よ。

【奪】 二六六頁の奪を見よ。

十三畫

【導】 漢ダウ ①みち 吳ドウ びく、

案内す①ひらく(開)とほす②をさむ③けすちたて(櫛の一種)④人を教へる者

【導引】ダウイン ①大氣を體內にみちびき入るゝこと、昔の養生法の一にして今の深呼吸法②みちびく③案内する。

【導者】ダウシヤ 手引する人、案内者。

【導師】ダウシ 導師に作る④葬式の時佛儀の主となる僧⑤衆生を佛の道に導く僧

【導火線】ダウカセン ①口火に用ゐる線②事を起すいとぐち、發端。

十五畫

【爵】 六五一頁の爵を見よ。

十八畫

【爵】 一一八七頁の爵を見よ。

二十三畫

【爵】 一一六九頁の爵を見よ。

小部

【小】 漢吳 ①ちひさし、

②ほそし(細)せまし③みぢかし(短)ひくし④こまかなり(わかし)⑤よわし(弱)⑥いやし、いやしき者⑦心ねぢけたる人⑧めかけ(妾)⑨小の月⑩輕んず

【小人】セウジン ①心の曲りし者②身分卑しき者③度量狭き者④身長短かき人。

【小子】セウシ ①こども②自分を謙稱す。

【小引】セウイン ざつとしたるはしがき。

【小心】セウシン ①小さき心②行きとどく心

【小水】セウスイ 小便、いばり。

【小生】セウセイ ①自分の謙稱②わかもの。

【小用】セウヨウ ①わづかな用事②少しのつひえ③小便、こよう、小水。

【小弟】セウテイ ①我が弟の謙稱、又弟が兄に對する自稱②自己の卑稱。

【小成】セウセイ ①少しばかりの出來上り②少しばかりの事を成しとぐ。

【小序】セウジ 書物の各篇のはしがき。

【小品】セウヒン 自然の情景又は感想を描寫したる短文又は繪畫。「引用す。

【小兒】セウニ ①こども②劣等者の地位に

【小使】セウシ 身分の低いもの、少祿の人。小事に使役するしもべ。

【小我】セウガ 大我に對し自分といふ小な

る心、小なる自我。

【小事】セウジ 大事の對、ちひさき事柄。

【小豆】セウマ 豆類の一、あづき。

【小計】セウケイ こじめの計算。

【小波】セウハ 靜かなる波、さざなみ。

【小恙】セウヤウ 一寸した病氣、かりそめの

【小屋】セウウツ 小なき家、こや。わづらひ。

【小勇】セウユウ 血氣にはやる勇、匹夫の勇。

【小官】セウカン ①官吏の自稱②地位低き官

【小姑】セウコ 夫の姉妹、こじうとめ。

【小姓】セウセイ ①身分の輕いもの②むすめ

③貴人の側近くつかへる少女。

【小乘】セウジョウ 大乘の對、佛法の教義の

卑俗にして解し易きもの。

【小宴】セウエン 小なき酒宴、粗末な酒宴。

【小閑】セウカン 少しのひま。

【小異】セウイ ①少しのちがひ②一部分の

み異なること③大同小異。

【小康】セウカウ 暫くの間靜穩なりとの意。

【小童】セウドウ ①こども②貴人の妻の自稱

【小集】セウシュ 小なきよりあひ。

【小腦】セウノウ 脚髓の後部の一區劃、大腦

の下・延髓の上において、隨意筋のはたらきを調節する機關。

【小經】セウケイ 卷數の少ない經書・易・尙書

春秋公羊傳・穀梁傳等の稱。

【小緑】セウロク わづかなちぎやう。「の花。

【小輪】セウリン 小さい輪、小さい草花など

【小銃】セウジュウ てつぱう、小さい銃。

【小篆】セウセン 漢字書體の名。

【小暑】セウショ 季節の稱、七月七日頃。

【小寒】セウカン 季節の名、一月五日頃。

【小傳】セウデン 一部の事蹟を記した傳記、

人の履歴のあらましを書いたもの。

【小盡】セウジン 陰曆にて廿九日ではる月

【小照】セウショウ 寫眞又は肖像畫の別名。

【小節】セウセツ ①元日の節會と踏歌の節會

②些少なる義理。「るもの、又小名辭。

【小辭】セウジ 三段論中法斷案の主辭とな

【小腸】セウチャウ 腸の一部分。「一日頃。

【小滿】セウマン 二十四氣の一、陰曆五月廿

【小暑】セウショウ 夫の兄弟、こじうと。

【小説】セウセツ 想像して作つた物語。「數。

【小數】セウスウ ①一より小なる數②少ない

【小膽】セウタン 氣のちいさきこと、小心。

【小學】セウガク ①子供を教へる所、又其學

問②文字の形象・音韻等を研究する學。

【小口】セウコチ ①こわけ、小部門②はし、い

とぐち、端緒③きりくち、斷面。

【小作】セウサク 賃料を支拂ひて他人の土地

を耕作すること。

【小春】セウハル 陰曆十月の異名。

【小判】セウバン ①小

判金の略稱②慶

長小判③判の小

形のもの。

【小僧】セウソウ 小店員。

【小袖】セウソデ 普通の袖の衣服又絹の綿入。

【小唄】セウウタ 三味線に合はせてうたふ短

いうた、はうた、小歌。

【小賣】セウバイ 物を少しづつわけてうる。

【小潮】セウシホ 上弦・下弦の時の潮(新月、

漢月の時を大潮といふ對)。

【小雀】セウソク 燕雀類の

保護鳥、體は四十雀

に類似し頭と翼と尾

は黒く脊と腹は白い

美聲を發して啼き夏

は山に、秋食を求め

て平地へ下る。「ぬきだしたるもの。

【小謠】セウラウ 論曲の文句の主要の部分

【小夜】セウヤ ①よる。

【小丈夫】セウヂヤウ ①心のいやしい男②春

綿密に議論したる漢文體。

【小兒科】セウニカウ 主として子供の病氣を

治療する醫術、又その者。「る文章。

【小品文】セウヒン 簡單にして眞を穿ちた



(判 小)



(雀 小)

〔尻馬〕シロウマ 人の後につきまはつて行動すること。
 〔尻鞘〕シロウマ 獸の皮にて袋をつくり太刀の鞘にかぶせて雨露を防ぐもの。



(鞘 尻)

〔三畫〕 七一四頁の盡を見よ。

四畫

〔尾〕 漢 ビイを、しり、吳 ミしつぽす(末)しりへ、をはり(終)さき(先端)そこ(二)交接すること、つるむ(二)つ(後より行、)星の名、又星のやどり(尾行)ビコウ 人のあとをつけ歩く。
 〔尾撃〕ビゲキ 後より追ひうつ敵の後陣
 〔尾上〕ヲヘ 山のいたいき。「を攻む」
 〔尾羽〕ヲハ 鳥の尾と羽根との義から轉じて人のなりかたのこと。
 〔尾花〕ヲバナ すゝきの穂、芒花。
 〔尾大不掉〕ビダイニシラハズ 上弱くして下の強きと禽獸の頭よりも尾の大きなに因み上よりも下の強大なるに喩ふ

尿

〔尿瓶〕ネウビン 座側に置きて小便するに用ゐる器、しゆびん。
 〔尿素〕ネウソウ 尿液中に含まれた主成分尿の腐敗するときアンモニア等を發生す
 〔尿道〕ネウダウ 膀胱に連なり尿の通ふ管。
 〔尿毒症〕ネウドクシヤウ 尿中の有害物が血液中に混じて起る一種の病氣。



(瓶 尿)

局

〔局外〕キョウガイ 圍碁の對局者以外の人、或る事件につき一切關係せぬ傍觀者。
 〔局所〕キョウショ 全體のうち的一部分、また其場所(二)身體の一部分。
 〔局外中立〕キョウガイチュウリツ 戰爭中交戦國の雙方に對して平和の國交を繼續し何れ(も)加擔せざること。
 官局キョウカン 博局キョウ 碁局キョウ 對局キョウ
 職局キョウ 限局キョウ 智局キョウ 當局キョウ
 幹局キョウ 時局キョウ 職局キョウ 難局キョウ



(局)

〔屁〕 漢 ヒ、おなら(肛門より排泄する瓦斯) 吳 ビ

居

〔居〕 漢 キヨ 吳 コキ 爲す所なし(二)すわる(坐)ホ(二)つみたくはふ(蓄積)やむ(止)ト(二)やすし(安)チ(二)あたる(當)ウ(二)づくまる(蹲)ツ(二)つかあな(墳墓)シ(二)呼かけ又は疑問の詞(國訓)の(居る、そこを去らず)

五畫

〔居中〕キョチュウ ①なかに入る(二)居間。
 〔居心〕キョシン ①安心、常の心(二)居心地。
 〔居守〕キョシュ 留りて居る、るすをする。
 〔住宅〕キョタク 住んで居る家。
 〔居住〕キョヂウ ①すまひする(二)住む所、永久に生活の中心點として住居する場所
 〔居室〕キョシツ 常に居る部屋、居間。
 〔居食〕キョシキ することもなくくらす。
 〔居第〕キョダイ すみか、住居、住所。
 〔居常〕キョジョウ いつも、いつにても。
 〔居所〕キョショ ①みどころ、居るところ。
 〔居然〕キョゼン ①そのまゝに、さながらに(二)物に動ぜぬさま、依然として。
 〔居留〕キョリウ 外國にとまり住む。
 〔居士〕コジ ①徳高く學あり官に就かずして民間にある人(二)道號・雅號などの下

屈

〔屈候〕キョウカウ 食客のこと。「割の地」
 〔居留地〕キョリウチ 外國人の住居せる一區
 〔居留民〕キョリウミン 外國に住居の民。
 〔居酒屋〕キョウカヤ 客が腰をかけながら手がるに酒をのむ店、バー。
 〔居待月〕キョウテイグツ 陰曆十八日の夜の月。
 〔居治不(レ)忘(レ)亂〕キョウヂフワスレズ 太平の世にも亂世の時を忘れず常に用心する
 燕居キョウ 閑居キョウ 起居キョウ 僑居キョウ
 穴居キョウ 巢居キョウ 群居キョウ 樓居キョウ
 禪居キョウ 雜居キョウ 家居キョウ 天居キョウ
 皇居キョウ 戶居キョウ 仙居キョウ 林居キョウ
 卜居キョウ 安居キョウ 隱居キョウ 棲居キョウ

〔屈〕 漢 クツ ①かどむ 吳 コチ(曲)まが

る、をる(折)①心むすぼる(體)心くじける(へ)りくだる(謙)②つく(盡)つくす、なくなる(亦)もとる(戻)③はづかしめ、そしり(ト)みだる(亂)まじふ(錯)④やむ(止)⑤みぢかし(短)⑥つよし(強)〔屈伏〕クツツク ①かどみふす(二)屈服に同じ
 〔屈曲〕クツクヨク ①折れまがること(二)人世の浮沈の定まらぬさま。
 〔屈折〕クツセツ ①折れ曲る(二)身を屈し従ふ
 ②光線等の方向を變ずる現象。
 〔屈枉〕クツワウ ①まがる、かどみたわむ(二)無實の罪、ぬれぎぬ、冤罪。
 〔屈伸〕クツシン のびぢぢむ、伸縮。
 〔屈指〕クツシ ①指折り數ふ(二)多くの中にて數ふるに足るの意、ゆびをり。
 〔屈服〕クツフク ①かどみ従ふ、恐れ従ふ、力及ばずして従ふ。「るさま」
 〔屈託〕クツタク 心を一事に注ぎよく(二)す
 〔屈竟〕クツキヤウ ①どんづまり(二)極めてすぐれてゐる、又最も適當して居る、あつらへむき(二)屈強とはその意異なる
 〔屈辱〕クツジヨク ①おさへられて恥を受く(二)身をけがし曲げて服従する。
 〔屈從〕クツジュウ 前に同じ。「ぬこと」
 〔屈強〕クツキヤウ 心つよく容易に他に從は
 〔屈折望遠鏡〕クツセツバウエンキョウ 對物レンズ

【山積】サンセキ 山の如く積み重なる貌。
 【山麓】サンロク 山のふもと、山脚。
 【山嶺】サンリン 山頂に同じ。
 【山嶽】サンガク 山岳に作る。やま、たけ。高き恩義。すぐれたる功名にたとふ。
 【山靈】サンレイ 山のぬし。
 【山羊】ヤギ 羊の一種。
 【山伏】ヤマブシ 山野に起臥し神佛の道を修行する修験者。「ま、山響」
 【山彦】ヤマヒコ 山の神、やまづみ。こた
 【山姥】ヤマババ 山に居るといふ女の化物、山おんな、やまんば、山姥。
 【山鳥】ヤマトリ 鷄に似た鳥、山鶏、山雉。
 【山國】ヤマクニ 山ばかりで海のない國。
 【山鉾】ヤマボコ 祭禮のとき、だしのの上にたてるほこ形のかざり。
 【山蛭】ヤマビル 深山の樹木の枝葉にかくれ人畜を見ると自ら落ち來つて血を吸ふもの、くさばる、かさびる。
 【山藪】ヤマヤブ 藪に似た處。
 【山鯨】ヤマクジラ むのしゝの肉。
 【山部】ヤマシ 鱒の幼魚で山間に棲む。
 【山葵】ワサビ 溪流の砂中に産する多年生草にて辛いが頗る芳味を有す。



(部山)

【山岳病】サンガクビヤク 高山で發する眩氣・心氣允進等の一時的の病氣。「法の流派」
 【山鹿流】ヤマカウロ 山鹿素行を祖とする兵
 【山椒魚】サンセウワ 深山の溪水中にすむ動物、形はもりに似て大きく、肉は食用に供せらる、はんざき。「せらる」
 【山歸來】サンキライ 蔓草の一種、根は藥用に供
 【山法師】ヤマハウシ 比叡山延曆寺の僧。
 【山毛櫛】ヤマケシ 落葉喬木の一種、櫛、其果實より油を製せらる。「た土地」
 【山間僻地】サンカンヘキチ 山間にある片よつた御馳走、即ち珍味佳肴。「き形容」
 【山紫水明】サンシスイメイ 山水の景色の美し
 陰山 深山 秃山 峻山
 崧山 嵩山 九山 名山
 華山 恒山 衡山 泰山
 南山 梁山 連山 丘山
 銅山 火山 故山 歸山
 登山 下山 高山 澤山

【屹】キツ 漢ギツ 吳ゴチ ①たかし(高) ②そばだつ(峙) ③さかんなり(壯) ④直立不動の貌。「しき貌」
 【屹立】キツリツ ①そより立つ ②獨立して嚴
 【屹屹】キツキツ 山のそびえたつ貌。
 【屹度】キツト 必ずの意。「そびゆる貌」
 【屹然】キツゼン ①高くするときさま ②物の
 【兩】リウ 一二二頁の出を見よ。
 【岫】シウ 一一九頁の出を見よ。
 【岵】コ 漢キフ ①あやふし(危) ②
 【岶】コ 漢キフ ①危ふき貌 ②山高き貌。
 【岷】ミン 漢ジン ①みれ(峰) ②さかし(岸)がけ(崖)
 【岐】キ 漢キ ①わがる(分)ふたまたに分る、えだになる ②たかし(峻) ③山の名
 【岐路】キロ ①えだみち、わかれみち。
 【岵】コ 漢キフ ①あやふし(危) ②
 【岶】コ 漢キフ ①危ふき貌 ②山高き貌。
 【岷】ミン 漢ジン ①みれ(峰) ②さかし(岸)がけ(崖)
 【岷嶺】ミンリン 高山のみれ。

五畫

【岡】カウ 漢カウ 吳コウ 俗字 ①をか(低き山) ②山の脊
 【岡阜】カウ をか、こやま。
 【岡陵】カウリウ をか、こだかき所。
 【岡目八目】カウハチカウ 岡阜は傍觀者の方が八目位は進んでゐるとの義より轉じて凡ての當事者よりも傍觀者の判斷の優れてゐることをいふ。
 【岩】イハ 漢イハ 吳イハ ①かき(石) ②かき(崖) ③かき(山) ④かき(岩) ⑤かき(崖) ⑥かき(山) ⑦かき(岩) ⑧かき(山) ⑨かき(岩) ⑩かき(山) ⑪かき(岩) ⑫かき(山) ⑬かき(岩) ⑭かき(山) ⑮かき(岩) ⑯かき(山) ⑰かき(岩) ⑱かき(山) ⑲かき(岩) ⑳かき(山) ㉑かき(岩) ㉒かき(山) ㉓かき(岩) ㉔かき(山) ㉕かき(岩) ㉖かき(山) ㉗かき(岩) ㉘かき(山) ㉙かき(岩) ㉚かき(山) ㉛かき(岩) ㉜かき(山) ㉝かき(岩) ㉞かき(山) ㉟かき(岩) ㊱かき(山) ㊲かき(岩) ㊳かき(山) ㊴かき(岩) ㊵かき(山) ㊶かき(岩) ㊷かき(山) ㊸かき(岩) ㊹かき(山) ㊺かき(岩) ㊻かき(山) ㊼かき(岩) ㊽かき(山) ㊾かき(岩) ㊿かき(山)



(燕岩)

【岬】ミサキ 漢ミサキ 吳ミサキ ①みさき ②山の傍 ③はざま(兩山の間の山) ④山の尾の長き貌
 【岬角】ミサカク ①みさきの鼻。
 【岳】ガク 漢ガク 吳ガク ①岳の父 ②妻の父のこと、岳丈。
 【岸】キ 漢キ 吳キ ①水のかき ②がけ(崖) ③心正しく圭角ある貌 ④きざはし(階) ⑤額をあらはす(極所、どんづまり、又目的とする所) ⑥宿驛に設けたる牢屋
 【岸曲】キマク ①きまのくま、岸の深く入
 【岸頭】キタウ ①岸の上、きしべ。
 【岸邊】キベ ①岸のほとり。



(華蓮岩)

【岫】シウ 漢シウ 吳シウ ①山なごの高くけはしき貌。②けはしき(山みち)
 【岵】コ 漢キフ ①あやふし(危) ②
 【岶】コ 漢キフ ①危ふき貌 ②山高き貌。
 【岷】ミン 漢ジン ①みれ(峰) ②さかし(岸)がけ(崖)
 【岷嶺】ミンリン 高山のみれ。
 【岵】コ 漢キフ ①あやふし(危) ②
 【岶】コ 漢キフ ①危ふき貌 ②山高き貌。
 【岷】ミン 漢ジン ①みれ(峰) ②さかし(岸)がけ(崖)
 【岷嶺】ミンリン 高山のみれ。
 【岵】コ 漢キフ ①あやふし(危) ②
 【岶】コ 漢キフ ①危ふき貌 ②山高き貌。
 【岷】ミン 漢ジン ①みれ(峰) ②さかし(岸)がけ(崖)
 【岷嶺】ミンリン 高山のみれ。



(岷)

《川》部

【川】漢 吳 水のながれ、かは(河・江・淮水・河水・漢水等の總稱) ①川のほとり ②支那にて四川省の略

【川上】川のほとり、水面 ①川の上流、みなかみ、かはかみ

【川柳】一首十七字より成り寶曆・明和の頃縁亭川柳の批點したる狂句、俗言警句のうちに諷刺滑稽の意を寓する詩 ①川邊に生ずる柳

【川口】川が海に入るところ

【川竹】川邊の竹が水の増減によりて起伏定まらぬより遊女の身の上など

【川底】川水の底、河底。「に喩ふ」

【川筋】川のながれの道筋

【川幅】川の幅、川のひろさ

【川狩】川にて漁する遊び



【川】鳥で水邊に穴居し小

四畫

【巡】漢 シュン ①めぐまはる、見廻り歩く ②あまねし(遍) ③あひしたがふ(相循)

【同訓異義】めぐる 巡・周・環其他の用法は八一五頁の繞を見よ

【巡行】めぐりゆくこと、諸方をめぐりて事物をしらべる

【巡回】めぐりあるく、みまはる

【巡守】守る所をめぐりまはる

【巡見】見まはる

【巡省】めぐりて詳かにす、巡察

【巡幸】天子が地方をめぐること

【巡狩】天子が地方をめぐること

【巡航】船にて諸方を航海する

【巡查】行政及び司法警察の執行機關、警察吏

【巡拜】神社佛閣をつぎと巡視して視察す

【巡遊】地方を回りにて興行すること

【巡察】巡視に同じ

【巡撫】支那の官吏、總督の次位

①地方を巡りて人民を安んず。「る」

【巡錫】僧侶が各地を説教して巡

【巡覽】方々を巡りてみる

【巡警】見廻りていませめる

【巡禮】諸國をめぐり觀音に參詣して歩くこと ①巡禮する人

【巡邏】見廻ると、見廻りする人

【巡洋艦】軍艦の一種、速力はやく防禦と攻撃との用をなす軍艦



(艦洋巡)

【巡察使】昔諸國を巡回して政務の善悪などを觀察したる臨時の官吏

【巡回病院】貧民救護の一法として官廳・團體又は特志家が病院組織の一隊を諸方に派遣巡回せしめ無料にて診療せしめるものをいふ

【災】六三二頁の災を見よ

【巢】漢 サウ ①す(鳥などの棲む所) ②すくふ(巢をつくる) ③つむ(積) ④樂器の名(笙の大なるも

魚を捕つて食ふ

【川獺】カハツ 獸の名

【川瀨】川底の淺くして波立つ所

【川施餓鬼】かはせがき かはで溺れ死んだ者の靈を供養する佛祭

【川原松葉】カハラマツバ 茜草の多年生草本で莖の高さ一二尺にして葉は線状をなし通常八箇づ、輪生する、秋日枝梢に複總狀花序をなし小白花を開く



(葉松原川)

【州】漢 シウ ①くに、邦國(行政上の區別、又周制にて二千五百戸) ②しま、す(水中の陸土、洲) ③あつまる(聚) ④あな、地方「の稱」村里

【州里】周時代二千五百戸の部落

【州俗】土地の風俗

【州州】神州 皇州 中州

【蘇州】六十餘州 四百餘州

九畫

【順】一一三六頁の順を見よ

工部

【工巧】漢 コウ ①たくみなり、じやうず ②器物を製する業、又其の人 ③てわざ(手藝、手工)

【工】①つかさびと(官吏) ②功に通ず ③庶民の第三階級、即ち職人の部

【工人】コウジン 工藝に従事する人

【工夫】コウクワ ①土木工事等に従ふ人 ②思案して方法を立つること ③品性の修養に心を用ゐること

【工手】コウシュ ①すぐれしうてまへ ②さい

【工女】コウニョ 工場ではたらく女

【工匠】コウシヤウ ①大工 ②工人の總稱

【工作】コウサク ①土木の事業 ②はたらくと

【工兵】コウヘイ 軍事上工作に従事する兵

【工事】コウジ ①ふしん、土木、しごと

【工師】コウシ ①工匠を掌る官吏 ②はたらき、手藝 ③官吏の長 ④大工の棟梁

【工率】コウリツ 器械の單位時間の間に出來あがる仕事の割合。「要に供する業」

【工業】コウガク 原料品に加工して人生の需

【工場】コウヂヤウ ①こうば、仕事場、製造所

【工程】コウテイ 仕事の分量、出來上り高

【工学】コウガク 工藝に關する一般の學問

【工藝】コウガイ 工作に關する藝術、たくみな

【工面】コウメン さんだん、くふう。「わざ」

【工作物】コウサクブツ 總て土地に關する工事又は作業に依りて成立つ物

【工場法】コウヂヤウホフ 職工の労働時間・工場内の衛生・娛樂・秩序に關する設備を改善し且つ相當の勞銀に關することを規定したる法律

【工業動員】コウガクドウイン 戦時の急な場合に應ずる爲に工業従業員、製作品等を國家の所有にすること

人工 鐵工 天工 良工

賤工セニ 拙工セツ 妙工セウ 巧工セウ
 漆工セツ 染工セン 百工セウ 石工セウ
 土工セウ 鐵工セウ 技工セウ 職工セウ

一畫

左 漢 吳
 俗字 **左**

①ひだり **左** くだす、おとす(下)退ける
 ②もとる(戻)たがふ(違)そむく(背)③
 よこしま(邪)④しるし(證據)⑤たすく
 【左右】サイウ ①ひだりとみぎ **左** そば、か
 たはら、わき **左** おそばの者、ついてゐ
 る家來、侍者 **左** かつてにする、自由にす
 る **左** ほど、ばかり **左** やうす、有様、次第。
 【左京】サキウ 京都の朱雀大路より東の方
 【左官】サクワン ①官を下す **左** 壁を塗る職人
 【左府】サフ 左大臣の異稱。
 【左袒】サタン 衣服の左の袖を脱ぎ助力す
 るの意より出で助くることを意味す。
 【左舷】サゲン へさきの方に向いて左側の舷
 【左程】サホウ それほど。
 【左傾】サケイ 政府の施政方針又は國民の
 思想標準より見て危険又は過激なる思
 想を抱く、共產主義・無政府主義等之に
 【左袒】サタン 著物の左まへ。「屬す。
 【左道】サダウ 不正の道、よこしまなる道。

【左遷】サセシ 官位を下しおとす。
 【左翼】サヨク ①左のつばさ **左** ぞなへ。
 【左黨】サトウ 議院に於て議長席の左方に
 位置を占むる黨派。
 【左手】ユシテ 左の手、左側、左方。
 【左大臣】サダイジン 太
 政官の長官にて一
 切の政務を統べし
 もの、いちのかみ。
 【左右兩難】サイウサウナ
 ン進退谷まるさま
 【左支右吾】サウイウゴ ①左右兩方を支へと
 むると **左** 右につかへてさしはり
 多くて思ふまゝにならぬこと。
 【左思右想】サウシウサウ 彼是と思案して決せ
 ざる貌、とつおひつ。
 【左顧右盼】サウカンブツパン ①四圍を見廻す貌 **左** 諸
 方に氣をくばる貌 **左** 思案の決せぬ貌。
 江左サウ 遼左サウ 關左サウ 道左サウ
 章左サウ 表左サウ 證左サウ 驗左サウ



(臣大左)

巧 漢 カウ
 通字 **工** **巧**
 ①たくみ、上手 **巧** わざ(技) **巧** よきこと
 (好)愛らしくよし **巧** うはべを飾る **巧** い
 つはり(詐)



(鳥婦巧)

【巧手】カウシュ 物事にたくみ。
 【巧妙】カウキウ 極めてたくみなること。
 【巧舌】カウゼツ 口前のうまきと、又その人。
 【巧拙】カウセツ 巧と拙、上手と下手。
 【巧者】カウシャ たくみ、上手。
 【巧智】カウチ 巧みにしてさとし。
 【巧婦】カウフ 裁縫などの巧みな女。
 【巧詐】カウセツ 言葉巧みに人を欺く。
 【巧遇】カウユ 上手であるがおそい。
 【巧緻】カウチ たくみにしてこまかし。
 【巧辯】カウベン 巧舌に同じ。
 【巧婦鳥】カウフニ ①燕
 雀類の小鳥で形は雀
 に以て小さく全身は
 焦茶色を呈し嘴は尖
 り美聲を發して鳴く
 ②そゝつかしい人。
 【巧言令色】カウゲンレイシヨク 實質の美を備へ
 ずして顔色をよくして愛嬌をつくること
 淫巧カウ 儉巧カウ 精巧カウ 機巧カウ
 文巧カウ 捷巧カウ 天巧カウ 伎巧カウ
 便巧カウ 辯巧カウ 智巧カウ 奇巧カウ
 浮巧カウ 飾巧カウ 名巧カウ 詐巧カウ

巨 漢 キ
 俗字 **巨** **巨**

①おほし(多) **巨** おほいなり(大) **巨** 距に
 同じ、なんぞ **巨** 距の略字
 【巨人】キヨジン 大人、からだの偉大な人。
 【巨大】キヨダイ 甚だ大なること。
 【巨木】キヨボク 大きな木、大木。
 【巨石】キヨシキ 大きな石、大石。
 【巨匠】キヨシヤウ 技術のすぐれし工人。
 【巨利】キヨリ 大なる利益、おほもろけ。
 【巨指】キヨシ 大なる寺院、名利。
 【巨財】キヨサイ 多くの財産、大金。
 【巨砲】キヨハウ 大きな大砲、大砲。
 【巨斧】キヨフ 大なるをの、かまきり。
 【巨獸】キヨジュウ 物の極めて多きにいふ。
 【巨頭】キヨトウ 首脳となる人物のこと。
 【巨魁】キヨクワイ わるもの、かしら。
 【巨彈】キヨタン 大なる彈丸のこと。
 【巨獸】キヨジュウ 大きな動物、大獸。
 【巨擘】キヨハク ①おほゆび **巨** すぐれし人
 ②圖きよへきと讀むは誤り。
 【巨額】キヨガク 多くの金かさ、數の多きこと
 【巨鱗】キヨリン 大なるうろこ、大魚。
 【巨艦】キヨカン 特に大なる軍艦。
 【巨細】キヨサイ ①大さ小 **巨** こまかに。
全 一八七頁の同を見よ。

功 一四六頁の功を見よ。
式 三五九頁の式を見よ。
巫 漢 ア 吳 ア ①み、かむ
 慣用音フ なぎ **巫** 神に仕
 へる者、神おろしを行ふもの **巫** 山の名
 【巫呪】フクウ のろひ、まじなひ。
 【巫術】フクジュツ のろひ、まじなひ。
 【巫蠱】フクコ 人を祈つてのろふ。
 【巫女】カマナ 神にい
 つき事へ神樂を奏
 し、神おろしなど
 を行ふもの、男を
 「をかむなぎ」女を「めかむなぎ」といふ
 【巫山之夢】フクサンノユメ 巫山は四川省巫山縣
 の東に在り、夢は巫山の神女のご事、
 男女相會して夢を結ぶ義。



(女巫)

攻 四五九頁の攻を見よ。
汞 五八一頁の汞を見よ。
差 漢 サイ 吳 セ
 慣用音サ
 ①たがふ、ちがふ、ことなる(異) **差** **差**
 やまち(過失)缺點 **差** 二數のさしひきの
 残り **差** そろはず、入れちがふ、ひとし
 からず **差** えらぶ(擇) **差** けちめ、わかち、
 區別 **差** おくる(送) **差** つかはす(遣) **差** い
 ゆ、なほる **差** や、すこし **差** 國訓さす
 (指定) **差** つぎこむ、増す、ものさし
 【同訓異義】 **差** たがふ
 【差】 は少しのちがひ。
 【違】 は大いなるちがひの義。
 【同訓異義】 やや 差・稍・真・其他の用
 法は七五五頁の稍を見よ。
 【差入】サシイレ ①中へいれること **差** 未決監
 に居る人に物品を贈與すること。
 【差支】サシカハ さはる、さしはる。
 【差引】サシヒキ 引きさる **差** 過不足を計算
 【差紙】サシガミ 召狀、召喚狀。 「する。
 【差押】サシオサヘ 債權者が債務者の物又は
 權利の使用處分を禁ずる法律上の行爲
 【差圖】サシツ ①ひつけてさせる、下知。
 【差障】サシサハサ さはり、さしつかへると。
 【差次】サジ ①しな、けじめ、區別。
 【差別】サバツ ①わかち、けちめ、分別。
 【差金】サシガネ ①まがりかね **差** 言ひ含めて
 事をさせる **差** 内金、手金。
 【差配】サハイ ①せわする **差** 所有主の依託

を受けて土地家屋の事をとりしめる人
【差異】サイ ①ちがひ、合はぬこと ②區別
をつけること。 「序の區別」

【差等】サトウ ①わかち ②しな、等差 ③順
【差遣】サケル 官吏などを地方へさしつか
はすこと、出張せしむ。

【差出口】サシグチ よけいなくちだし。

【差金買】サシバンバイ 現株を用意せず
其期限前に轉賣・買戻をなし其値の開
きを利得し或は支拂ふこと。

【選差】サイ 大差サイ 公差サイ 時差サイ

【項】 一一三六頁の項を見よ。

【器】 二一四頁の器を見よ。

己部

【己】 別字 【巳】 別字 【己】

漢キ 吳コ ①十千の一、つち
のとおのれ、おの、われ(自稱) ②私
の心、私慾(をさむ(治))
知己ヤ 衿己ホコル 枉己マダレ
正己タダシラス 直己タダシラス 罪己オノレ

【己】 漢吳 ①やむ、を
はる(畢)は

【巳】 漢 ①去(棄)しりぞく(御)
②すてに、もはや絶望の辭、やんぬる
かな(はなはだ)斷定の意、のみゆ
系に、ゆゑいゆ(癒)なほる(もつて

【同訓異義】のみ 而、巳・耳・爾其他の
用法は八三三頁の面を見よ。

【同訓異義】すてに 巳・業・既等の用法
は四七九頁の既を見よ。

【同訓異義】やむ

【休】はその意歇に近し。

【已】は全く終了するの意。

【殫】はとめたゆるの意。

【寢】は前に同じ。

【息】はやみたゆるの義。

【止】はその意歇に近し。

【歇】はことんくやむの意。

【罷】はその意歇に近し。

【己】 別字 【巳】 別字 【己】

【記】 九五五頁の記を見よ。

【起】 一〇〇四頁の起を見よ。

【配】 七畫

【配】 一〇五九頁の配を見よ。

【異】 漢吳 ①たつみ、東南の方角
②ソソ ③易の卦の名(ゆる

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭

【巾】 漢 ①かぶり
②頭



(紙子巾)

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【市】 漢 ①いち、あきなふ、又その場所、まち、
人の多く集まる所(物の價(うる(賣))
②かふ(買) ③市制を施行するまち、地
方自治體の一種にして公法人。

【帛】(小囊) 書物の巻数
【帛】(帛) 順序のよく整ひたる貌。

【帛】(帛) 漢吳 絹の類。慣用音 サウキ、はらうき(帛)はく(帛)はらふ

【帛】(帛) 藜科の一年生草本で莖は高さ三四尺、夏の頃葉腋に穂をなし多数の小形白色の花を開く、葉は食用に供せられ莖枝は乾してくさばうきを製する料となる



(草 帛)

【帛】(帛) 漢 ハク 絹(絹)の類。呉ビヤク(贈答用の絹)ぬき(絹)に書きたる手紙。又は記録

【帛書】(帛書) ①きぬにかいた文字 ②絹地に布帛の類 大帛ハク 通帛ハク 玉帛ハク 竹帛ハク 緇帛ハク 裂帛ハク 練帛ハク

【帛】(帛) 九三四頁の袋を見よ。

六畫

【帝】(帝) 漢タイ 漢タイ 吳タイ 天子の神、上帝

【帝】(帝) 漢タイ 漢タイ 吳タイ 天子の神、上帝

【帝】(帝) 天子のみこ、神のみこ。

【帝大】(帝大) 帝國大國の略稱。

【帝王】(帝王) 萬民に君たる者、天子。

【帝位】(帝位) 天子のみくらゐ。

【帝京】(帝京) 宮城のある土地、みやこ。

【帝制】(帝制) 天子が布く法律又は制度。

【帝威】(帝威) 天子の御むくわう。

【帝冠】(帝冠) 皇帝のかんむり、王冠。

【帝室】(帝室) 天子の御家、皇室。

【帝娥】(帝娥) 天女。

【帝城】(帝城) 帝京に同じ。

【帝祚】(帝祚) 天皇の御位、帝位。

【帝師】(帝師) 天子の師傳、又は宰相。

【帝道】(帝道) ①天子が國を治め民を安んじ給ふ道のこと ②王道。

【帝國】(帝國) 皇帝の統治せらるる國。

【帝劇】(帝劇) 東京の帝國劇場の略稱。

【帝戚】(帝戚) 皇室の御親族。

【帝座】(帝座) ①帝位、玉座 ②星の名。

【帝都】(帝都) みやこ、宮城のある土地。

【帝陵】(帝陵) みさぶき、御陵墓。

【帝業】(帝業) 帝王の事業、即ち天子が國家を統御經營し給ふ道、皇業。

【帝畿】(帝畿) 天子直轄の領地、又天子の都のある地方、畿内、王畿。

【帝儲】(帝儲) 皇太子、天子の後つぎ。

【帝釋天】(帝釋天) 三十三天の主で四天王と三十二天を領し佛法をまもり阿修羅を征伐するといふもの。



(天釋帝)

【帝國主義】(帝國主義) 國土國權の擴張を以つて社會生存の最良政策とする主義

【帝國憲法】(帝國憲法) 我日本國を治める法律の大本をなすもの。

【帝國議會】(帝國議會) 立法權の行使に參與する憲法上の機關にて、貴族院及び衆議院を以て構成されてゐる。

【帝王機關說】(帝王機關說) 天子はその國家を統治する唯一の機關にして絕對的の權力にあらずとなす説。

【帝】(帝) 漢 スキ 慣用音 ソツ

【帝】(帝) 漢 スキ 慣用音 ソツ

【帝】(帝) 漢 スキ 慣用音 ソツ

【帝】(帝) 漢 スキ 慣用音 ソツ

八畫

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

八畫

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

八畫

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

八畫

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

八畫

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

【帳】(帳) 漢吳 ①とばりをおほふ巾、たれぎぬ(帷)寢臺(帷)陣屋の幕(帷)垂布を敷ふる語

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

七畫

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教へる者、先生

【師】(師) 漢吳 ①人を教

〔帶〕

漢吳 ①おび、きもの口おぶ、はぐ(佩)②めぐる(環)めぐらす(行)取まく③あたり(邊)一圓(へび(蛇))④地球(地球)上植物(植物)氣候等の分布の區分⑤婦人病の一⑥鏡物學にては一陵に平行せし結晶體の集合

〔帶刀〕^{タイタフ} ①帶劍に同じ ②昔東宮に仕へし護衛の士。

〔帶下〕^{タイゲ} 婦人の下の病、こしけ。

〔帶甲〕^{タイカフ} 甲冑を着けたる兵士。

〔帶同〕^{タイドウ} 同行する、同伴。

〔帶勳〕^{タイクン} 勳章を佩用すること。

〔帶劍〕^{タイケン} 刀劍を身におびる、帶刀。

〔帶金〕^{タイガン} 刀劍をおびる時其紐をむすびつける爲につけた銀。

〔帶封〕^{タイフウ} 新聞紙雜誌などを送る時、帶をしめたやうにまく上包。

〔帶留〕^{タイリウ} 締めた帶の解けぬやうに上から押へしめる細い紐。

〔帶分數〕^{タイブンシュ} 整數を有する分數。

〔帶水母〕^{タイスイモ} 水母の一種で長さが三尺ばかりあつて帶狀をなすもの。

流帶^{リウタイ} 韋帶^{サイタイ} 東帶^{トウタイ} 廻帶^{クワタイ}



(母水帶)

〔常〕

漢 ①つね、いつも、とこしへ日頃、ふだん②のり、常の道③くせ、ならひ④なみ(普通)⑤尋の倍の長さ(一丈六尺)⑥天子の御物で日月の模様をつけし旗⑦車上に持つ旗⑧木の名、又神の名

〔同訓異義〕 つねに

〔常〕 はあけくれの意にて平常の義。

〔庸〕 はその意常に近し。

〔彝〕 は常に同じ。

〔恒〕 はいつともかはらざる義。

〔每〕 は其のたび毎にの義。

〔雅〕 は平素の義、かねの意。

〔常人〕 ^{ジヤウジン} なみくの人、平凡人。

〔常用〕 ^{ジヤウヨウ} 日常使用すること。

〔常久〕 ^{ジヤウキウ} 常に継続する状態。

〔常況〕 ^{ジヤウキヤウ} 常に継続する状態。

〔常住〕 ^{ジヤウジウ} 佛語、永久不變の意。

〔常例〕 ^{ジヤウレイ} 平生のしきたり、慣例。

〔常套〕 ^{ジヤウタウ} ありふれたるしかた①きまされる範圍。

〔常習〕 ^{ジヤウシユ} つねのならはし、ふだん

〔常設〕 ^{ジヤウセツ} 廢止することなく常にま

地帶^{チタイ} 連帶^{レンタイ} 熱帶^{ネツタイ} 綽帶^{チヤクタイ}

らくること、又そのもの。

〔常服〕 ^{ジヤウフク} ①日月の象ある天子の御服 ②平生に著る衣服、ふだんぎ。

〔常時〕 ^{ジヤウジ} つね、ふだん。

〔常道〕 ^{ジヤウダウ} ①一定不動の正しきみち ②日常ふみ行ふべき道徳節義。

〔常軌〕 ^{ジヤウキ} つねのより、常道。

〔常規〕 ^{ジヤウキ} 永久にかはらぬ法則。

〔常常〕 ^{ジヤウジヤウ} つね、いつも。

〔常温〕 ^{ジヤウワン} つね平生のあたゝかみ。

〔常備〕 ^{ジヤウビ} つねにそなへおくこと。

〔常鱗〕 ^{ジヤウリン} ありふれたる魚類、凡庸の人にたとふ、凡鱗。

〔常職〕 ^{ジヤウシヨク} 一定の職業。「ありさま。

〔常態〕 ^{ジヤウタイ} ①つねのやうす ②普通の

〔常縁〕 ^{ジヤウエン} 一年中衰落せぬ木の葉。

〔常置〕 ^{ジヤウチ} 常設に同じ。

〔常識〕 ^{ジヤウシキ} コンモンセンスの譯語、社會日常の事物につき普通人の有する智識・思想・感情・見解。

〔常夏〕 ^{ジヤウカ} ①野生の撫子 ②年中夏季。

〔常闇〕 ^{ジヤウアン} 少しも明るき時のなき意。

〔常盤〕 ^{ジヤウバン} ①いつもかはらぬこと ②常縁に同じ ③常盤と書くは誤り。

〔常夜燈〕 ^{ジヤウヤトウ} 夜中たえずつけおく燈

〔常備兵〕 ^{ジヤウビエイ} 平時に備へる兵、現役兵

〔常世國〕 ^{トコノクニ} 往來の出來ぬ遠い國

〔不老不死の國〕 夜見の國、人の死後往く所、よみぢ、黄泉。

〔常磐木〕 ^{トキギ} ①冬落葉せぬ樹木、年中葉の色を變へぬ木、常綠樹 ②松の異名。

〔常盤津〕 ^{トキハツ} 淨瑠璃節の一派、延享の頃常盤津文字太夫の創めしもの。

〔常山蛇勢〕 ^{トキヤマノヘ} 文章などの評に引用す、首尾相應することの意。

〔當務取締役〕 ^{トウムシヤクダク} 株式會社の社長及び専務取締役を補佐して業務を執行する役。

國常^{クニトコ} 平常^{ヘイジョウ} 居常^{キジョウ} 典常^{テンジョウ} 五常^{ゴジョウ} 天常^{テンジョウ} 大常^{ダイジョウ} 尋常^{ジンジョウ} 異常^{イジョウ} 無常^{ムジョウ} 非常^{ヘイジョウ} 綱常^{コウジョウ}

〔帷〕

漢 ①たれぬの(垂布)ひきまく、とばり ②かたびら(帷子)帷帳^{キチヤウ} 將軍の陣營、帷帳、とばり。

〔帷帳〕 ^{キチヤウ} ①本陣、大將の陣所 ②本陣、參謀部、大將の陣所 ③參謀官、謀臣。

〔帷幕〕 ^{キバク} 引幕、上から垂れ下すま、帷子^{キシ} ①たれぎぬ、几帳に垂るゝに用ゐる布帛 ②昔は單衣の總稱、後には専ら麻布の單衣をいふ。

〔帽〕

漢 ①かぶりもの、ぼうし、しやつば、頭にいたゞくもの ②おほふ。

〔帽章〕 ^{バウシヤウ} 帽子の前面につける徽章。

〔帽子〕 ^{バウシ} かぶり物の總稱。

〔帽額〕 ^{バウシガク} ①すだれの上に横に長くひく幕 ②紋所の名もつかう。

烏帽^{ウバウ} 脫帽^{ダツバウ} 冠帽^{クワンバウ} 錦帽^{キンバウ} 漢帽^{カンバウ} 漢帽^{カンバウ} 吳帽^{ウバウ} 吳帽^{ウバウ}



(額帽)

〔幅〕

漢 ①はじ、よこはじ ②へり、ふち(縁)轉じて外鏡(きれ)布帛(きれ)きれち、轉じてとばり ③きやはん(脚絆)むかばき ④掛物をかぞへる語 「士の用ゐるもの。幅巾^{フクキン} ①はじの帛で作つた頭巾、隱幅員^{フクギン} はじ、ひろさ。

〔幫〕

漢 ①たすく、補助する

〔幫助〕 ^{ハワシユ} そばで助ける、手傳ふ。

〔幫間〕 ^{ハワカン} ①兩者の間を助ける者 ②酒席をとりのつ者、たいこもち。

〔幘〕 ^{ハク} 漢 ①慣用音 ②呉 ③繪絹

かけ物を敷ふるに稱へる語

〔幕〕 ^{ハク} 漢 ①おほふ、おほひ(物を覆ふふきんの類) ②陣屋のま

〔帷舍〕 ^{キシヤ} 神事祭事を行ふとき南殿の前面に設け帷を引きめぐらしたる假舎又假設の祭殿

〔帷幕〕 ^{キバク} たれぬの、とばり、陣屋に用ゐるま。



(舍帷)

【帳殿】アケヂン 幕を引廻したる殿堂。
紫帳アケ 帷帳アケ 宸帳アケ 帳帳アケ

十畫

【幌】漢クワウ ①ほろ、
呉ワウ とぼり、
たれぎぬ、雨よけ ②髪飾

十一畫

【幕】漢バク ①まく
はる帷 ②將軍の政事を行ふ所、轉じて
將軍の軍政、參謀 ③おほひまふ(纏)
④こて、すねあての類 ⑤すなはたら(沙漠)
芝居のひとときり、又場敷をかぞへる語
【幕下】バクシタ ①將軍の尊稱 ②大將の旗下
に屬するもの ③幕内に次ぐ力士の資格
【幕火】バクカ 敵に我陣地を認められぬや
う障壁煙幕を布く砲火。
【幕末】バクマツ 徳川氏の末世。
【幕臣】バクシン 將軍のけらい、はたもと。
【幕府】バクフ ①將軍の政治を行ふ所 ②大
將軍の本營 ③一定の居所なく幕を引き
たて府とせるところ。
【幕閉】バクサツ 漠北、ゴビ沙漠以北の地。
【幕論】バクロン 幕府の主張する意見。

【幕僚】バクレウ ①將軍の麾下に屬して計畫
に參する者 ②陸海軍の司令官 ③參謀事
務に従ふ將校。
【幕議】バクギ 幕府の評議、幕府の主張。
【幕内】マクウチ もと上覽相撲に幕の内に何
候することの出來た上級力士の稱、又
力士の資格の一。
【幕天席地】バクテンセキチ 旺なる志氣の形容
綺幕バク 玄幕バク 鐵幕バク 六幕バク
留幕バク 布幕バク 帷幕バク 簾幕バク

【幣帛】ヘイハク ①賓客
に贈る禮物 ②神に
捧げるぬき ③天子
に奉る禮物のきぬ
奉幣ヘイ 貨幣ヘイ 歳幣ヘイ 造幣ヘイ
【幟俗】ヘイ 漢チユ 呉チユ
【幟字】ヘイ 慣用音チユウ
たれぬの、とぼり、國訓かや
【幟】漢ウ ①讀むは誤り
シ のぼり、目じるしの旗
②しるし(徽章)



【幔】漢パン ①まく(引幕)とぼり
呉マン ②おほひまふの(覆巾)
【幟】漢クワク ①讀むは
呉キヤク 誤り ②婦人の喪中
に著くる冠 ③婦人の髪かざり、首飾り
④用ふるもの

【幣】漢ヘイ ①ぬき、
呉ハイ ②して、に
ぎて、みてぐら ③たから(寶)轉じてせ
に(錢)さつ(札) ④みつぎもの(貢物) ⑤
引出物、贈り物 ⑥國訓して(神を祭る
に用ふるもの)

【幣帛】ヘイハク 金銀・珠玉・布帛等の贈物。

【幟】漢ハン ①はた(旗)のぼり
呉ホン (幟) ②ひるがへる
かかふる
【幟然】ハンゼン 旗などの幟へるさま。
【幟】漢タウ ①はた、儀衛又は指
呉ドウ 揮に用ふる旗 ②幟あ
る旗 ③とぼり(幕) ④ほろ(幌)皇后の乗
る車の蓋に垂れる羽毛などのかざり ⑤
蔽はれたる貌
【幟】タウ ①被はれて明らかならぬ貌
②羽毛布帛などの垂れた貌。
【幟】タウ 神佛の前に立てる旗。

【幟】漢ヘイ ①ぬき、
呉ハイ ②して、に
ぎて、みてぐら ③たから(寶)轉じてせ
に(錢)さつ(札) ④みつぎもの(貢物) ⑤
引出物、贈り物 ⑥國訓して(神を祭る
に用ふるもの)

【幟】漢ハン ①はた(旗)のぼり
呉ホン (幟) ②ひるがへる
かかふる
【幟然】ハンゼン 旗などの幟へるさま。
【幟】漢タウ ①はた、儀衛又は指
呉ドウ 揮に用ふる旗 ②幟あ
る旗 ③とぼり(幕) ④ほろ(幌)皇后の乗
る車の蓋に垂れる羽毛などのかざり ⑤
蔽はれたる貌
【幟】タウ ①被はれて明らかならぬ貌
②羽毛布帛などの垂れた貌。
【幟】タウ 神佛の前に立てる旗。

【幟】漢チウ ①とぼり、たれぬ
呉ヂユ ②車の覆ひの革
③おほひ(覆)

【幫】三四三頁の幫を見よ。
十五畫

【歸】五六一頁の歸を見よ。
十六畫

【罽】一二四頁の罽を見よ。

干部

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干戈】カンコウ ①たてとほこ ②いくさ。
【干犯】カンパン ふれ犯す、逆らひもとる。
【干城】カンシヤウ 國家の外を禦ぎ内を衛る
の意にして大將又は軍人の稱。
【干渉】カンセウ かまはる、さして、關係す
る、立ち入る、容喙する。「て參與する。
【干輿】カンコ ①あづかりかまはる、關係し
【干潮】カンテウ ひきしほ。「した食品。
【干瓢】カンベウ 夕顔の肉を細長く切つて乾
口出をしたり束縛を加へたりする主義
河干カン 欄干カン 闌干カン 師干カン
若干カン 射干カン 吳干カン

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【平方】ヘイハク ①同一の數を掛合す、自乗
②正方形の面積、又相乗積。
【平日】ヘイジツ ふだん、つねの日、ひごろ。
【平水】ヘイスキ 河海の平生の水かさ。
【平凡】ヘイボン ①つねなみ、ふつう ②すべ
れざるさま、又そのもの。
【平生】ヘイセイ つね、ふだん。
【平安】ヘイアン ①西京の別稱 ②和平の貌。
【平旦】ヘイタン 夜あけ、黎明。
【平伏】ヘイフク 頭を地に付けて拜む。
【平沙】ヘイサ 平らで廣い砂原。
【平昔】ヘイセキ 昔から、つね、ひごろ。
【平時】ヘイジ ①ふだん、つね。②
【平民】ヘイミン 族稱の一、人民、庶民。
【平年】ヘイネン 閏年に對し普通の年。
【平行】ヘイカウ ①二つの直線が同一の間隔
を保つこと ②ぶじに道中すること。
【平均】ヘイケン ひとし、不同なし、ならし。
【平坦】ヘイタン 平らかにして高低なき貌。
【平地】ヘイヂ 平らなる土地、ひらち。
【平定】ヘイテイ たいらげ定む。「變化少し。
【平板】ヘイバン ①ひらたき板 ②單調にして
【平易】ヘイイ やすし、たやすし、容易。
【平素】ヘイソ つね、ふだん、ひごろ。
【平身】ヘイシン 恐れ入る貌 ②平身低頭。
【平服】ヘイフク 常の衣服、ふだんぎ。

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求
【干】漢カン ①もとむ(求)ねがひ求

【平脈】健康状態のみやくはく。
 【平康】平らかにやすし、平安。
 【平温】普通のをんど、常温。
 【平然】平気でゐるさま。
 【平信】無事をしらす手紙。
 【平原】陸地の平らにして廣き所。
 【平和】おだやかにして安し。
 【平常】つね、ふだん、平日。
 【平復】病気のなほりしこと。
 【平準】物の均一を保ちて公平ならしむ。水もり。物價を平均にす。
 【平面】平らかなる表面。
 【平家】平氏の一門の稱。
 【平靜】おだやか、しづかなるさま。
 【平野】平らかなる原野、平原。
 【平氣】心に何も思はぬ貌、物事に
 【平滑】なめらか。「頓著せぬ」
 【平熱】普通の體温。「あること」
 【平潤】たひらかでひろくして
 【平衡】人を拜する禮法、頭と腰
 とが平らになる仕方。正しきはかり。
 【平癒】病がなほる、本復、平復。
 【平穩】靜かにして無事なるさま。暴行又は強迫に依らざる状態。
 【平仄】漢字の音の末のひびきにより分ちたる韻にして平聲と仄聲、

又平字と仄字、平聲は又上平・下平に分ち仄聲は上・去・入の三に分ち。順序【平】(いそくと讀むは誤り)。
 【平等】平均して差別なき意。
 【平袴】まを低くさげて仕立てた袴、はん袴。「と、又其紐或は金屬」
 【平打】紐又は金屬を平たくうつこ
 【平安朝】延暦十三年桓武天皇が平安京に遷都なされてより鎌倉時代に至る四百餘年間の時代。
 【平方根】甲数を自乗して乙数を得たとき乙数に對する甲数の稱。
 【平面美】立體美の對、繪畫等に現はされし美。
 【平假名】漢字の草書を更らに書きくづしてたやすくしるは四十八音にあてはめた本邦の文字、いろはがな。
 【平等界】眞如の世界、蘇有の差別なき世界、本體界。
 【平家蟹】蟹の一種で脚の長さに長短あり甲殼は人面狀をなし我が國の西南海に産する。
 【平平凡凡】平凡。
 【平民宰相】爵位のない政治



(蟹家平)

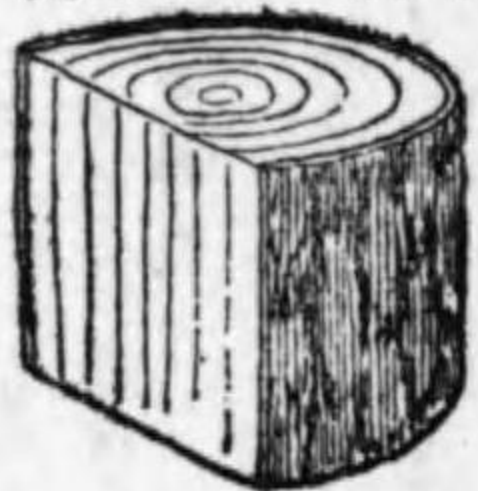
家が總理大臣の印綬を帯びたるをいふ
 【平民主義】萬事手輕にして平等の取扱ひを爲す主義、貴族主義の對。
 【平行定規】平行線を書くに使用する定規で二箇の等長の定規を相平行して動かし得るやうにしたもの。
 【平面描寫】表面より描出するの經過を有りのまゝ表面より描出すると【平和條約】交戦國が平和を克復する爲めに結ぶ條約。
 正平 四平 齊平 和平
 廉平 泰平 治平 承平
 清平 公平 調平 均平
 【刊】一三四頁の刊を見よ。
 【年】漢デン ①としが太陽を一周する期間。②みゆる、みのり(豐作) ③よはひ(とき)時代 ④としつき、つきひ(光陰) ⑤支那にて官吏登用試験に及第せし者の互ひに呼ぶ語【年少】年わかき者、少年。



(規定行平)

【年功】多年の功績、又年の功。
 【年内】一年中、としのうち。
 【年月】としつき、時代。
 【年代】時代、時世、年紀。「け暮」
 【年中】一年の間。いつも、明
 【年忌】年々の忌日の義で、人の死んだ後その月日に相當する年々の月日又其日に佛事をいとむこと、年回。
 【年末】としのくれ、一年のをはり。
 【年利】一年の利息の割合。
 【年年】としと、年毎、毎年。
 【年季】人に使はるゝ約束の年限。
 【年始】年のはじめ、新年。
 【年長】としうへ、又その者。
 【年來】としごろ、ひごろ。
 【年首】年のはじめ、新年。
 【年度】本年の某月より翌年の某月までの十二ヶ月間をめぐりとしていふ、例へば會計年度の四月に始まり翌年の三月に終るが如し。
 【年差】地球の太陽に對する距離が變るに依つて月の運行に起る變化。
 【年配】年頃、年のほど。
 【年貢】毎年のみつきもの。租税。
 【年表】或事柄を年順に従ひて記入
 【年賀】年始の祝儀。「したももの」

【年紀】年齢に同じ、又年代。
 【年俸】一年を以て定めた給料。
 【年限】限りたる年、きめた年間。
 【年金】一定の期間毎年政府より下賜せらるゝ金。「國の次官」
 【年預】武家の執事につく職。院
 【年報】一年間の出来事の記録。
 【年輩】年ごろ。年配と書くは誤り。「の一代に一號を制定せらる」
 【年號】年の稱號、現今にては天皇
 【年齒】よはひ、とし、年齢。
 【年數】としかず、年の數。
 【年輪】幹の横斷面に毎年一つ宛を加ふる木の目。
 【年賦】一定の金員等を數年間に分割して毎年一定額を支拂ふ方法。
 【年頭】年のはじめ、正月、新年。
 【年鑑】事々物々にわたり年々の出来事を記録したもの。
 【年額】一年を單位として算定したる金銭又は物品の數量。「に作りし者」
 【年譜】一生の履歴を年月順にて表
 【年齢】よはひ、とし、出生後年月。



(輪年)

日を以て計算するもの。
 【年子】年齢が一つ違ひの子。
 【年男】武家又は寺などで新年の儀式又は追儼の豆撒きなどを勤める男。元日の朝の若水を汲む男。
 【年寄】老人。武家で老中の次席の役人。徳川時代の町村長。相撲で顧問、監督等を勤むるもの。
 【年少者】己より年わかき者。
 【年長者】己より年うへの人。
 【年中行事】一年中に行はるゝ種々の定まりたる儀式。
 【年功加俸】多年勤務せし功勞に對し本俸以外に給與する俸給。
 【年歳歳】年とし、毎年。
 天年 生年 暮年 晩年
 忘年 盛年 丁年 殘年
 曆年 季年 紀年 積年
 他年 多年 累年 享年
 歳年 當年 長年 豐年
 少年 高年 萬年 世年

【井】**井** 漢ヘイ

【幸】**幸** 漢カウ

【南】**南** 漢イウ

【栞】**栞** 漢イウ

【報】**報** 漢イウ

【幹】**幹** 漢イウ

【幻】**幻** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【軒】**軒** 漢イウ

【竅】**竅** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【南】**南** 漢イウ

【栞】**栞** 漢イウ

【報】**報** 漢イウ

【幹】**幹** 漢イウ

【幻】**幻** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【軒】**軒** 漢イウ

【竅】**竅** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ



(燈 幻)

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幼】**幼** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

【幽】**幽** 漢イウ

〔度〕

漢トダク 慣用音ト

①のり(法)のつとる(則)②ものさし(人)がら、器量③ほご(程度)④數量をはかる單位を示す爲めに刻む目⑤たび(回数)とき⑥渡に通ず、わたる(佛語)にて救ふ意(濟度)僧となること(得度)⑦はかる(測)考へ慮る(國訓)たし(希望の意)たく(字音をかり用ふ)⑧人の過失を責めざること⑨考慮のうちに入れざること(例)度外視す。

〔度度〕何回も、いくども。〔度胸〕物事におそれない心、膽力。〔度量〕①たび②きめ、制度③目もりの數。④さき、物差と辨。〔度量〕①ころ、器宇②長さと大。〔度外視〕相手にせぬ、數のうちに入れぬ、のけものとなす。〔度量衡〕ドリヤウカウさし・ます・はかり、長さ・面積・體積・目方等の總稱。〔制度〕法度①百度②王度③王度④則度⑤常度⑥濟度⑦節度⑧態度⑨正度⑩用度

六畫

期度 象度 遠度 局度 器度 才度 明度 尺度 思度 差度 繩度 原度 量度 計度

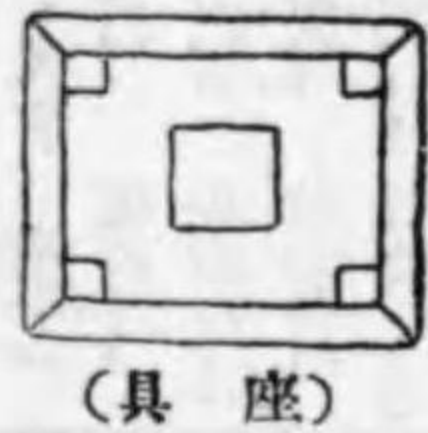
〔庠〕漢シヤウ 註讀やうと讀むは(郷學)①やしなふ(養)又老人を養ふ所(庠學)②昔支那にて五百家の村に設立したる學校のこと。

〔庠〕漢チ ①そなふ(備)②たく(備) 漢キウ ①いこふ(憩)②休に 吳ク 通ず又幸福の意

七畫

〔座〕漢サ ①すわる所②しきもの③集會の場所④すえた場處⑤國訓くら、位、みくら⑥ます(居)おはす、芝居小屋

〔座〕比叡山延曆寺の僧の長にて天臺宗の管長②唐代の試験官の異名〔座上〕①その席、座中。〔座中〕①その席の内、又其席にゐる人。〔座右〕①手元、そば、かたはら。〔座長〕①集會の席で議事を取締る者



(具座)

〔座席〕①坐る場所②芝居等の坐所〔座具〕①坐る時の敷物②僧侶が勤行の時に敷く帛製の長方形の敷物。〔座談〕①客に對しての話②席上にての話

〔座敷〕①坐敷と書くは誤り。〔座頭〕①按摩・はりなどをする盲人②盲目の琵琶法師の首席の人。〔座興〕①その座のなぐさみ。②練る。〔座禪〕①禪僧のなす行、靜かに心を座右之銘②自分の座右におきて常にいましめとする格言。

〔庫〕漢コ ①くら、さむる所②一般に穀物財貨を蓄ふる所〔庫裡〕①寺院にある臺所。〔庫敷料〕①クラシヤク貨物の保管料金。〔庫荷證券〕①クラニシヨウケン 貨物を預けた場

〔庭〕

漢チヤウ ①には

合倉庫會社より發行する證券。倉庫コウ 兵庫ヘイ 府庫フ 武庫ブ 書庫ショ 庫庫コン 内庫ナイ 帑庫トウ 階の前)②おもてざしき、大廣間(人)民に接し政を執る所③朝廷又は宮中(家)の内へだより(隔)大差④その(園)庭前)⑤には、にはさき。〔庭訓〕①親が子に教ふる、家庭教育。〔庭球〕①テニス 遊戯の一、ローンテニス。〔庭園〕①植込などをした庭。〔庭燎〕①テイルウ 庭中にて焚く篝火。〔庭石莖〕①ニハセキヤウ



(莖石庭)

高尾科の多年生草本にして莖は細長くして七八寸に達し花は小形にして紫色・青色乃至白色を呈する。後庭コウ 宮庭キョウ 園庭エン 玉庭ヨク 禁庭キン 帝庭テイ 幕庭バク 私庭シ 學庭ガク 府庭フイ 家庭カイ 天庭テイ

〔唐〕二〇一頁の唐を見よ。〔席〕三四一頁の席を見よ。

〔庵〕

漢アン 吳オン ①いはほ、いはほ(草舎)②低し(佛)を安置する小舎

〔庵主〕アンシユ 庵室のあるじ。〔庵住〕アンジュウ 閑居するの意。〔庵室〕アンシツ 小ききかりすまひ(いはほ)り、主として隱士・僧侶等の住む所。

〔庶〕

漢シヨ ①こひねがふ(冀)②ちかし(庶幾)③おほし(多)④もろく、衆多、人民(庶)め

〔庶子〕シヨシ ①昔の東宮職②父が認知しかげばらの子③ぶんげ、支族。〔庶乎〕シヨコ ほとんごの意。〔庶民〕シヨミン 一般の人、天下の蒼生。〔庶政〕シヨセイ もろくのまつりごと。

〔康〕

漢コウ ①やすし

〔康寧〕カウネイ 安らか、おだやか、安寧。永康カウエイ 太康カウタイ 安康カウアン 樂康カウラク 寧康カウネイ 悅康カウエツ 壽康カウジュ

〔庸〕

漢ヨウ ①つね

〔同訓異義〕つねに 庸・常・每其他の用法は三四二頁の常を見よ。〔同訓異義〕なに 庸・何・曷其他の用法は六九頁の何を見よ。〔庸才〕ヨウサイ 平凡な才、又其人。〔庸劣〕ヨウレツ おろか、凡愚。

【廬君】ヨウケン 愚なる君、平凡な君主。
 【廬庸】ヨウユウ 平凡なさま、微小な貌。
 【廬賢】ヨウケン やぶいしや、へばいしや。
 考廬カウ 妄廬バウ 中庸ユウ 登廬トウ
 凡廬ボン 附廬フ 巧廬カウ 保廬ホ

【庫】ク 漢吳 ヒ ひくし、屋根がひすく(吡に同じ)。(二)みじかし(短)
 【鹿】リウ 一一八六頁の鹿を見よ。
 【廩】リン 一一八八頁の廩を見よ。

九畫

【庾】ユ 漢吳 ①くら、こめぐら(米十六斗) ②米をたくはふ、又其米
 【廨】ヘ 漢 シヤウ ①ひさし ②廊下、吳 サウ わたどの
 【廩】リン 昔太上皇又は親王の乗車せられし牛車。

【廨】ヘ 三五五頁の廨を見よ。
 【廨】ヘ 一七四頁の廨を見よ。

十畫

【廉】レン 漢レン ①やすし(安價) ②きよし(清) いさぎよし(潔) ③かど(稜) すみ(角) ④あきらかにす(察) ⑤細きさま ⑥國訓かど(箇所、點)きは、だん、格別
 【廉吏】レンリ 潔白なる役人。
 【廉直】レンチク 心が潔白にして正直。
 【廉恥】レンチ 潔白にして節義を重んず。
 【廉賣】レンバイ 普通の相場よりも安く賣る
 【廉價】レンケン 普通よりも價の安きこと。
 【廉慎】レンシン 律義にしてつよしみあり。
 【廉潔】レンケツ 心きよく愆なきこと。

【廨】ヘ 漢力 ①いへ(屋) ひさし(廨)門のひさし
 【廨】ヘ 漢吳 ①ひさし ②ほそどの、那家屋の座敷の東西に建てたへや
 【廨下】ラウカ 家の中の往來する細長き所
 【廨間】ラウカ 表御殿の下をめぐる建物。
 【廨廟之器】ラウカ 宰相の任に適す人物
 長廨チヤウ 宮廨キウ 回廨クワイ 高廨カウ
 重廨チウ 斜廨シヤ 廨廨シヤ 軒廨ケン

【廨】ヘ 漢 シウ ソウ ①さかす(搜) 吳 シユ ス ②かくす(隠)

十一畫

【廓】クワク 漢吳 ①おほいなり(大) ②おほいにす、ひらく(開) ③むなし(空) ④劍のさや(鞘) ⑤國訓くるわ
 【廓大】クワクダイ ①ひろくして大なり ②大きくひろげる。「るところ、くるわ」
 【廓中】クワクチュウ ①城のくるわ ②妓樓のあ
 【廓如】クワクヂョ ①空しき貌 ②廣がるさま ③からりと開けたるさま。「ひ清める」
 【廓清】クワクセイ 害物又は汚れたものを掃
 【廓然】クワクゼン ひろくとしたる貌。
 大廓クワク 高廓クワク 寬廓クワク 遊廓クワク

【廨】ヘ 漢キウ うまや
 【廨人】キウジン 廨を司る者、べつたらう。
 【廨舍】キウシヤ うまや馬小屋。

【廨】ヘ 二二九頁の廨を見よ。
 【廨】ヘ 八四九頁の廨を見よ。
 【廨】ヘ 一一八九頁の廨を見よ。

十二畫

【廟】マウ 漢マウ ①たまや ②神を祀つたやしろ ③朝廷、人君の宮殿 ④かりみや(殯宮) ⑤かたしる(尊像) ⑥東西に廂のある部屋
 【廟祠】マウチ ①たまや。 ②朝廷又政府。
 【廟堂】マウタウ ①たまやの内と正殿の上
 【廟算】マウサン 戦争の時豫め立つる戦略。
 【廟寢】マウシン ①たまやの奥殿。
 【廟議】マウギ 朝廷の會議、群臣の意見。
 【廟靈】マウレイ 先祖のみたま。

大廟タイ 祖廟ソ 寢廟シン 家廟カ
 宮廟キウ 宗廟ソウ 遠廟エン 親廟シン
 天廟テン 靈廟レイ 孤廟コ 故廟コ

【廠】チヤウ 漢吳 ①かこひ 壁なき家、かりや ②多人數を使用する大規模なる工場
 【廢】ヘ 漢ハイ ①やむ(止) ②すてる ③呉へ ④ほろぶ ⑤(亡)かたは(廢者) ⑥ふす(伏) ⑦恐れ入る貌 ⑧おつ(廢)おとす

【廢】ヘ 漢ハイ ①やむ(止) ②すてる ③呉へ ④ほろぶ ⑤(亡)かたは(廢者) ⑥ふす(伏) ⑦恐れ入る貌 ⑧おつ(廢)おとす

【廢刀】ヘイトウ 刀を帯ぶを止めしこと。
 【廢止】ヘイレ ヤめる、中止する ①國廢止と書くは誤り。
 【廢刊】ヘイカン 新聞雜誌等の刊行を止める。
 【廢合】ヘイカフ 今まであるものを止めて外のものとの合はせる ①國局課の廢合。
 【廢立】ヘイリツ 現在位にある天子を退位せしめて別の天子を立てること。
 【廢寺】ヘイジ 破れ寺、人の住はぬ寺院。
 【廢后】ヘイコウ 現在皇后の位にある者をやめさせる、又皇后の位を奪はれし者。
 【廢兵】ヘイヘイ 負傷又は疾病の爲め不具となりし兵士 ①國廢兵と書くは誤り。
 【廢官】ヘイカン 事務の消滅又は官制上の便宜に基づく事務の併合等のため一つの官職を廢止すること。
 【廢址】ヘイシ 城又は家屋、市街などの滅びたあと ①國廢址と書くは誤り。
 【廢池】ヘイチ すたれ衰ふ、疎略になる。
 【廢典】ヘイテン 昔行はれしが現在は廢止となりし儀式。「役に立たぬもの」
 【廢物】ヘイブツ 不用となりし物品、又物の
 【廢帝】ヘイテイ 天子の位を奪はれし者。
 【廢家】ヘイカ 從來存在せし家を廢止する。
 【廢疾】ヘイシツ 不治の病氣、又不具者。
 【廢案】ヘイアン 實行を中止した議案。

【廢娼】ヘイチャウ 娼妓の公認を取消す意。
 【廢朝】ヘイチャウ 天子が政治を見給はぬと。
 【廢棄】ヘイキ ①やす、すてる、やめる又取消
 【廢滅】ヘイメツ ①亡びなくなる。「學を中止す」
 【廢業】ヘイゲツ ①從來の業務を廢止す ②修
 【廢絶】ヘイゼツ 廢れ滅ぶ、絶えてなくなる。
 【廢置】ヘイシ ①亡びること ②存続すること
 【廢嫡】ヘイテツ 裁判にて家督相続人たる資格を取消すこと。「用せぬ言語」
 【廢語】ヘイゴ 昔行はれしが現代にては通用
 【廢城】ヘイシヤウ 廢址に同じ。
 【廢學】ヘイガク 廢業の ①に同じ。
 【廢艦】ヘイケン 艦籍より除かれたる軍艦。
 【廢物利用】ヘイブツリヨウ そのまゝにては役立たぬ物を利用して有用物となすこと
 【廢娼運動】ヘイチャウウンドウ 娼妓を公許する制度を廢止せしめんとする運動。
 【廢藩置縣】ヘイハンチケン 明治四年封建制度をやめて縣郡制度とせし改革。
 全廢ヘン 存廢ボン 休廢ハイ 自廢ハイ
 改廢カイ 弛廢ハイ 捐廢ケン 怠廢ハイ
 衰廢ハイ 荒廢カウ 屏廢ハイ 停廢ハイ
 違廢ハイ 毀廢カイ 噴廢クワン 頑廢ハイ

【廣】クワク 漢吳 ①ひろ

【廣】クワク 漢吳 ①ひろ

ろさ、ひろむ。悠長にして心やすき貌
①よこ(横)東西の稱(南北は表又は輪)
②兵車十五乗の稱(地名(三國の吳の
時の地名、今の廣東・廣西))

【廣潤】クワクワツ 廣い、廣々としたこと。
【廣間】ヒロハ 廣いへや、大きなざしき。
【廣幅】ヒロハバ 木綿幅の倍幅の織物。
【廣長舌】クワクワウゼツ 辯舌の達者なること
【廣大深遠】クワクワダイシエン 廣く深くしては
かり知られぬさま。

【博】は廣き意にて幅廣き義、博愛。
【寬】はゆつたりと餘裕があつて廣い
【廣】は狭の反對で限り無く廣きこと
【弘】は大の意にて廣に近い。
【汎】は深入りせずばつとして廣い
【闊】は兩方に限りがあつて其の間の
幅の廣き意。

【廣告郵便】クワクワコウイロビン 商業上又は或目
的にて宣傳廣告を郵便で發送するもの
【廚】クツ 漢チユ 吳ヂユ
【厨俗】慣用音チユツ
①くりや、料理場、だいどころ
②箱)ひつ(櫃)たんす(箆筒)ぬし(主)
③財貨を以つて人を救ふもの
【厨人】チユウジン 料理人、コック。
【厨房】チユウバウ くりや、だいどころ。
【厨籠】チユウロウ 臺所のかまど。

【廣大】クワクワダイ ひろく大なり、宏大。
【廣告】クワクワコウ ①廣く告げ知らす
②廣く公衆に示す爲めに掲げると、又その物。
【廣言】クワクワゲン ①高ぶりに言ふ貌
②俾らずして言ひ放つ
【廣義】クワクワギ 狭義の對、物の見方の範圍
を狭く局限せざる意。「さとせまき」
【廣狭】クワクワケン ①ひろさ、物のはい
②廣益 クワクワエキ 廣くためになること。
【廣袤】クワクワボウ 廣は東西のひろさ、袤は
南北の長さ、よことたて。
【廣軌】クワクワキ 狭軌の對、軌條の間隔が四
尺八寸以上ある鐵道の軌道。
【廣漠】クワクワバク 廣くして大なる貌。

【塵】チン 漢チン ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する
【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する
【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

广部 (十五—二十二畫) 廣・廓・廡・慶・摩・廣・磨・廡・廡・廡・廡・廡・廡
廡部 廡 (四畫) 延・延 三五七

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する

【廡】フ 漢フ ①みせ(店舗)ロヤ
②市中の空地
③店税を課する



(索胡延)

合科の多年生草本で温地に自生し五月頃に帯紫色の花を開く。



(草齡延)

【延取引】ノベトリヒキ豫め期限を定めないうて物品の賣買契約をすること。

- 遷延 センエン 宛延 エン 祝延 シユクエン 曼延 マンエン
- 蔓延 マンエン 招延 ショウエン 薦延 センエン 普延 フエン
- 接延 セツエン 連延 レンエン 聯延 レンエン 綿延 メンエン

五畫

【廸】一〇三二頁の廸を見よ。

六畫

【建】漢ケン ①たつ、(起)創める、家屋をつくる②くつがへす(覆)こぼつ

- 【建言】ケンゲン 次と同じ。
- 【建白】ケンパク 上に對し意見を申立つると
- 【建造】ケンゾウ 家屋等を建てつくる。
- 【建碑】ケンヒ 石碑をたてる。
- 【建國】ケンコク 國の基をつくる。
- 【建設】ケンセツ 国を基をつくり置く、こしらへる。

【廻】漢クワイ めぐる、かへる、

【廻】漢クワイ めぐる、かへる、

- 【廻文】クワイブン ①まはし文、廻狀②逆によみても意味をなす詩歌。
- 【廻航】クワイカウ 船でまはり歩く。
- 【廻送】クワイソウ 荷物などを廻し送る。
- 【廻覽】クワイラン ①物を廻して互に見る②名所などを彼處此處と見て歩く。
- 【廻國】クワイコク 諸國を巡りある。

卅部

【迴避】クワイ、回避に作る①判事の裁判を避けること②さける、よける、遠慮する

【迴天之力】クワイテンノチカラ 天をめぐらすほどの力の義で、天子の心を引きもどす力、天子を善導して轉じさせる力。

【迴】三四頁の乃及び一〇三二頁の廸を見よ。

【卅】漢キヨク こまぬ

【卅】漢キヨク こまぬ

【廿】一六三頁の廿を見よ。

【弁】漢ヘン

【弁】漢ヘン ハン 冕に同じ①か武官のもの②おそれをのく(戰慄)③たのしむ

【井】國字

ぼさつ、菩薩の略字、佛典の講釋などを筆記するときに用ふ。

四畫

【弄】漢ロウ

- ①もてあそぶ(玩)②たはむれ、たはむる(戯)③あなどる(侮)なぶる④樂をしらぶ、又樂曲⑤ちまた(巷)
- 【同訓異義】もてあそぶ 弄・玩・戲等の用法は六七二頁の玩を見よ。
- 【弄巧】ロウコウ こせくする意、姑息、小刀
- 【弄花】ロウカ 花合せの遊戯。
- 【愚弄】ロウロウ 嘲弄、玩弄

【弄】五三二頁の弄を見よ。

六畫

【奕】漢エキ

字なれど我國では一般に混用されてゐる①美しき鏡②碁をかこむ③ばくち

【奕】二六六頁の奕を見よ。

【鼻】一一九六頁の鼻を見よ。

七畫

【弊】漢ハイ

- ①つかる(罷)やぶる(壞)そこなふ(害)②きめる、さだむ(定)③自分の事の謙稱に用ゐる語
- 【同訓異義】やぶる 弊・敗・破其他の用法は七三二頁の破を見よ。
- 【弊衣】ハイイ ヤぶれたる著物。
- 【弊室】ハイシツ 自分の家の謙稱、弊屋。
- 【弊害】ハイガイ ①よからぬこと、自他に害を及ぼす意②害になること、害毒。
- 【弊風】ハイフウ 弊習に同じ。
- 【弊家】ハイカ 自分の家の卑稱。
- 【弊屋】ハイウツ あばらやのこと。
- 【弊習】ハイシヨウ よろしからぬならはせ。
- 【弊政】ハイセイ 害ある政治、惡政。
- 【弊履】ハイリ 破れたる草履、何の價値もなきことにたとふ。

十二畫

【式】漢シヨク

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢シヨク ①おき

【式】漢

の横木(弑)車上の敬禮(弑)發語のことば、もつて、それ(弑)に通ず(弑)運算の方法を符號にて書きしもの

- 【式日】シキジツ 式事を執行する日、ものび。
- 【式微】シキビ ①帝室の衰ふること ②衰微
- 【式場】シキバ 式を行ふ場所。
- 【式臺】シキダイ 玄關の板敷。「で舞ふ舞。」
- 【式三番】シキサンパン 翁・千歳・三番叟の三人
- 【式部官】シキブクワン 宮中の儀式を扱ふ官。
- 新式シンシキ 舊式キウシキ 本式ホンシキ 洋式ヤウシキ
- 格式キヤクシキ 儀式ギシキ 禮式レイシキ 略式リヤクシキ

【弑】 九頁の三を見よ。

九畫

- 【弑】 漢吳シ しいす、ころす(弑)臣延音シイが君を殺す、子が親を殺す、下の者が上の者をころす(弑)「弑虐」シイゲキヤク 臣子たるものが君父を殺す大悪の行爲、弑逆。
- 【弑逆】シイゲキヤク 惡逆無道に君父を殺す。

【貳】 九九二頁の貳を見よ。

十一畫

【鳶】 一一八〇頁の鳶を見よ。

弓部

弓。[弓]

漢 キユウ ①ゆみ (形容) 吳 ク (形容) 詞として用ゐるときはゆ、ゆん、車蓋のほね(支那にて土地丈量の單位(八尺ばかり)) 射侯では六尺の距離の稱

- 【弓矢】キウシ 弓と矢。
- 【弓形】キウケイ 弓の如き形、ゆみなり。
- 【弓馬】キウバ ①射術と馬術 ②一般に武道の
- 【弓弦】キウケン 弓にはる糸、ゆみづる。
- 【弓術】キウジュツ 弓を引く術、弓矢の法。
- 【弓箭】キウケン 弓矢に同じ。「に握る所。」
- 【弓柄】キウヘイ 弓の中程の弓を射る時左手
- 【弓取】キウキ 武士の義。
- 【弓馬家】キウバカ キウバノイ、武士の家柄。「弦月。」
- 【弓張月】キウチヤグヱツ 弓の弦を張つた形の月
- 【弓矢臺】キウシダイ 弓矢をさして置く武具で高さ三尺二寸を斯道の常法とす



(臺矢弓)

- 【弔】テウ 俗漢テキ 吳チャク (弔)吊は吊(つるす)すに用ひ、弔は弔(とむらふ)ふに用ひらる(とむらふ)とむらひ(とむ)ふ(死者の家又その後を訪ふ) ①いたむ(傷)あはれむ ②いたる(亦つる) ③國訓とむらひ
- 【弔文】テウブン 死人をいたみ弔ふ文章。
- 【弔使】テウシ ①人の死を弔ふ爲めの使者 ②悔みの代理人。「くりて死す。」
- 【弔客】テウキヤク 弔ひに來りし人。
- 【弔問】テウモン 訪ひ弔ふ弔問客。
- 【弔祭】テウサイ 死者の靈をまつる。
- 【弔詞】テウジ 悔みの言葉。「に打つ禮砲。」
- 【弔砲】テウパウ 陸海軍にて弔意を表する爲
- 【弔意】テウイ 死をいたみ悲しむ情。
- 【弔旗】テウキ 弔意を表し竿の半に掲ぐる
- 【弔電】テウデン くやみの電報。「旗、半旗。」
- 【弔壇】テウダン 死者の遺族をなぐさむると。弔を行ふ祭壇。
- 【弔辭】テウジ 弔詞・弔文に同じ。「うつ職。」
- 【弔合戦】テウガクセン 戦死した人の敵を哀弔アイトウ 會弔カイテウ 慶弔ケイトウ 敬弔ケイトウ

引。[引]

惠弔ケイテウ 引弔インテウ 形影相形ケイエイイコウ 漢吳 ①ひく、のびく(導)案内(長)くす、つづく(さ)そふ(誘引) ②ささる(去)のぞく(除)ぬく(抜) ③ひきさがる(退) ④擧げいたる、持ち來る(ひきさうける) ⑤承負 ⑥はしがき ⑦樂曲の一又は詞曲

- 【同訓異義】 ①ひく、引・曳・牽其他の用法は六五八頁の牽を見よ。
- 【引力】インリキ 萬物の互に牽引する作用。
- 【引火】インカ 火のつくこと。
- 【引水】インスイ 田畑に灌漑のため又は庭園泉水の風致を添へるため溝渠を作る等人工に依つて他から用水を引き來ると
- 【引伸】インシン ひきのばす、應用する。
- 【引用】インヨウ ①他の書物の中にある文句文意を取りて己が作中に用ゐる ②甲の場合の事柄を乙の場合に使用する。
- 【引決】インケツ 覺悟をきめる、責を負ふて自から決する、即ち自殺する。
- 【引見】インケン 人を招いての會見、座敷に通
- 【引例】インレイ 引證に同じ。「しての會見。」
- 【引退】インタイ のく、ひきしりぞく。
- 【引致】インチ 引立つ、拘引。
- 【引率】インソツ ひきつれる、ひきゐる。

- 【引導】インダウ ①みちびき、案内 ②佛者が衆生を導きて佛門に入らしむること ③死者を冥土に導く和尙の手引。
- 【引證】インシヨウ 他書の文章又は古語などより引きて證據とすること。
- 【引船】インセン 綱を附けて曳き行く船 ②船又は他の浮動體を曳き行く船 ③遊女に附屬して其身邊の用務を辨する女中。
- 【引廻】インクワイ ①ひきまはすこと ②徳川時代に斬罪以上の重刑に處せられしもの、附加刑犯人を戒めのため馬に乗せて紙幟に其罪状をかゝげ記し、市内又は犯罪地を巡行して後本刑に行ひしことをいふ。
- 【引潮】インシホ 引退く海水。「を起す温度。」
- 【引火點】インカワテン 瓦斯體及び液體等燃焼
- 【引出物】インデモノ 祝宴の時來客に贈る品
- 【引越嫁】ヒツコシヨノ 結婚費を節約する爲め新宅に轉居の風にて新夫婦同時に荷物を持ち込みて同棲すること。
- 【引込思案】ヒツコミシアン 内氣な考へ。
- 唱引シヤウイン 吸引キヤクイン 迎引メイイン 承引ジュウイン



(引船)

一畫 弘。[弘]

漢 コウ ①ひろし(廣)ひろむ、ひろまる(おほいなり) ②(大)法は三五六頁の廣を見よ。

- 【弘道】コウダウ 道をひろめる。
- 【弘布】コウフ ひろめる。「師の略稱。」
- 【弘法】コウホフ ①佛の道をひろむ ②弘法大師
- 【弘通】コウツウ 佛法が世間に廣まること。
- 【弘誓】コウセイ 弘く衆生を濟ひて佛果を得しめんとする佛の慈悲。「とする大願。」
- 【弘願】コウガン 佛語、進みて事物に當らん 廣弘コウワウ 恢弘コウワウ 宣弘コウケン 寬弘コウワン
- 【弗】フツ 漢 フツ ①いな(否)あらず、ふ(被)はらひ去る(ドル) ②(米國の貨幣の單位、我二圓内外) ③元素 Fluorine の宛字の頭字
- 【弗素】フツ 非金屬元素の一である。
- 【弗外交】ドルグワイカウ 強國が弱國に恩を賣つて置いて後日之を侵略せんとする外交

【得票】トクヘウ 選舉に於て得たる投票數。
 【得得】トクトク 得意の貌。殊更にの意。
 【得點】トクテン てんとり、點數に依りて勝負を決するその探點數。
 【得業士】トクゲツシ 一定の學業を卒へし者に與ふる稱號。醫學得業士。

自得トク 獲得トク 拾得トク 利得トク
 逐得トク 眞得トク 購得トク 會得トク

【從】**從** 漢シヨウ 吳ジユ したが
 【縱】**縱** 漢シヨウ 吳ジユ したが
 【从】**从** 古

慣用音ジユ。ふ、服する、なづく。治める。靜かなるさま、落つけるさま。供をする、隨行す。とも(供)つきそひ。放つ。ほしいまゝ。(縱)同じ血系よりす、より(自)。(縱)同じ階を上下二段に分ちたる下位の稱。
 【同訓異義】したがふ 從・遵・順其他の用法は一一三六頁の順を見よ。
 【同訓異義】より 從・因・自其他の用法は八五七頁の自を見よ。
 【從子】ジユレ 母の姉妹の子、をひ、姪。
 【從父】ジユワ をぢ、伯叔父。

【從兄】ジユウケイ 年上のいとこ。
 【從犯】ジユウハン 犯罪者を幫助して其犯罪を容易ならしむる、又其者。
 【從臣】ジユウジン つきしたがへる家來。
 【從弟】ジユウテイ 年下の男のいとこ。
 【從姉】ジユウシ 年上の女のいとこ。
 【從妹】ジユウメイ 年下の女のいとこ。
 【從者】ジユウシャ とも、つき従ふ者、主君のともをする人。「事をする。」
 【從事】ジユウジ 或る事にたづさはる。仕
 【從來】ジユウライ これまで、いまままで。
 【從軍】ジユウジン 軍隊に加はり戦地に赴く
 【從前】ジユウゼン まへより、これまで。
 【從順】ジユウジュン すなほ、やさし。
 【從屬】ジユウゾク 附きしたがふ、附隨。
 【從容】ジユウヨウ くつろげる貌、ゆつたりして迫らぬ。じょうようと讀むは誤り
 【從兄弟】ジユウケイテイ 父母の兄弟の子。
 【從姉妹】ジユウシメイ 女のいとこ。
 【從業者】ジユウゲツヤ 其仕事に従事する人
 【從量税】ジユウリヤウゼイ 關稅の一にして貨物の數量に應じて課する税。
 【從價税】ジユウカゼイ 品物の價格に従ひて率を定める關稅。
 服從ジユウ 賓從ジユウ 協從ジユウ 隨從ジユウ
 扈從ジユウ 陪從ジユウ 騎從ジユウ 後從ジユウ

【從兄】ジユウケイ 年上のいとこ。
 【從犯】ジユウハン 犯罪者を幫助して其犯罪を容易ならしむる、又其者。
 【從臣】ジユウジン つきしたがへる家來。
 【從弟】ジユウテイ 年下の男のいとこ。
 【從姉】ジユウシ 年上の女のいとこ。
 【從妹】ジユウメイ 年下の女のいとこ。
 【從者】ジユウシャ とも、つき従ふ者、主君のともをする人。「事をする。」
 【從事】ジユウジ 或る事にたづさはる。仕
 【從來】ジユウライ これまで、いまままで。
 【從軍】ジユウジン 軍隊に加はり戦地に赴く
 【從前】ジユウゼン まへより、これまで。
 【從順】ジユウジュン すなほ、やさし。
 【從屬】ジユウゾク 附きしたがふ、附隨。
 【從容】ジユウヨウ くつろげる貌、ゆつたりして迫らぬ。じょうようと讀むは誤り
 【從兄弟】ジユウケイテイ 父母の兄弟の子。
 【從姉妹】ジユウシメイ 女のいとこ。
 【從業者】ジユウゲツヤ 其仕事に従事する人
 【從量税】ジユウリヤウゼイ 關稅の一にして貨物の數量に應じて課する税。
 【從價税】ジユウカゼイ 品物の價格に従ひて率を定める關稅。
 服從ジユウ 賓從ジユウ 協從ジユウ 隨從ジユウ
 扈從ジユウ 陪從ジユウ 騎從ジユウ 後從ジユウ

【御土産人形】オシタゲニシヤウ 人形の一種、徳川時代に幕府の役人又は諸侯の家臣などが京都に上つたとき、贈物をなせし公卿より答禮として貰ひ還りしもの、鍔の木屑を糊にて固め、幼童に模作し、種々着裝せしめたものである。
 引御イシ 將御シヤウ 貢御イシ 入御ニシ
 移御イシ 供御ゴク 統御トク 督御トク
 駕御イシ 臨御リン 侍御ジ 進御シン
 傳御フシ 善御ゼン 女御メヨウ 服御フク
 登御トク 嬪御ヒン 嬪御イシ 臣御シ



(形人産土御)

【御料】ゴリョウ 皇室の所有と係るもの。
 【御用】ゴユウ 官のしごと。天子の御物
 【御用又は入用等の敬語】
 【御所】ゴシヨ 宮中、禁廷。
 【御前】ゴゼン 貴人の御まへ、又御座。
 【御惱】ゴノウ 天子の御病氣。
 【御覽】ゴラン 天子のみそなはすことをいふ、又その書物。
 【御代】ゴダイ 御字に同じ。
 【御子】ゴシ 天子の御子様。
 【御身】ゴミ さまへといふに同じ。
 【御仕置】ゴシキ 徳川時代の重刑の一。
 【御祖師】ゴソシ 一宗の開祖。一般に親鸞上人と日蓮上人をいふ。
 【御歌所】ゴカシヨ 宮中において御製御歌及び御歌會に關することを掌る。
 【御内儀】ゴナイ 天子の御手許金。
 【御稜威】ゴレイ 天子の御威光。
 【御茶水式】ゴチスイシキ 東京高師の附屬であるお茶水高等女學校の生徒が快活で現代式な所から起つた語で特色は貴族的と平民的とを折衷した點にある。
 【御忍駕籠】ゴシノリカゴ 徳川時代に諸侯やそ



(所御)

【御土産人形】オシタゲニシヤウ 人形の一種、徳川時代に幕府の役人又は諸侯の家臣などが京都に上つたとき、贈物をなせし公卿より答禮として貰ひ還りしもの、鍔の木屑を糊にて固め、幼童に模作し、種々着裝せしめたものである。
 引御イシ 將御シヤウ 貢御イシ 入御ニシ
 移御イシ 供御ゴク 統御トク 督御トク
 駕御イシ 臨御リン 侍御ジ 進御シン
 傳御フシ 善御ゼン 女御メヨウ 服御フク
 登御トク 嬪御ヒン 嬪御イシ 臣御シ

【御土産人形】オシタゲニシヤウ 人形の一種、徳川時代に幕府の役人又は諸侯の家臣などが京都に上つたとき、贈物をなせし公卿より答禮として貰ひ還りしもの、鍔の木屑を糊にて固め、幼童に模作し、種々着裝せしめたものである。
 引御イシ 將御シヤウ 貢御イシ 入御ニシ
 移御イシ 供御ゴク 統御トク 督御トク
 駕御イシ 臨御リン 侍御ジ 進御シン
 傳御フシ 善御ゼン 女御メヨウ 服御フク
 登御トク 嬪御ヒン 嬪御イシ 臣御シ

【復】**復** 漢フウ フク かへる(返)もどる(戻)かへす、もどす。くり返す、取りもどす。まうす(申)答へる。むくゆ(酬)のぞく(除)かさなる(重)かさぬ(また)又(又)ふた(再)おほふ(覆)おほひ(易)の卦の名。亡魂を招く儀式。
 【復仇】フクキウ 復讐に同じ。
 【復古】フクコ 昔の状態にもどす。
 【復命】フクメイ 命を受けた結果を報告する。
 【復活】フククワツ いきかへる。うまれかへる。一旦廢れしを再び用ひること。
 【復習】フクシツ 温習、おさらひ。温習と書くは誤り。「の如く作り起す。」
 【復興】フクコウ 一度すたれ破れしものを元
 【復辟】フクヘキ 君王の位を復すること。
 【復舊】フクキウ 元の状態にかへる。

【御】**御** 漢ギョ ガ 吳ゲ ゴ 馬を使ふ(馭す)又馬を使ふ者(馭者)をさむ(治)お、おん、み、おほん(天子の事にいふ敬語、又語に冠し語尾に添へて用ふ)ふせぐ(禦)おむかふ(迎)はべる(侍)すむ(勸)きさき(妃嬪)又婦人を寵愛す。國訓おほん、おん、お、み(他人の事物に添へていふ敬語、自他共に物を尊びていふ語)
 【御衣】ゴイ 天子の御衣服。
 【御名】ゴメイ 天子の御名。
 【御宇】ゴウ 天子がみよを治め給ふ間。
 【御幸】ゴコウ 天子の御でまし。上皇の馭者、馬を使ふ者。「みゆき」
 【御物】ゴブツ 天子の御用品。「所、御前」
 【御座】ゴザ 天子のおはす所、天子の御座。
 【御苑】ゴエン 御所のその、宮苑。
 【御筆】ゴヒツ 天子御作製の書畫。
 【御宴】ゴエン 宮中のおさかもり。「の考へ」
 【御意】ゴイ 天子のお考へ。目上の人
 【御感】ゴカン 天子の思召。
 【御製】ゴセイ 帝王のつくり給ふ歌詩。
 【御題】ゴタイ 天子の出されし詩歌の題。
 【御璽】ゴシ 皇帝の御印章。

【御】**御** 漢ギョ ガ 吳ゲ ゴ 馬を使ふ(馭す)又馬を使ふ者(馭者)をさむ(治)お、おん、み、おほん(天子の事にいふ敬語、又語に冠し語尾に添へて用ふ)ふせぐ(禦)おむかふ(迎)はべる(侍)すむ(勸)きさき(妃嬪)又婦人を寵愛す。國訓おほん、おん、お、み(他人の事物に添へていふ敬語、自他共に物を尊びていふ語)
 【御衣】ゴイ 天子の御衣服。
 【御名】ゴメイ 天子の御名。
 【御宇】ゴウ 天子がみよを治め給ふ間。
 【御幸】ゴコウ 天子の御でまし。上皇の馭者、馬を使ふ者。「みゆき」
 【御物】ゴブツ 天子の御用品。「所、御前」
 【御座】ゴザ 天子のおはす所、天子の御座。
 【御苑】ゴエン 御所のその、宮苑。
 【御筆】ゴヒツ 天子御作製の書畫。
 【御宴】ゴエン 宮中のおさかもり。「の考へ」
 【御意】ゴイ 天子のお考へ。目上の人
 【御感】ゴカン 天子の思召。
 【御製】ゴセイ 帝王のつくり給ふ歌詩。
 【御題】ゴタイ 天子の出されし詩歌の題。
 【御璽】ゴシ 皇帝の御印章。

【徭】**徭** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。

【徭】**徭** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。
 【術】**術** シヤウヤウ さまよふ、徘徊。

【復職】フクシヨク 一旦やめし職に再びもどり勤める。「めし位に再びつくこと。」
 【復歸】フクキ ①かへる、もどる。②一旦や【復籍】フクキキ 一度他家に入籍したる者が再び實家に復歸するをいふ。
 【復權】フクケン 一旦公權又は私權を剝奪した者が特別の恩典又は債務の完済によりて再び公權或は私權を與へらるゝこと。
 【復讐】フクシウ かたきをとり、かたきうち。
 反復ハン 平復フクイ 本復フクケン 回復フクワイ
 克復フクク 收復フクク 往復フクワ 恢復フクワイ
 修復フクク 起復フクキ 習復フクク 報復フクバウ
 酬復フクウ 賜復フクキ 一陽來復ライチヤウフク
 漢吳 ①あまねし、あまねく。②あまねく、あまねく。
 【徧・徧】 徧(遍) ①あまねく、あまねく。②あまねく、あまねく。
 【同訓異義】 あまねし 徧・周・普其他の用法は一九五頁の周を見よ。
 【徧歴】ヘンレキ ひろくめぐり、周遊。
 【徧讀】ヘンドク 徧なく讀む、博く書物を覽る。
 【徧】 漢 クワウ ①さまよふ、たち。吳 ワウ もとほる。②いとま(邊)ひま(暇)。
 【徧】 漢 シュン ①したがふ(順)。②吳 ジュン すなほめぐり(巡)なづ(撫)さする。③なぐさむ(順)。

【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①よわき力(力)の及ばぬこと。②我が盡力の謙稱。「自身の謙稱。」
 【徧】 漢 ビ ①才力の乏しきこと。②自分ちひさし、ほそし、わづか。
 【徧】 漢 ビ ①しのび歩き。②こまか。③こまかにてうたふ。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。

【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。



(子塵微)

【微塵子】ミシヨ 體は蝦の幼蟲に似て小さく背に楯状の二つの殻があり左右から體を掩ひ鹹水にも淡水にもすむ節足動物である。
 隱微イン 溼微イン 明微メイ 織微セン
 紫微シ 少微セウ 扶微フ 貧微ヒン
 輕微ケイ 細微サイ 精微セイ 衰微シキ
 密微ミツ 寒微ハン 賤微セン 至微シ
 【徧】 漢 ケイ ①まつ(待)②こまち 吳 ガイ (候)
 【徧】 九三〇頁の徧を見よ。
 【徧】 一七九頁の徧を見よ。
 【徧】 漢 吳 ①めす。②チヨウチ(召)めし(兆)き、め。③あかし(證據)あきらか(五音の一)。
 【同訓異義】 もとむ 徧・求・需其他の用法は五七九頁の求を見よ。

【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。

【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。
 【徧】 漢 ビ ①かすか。吳 ミ (幽)ほのか、くらし(不明)ちひさし(小)こまかし(細)すくなし(少)ひそか(密)しのび(忍)いやし(賤)ひみじ、たへ、精妙(おとろふ)衰(トそく)殺(チウ)か(ふ(偵察)か)かくす(匿)おほふ(覆)あらす(非)なし(無)なかりせば(かすかに、ひそかに)。